

大 紀 町

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和5年度版三重県市町要覧による）

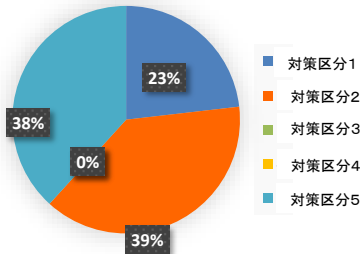
市町名	大紀町	三重県
人口（人）	6,808	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	5.9%	11.6%
森林面積(ha)	21,132	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	20,406	348,561.87
森林率(%)	91.0%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	13.9	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	1	渓流倒木等処理事業	3,003,000	3,003,000	3,003,000					
2	2	生活環境林整備事業	4,999,500	4,999,000		4,999,000				
3	5	大平つつじ山整備事業	4,959,900	4,955,000					4,955,000	
				0						
計			12,962,400	12,957,000	3,003,000	4,999,000	0	0	4,955,000	0

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	—	—	—	
災害からライフラインを守る事前伐採事業	142本	5,124,482	2,500,000	伐採調査441本、伐採施工142本、立木補償274本
県民参加の植樹祭事業	—	—	—	

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	大紀町は、大台山系に連なる山岳地帯に属しており急峻な地形で、本町面積23,332haのうち森林面積が21,132haとなっており、91%を占めている。そのうち人工林が13,900haと人工林率は68%に達している人工林地帯である。本町では、基本方針1の「災害に強い森林づくり」を強力に進めるため、生活環境林整備事業と渓流倒木等処理事業を実施し、町民生活の安全安心を向上させていくと共に、大雨時における森林内の危険木流出による被害拡大を軽減させるため、河川上流部に位置する大紀町としての役割を果たすことで、県民全体の安全安心に繋げていく。また、三重県の景勝地に指定されている『大平つつじ山』において、イベントや森林環境教育を行う場として整備を促進していく。
事業実施により期待される効果	渓流内倒木等の危険木や土砂を渓流外へ搬出及び流出対策を実施し、危険木が下流域へ流出すること及び、渓流外への越水等の影響を防ぐことで、災害の発生や増幅の可能性を低下させることにより、下流域住民の安全を図ると共に、倒木等の恐れがある危険木を除去することにより、地域住民や道路等施設利用者の安全を確保し、安全安心な住民生活の向上が期待できる。また、大平つつじ山の環境整備により、ツツジの開花状況が良くなり、利用者数が増加する。
情報発信への取組	事業実施については、森林所有者や地区代表者に税事業での実施を説明したい。 事業実施中は、県民税のばりを事業箇所を立て、県民税での事業実施をPRしている。 事業完了、当年行った事業においてPRポスターを作成し、庁舎掲示及び大紀町HPにアップ、町広報紙に掲載し税事業のPRを行う。

年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	③ 私有林整備	64,457	64,393
2	④ 公有林整備（財産区有林含む）	792	792
3	⑦ その他（森林整備）	277	277
4	⑧ 担い手確保	600	600
5	⑨ 林業就業者の育成	220	220
6	⑩ 専門員の雇用	3,729	2,236
7	⑫ その他（人材育成等）	1,755	1,755
8	⑰ 基金積立（木材利用等）	33,000	33,000
9			
10			
	合計	104,830	103,273

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	渓流倒木等処理事業				
事 業 費	3,003,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,003,000	0	0

1. 事業の目的

過去の台風や豪雨により発生した山間部渓流添いの倒木や流木は今後豪雨が発生した際には、下流へ流出する可能性があり、自然災害を増幅させることが予想される。そのため、継続して倒木、流木の伐採・除去及び、小規模な渓流内への異常堆積土砂の流出対策を行うことにより、自然災害の拡大を抑制させる。

2. 事業の実績

【事業内容】

山間部渓流添いの危険倒木、流木等を伐採・除去（渓流外に搬出及び流出対策を実施）する。（県事業以外の小規模対象）

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

大紀町

【実施箇所及び箇所数】

8箇所

【事業量】

永会成谷山地区：危険木20本、永会西河内地区：危険木10本、崎大平原地区：危険木15本、崎キワダ地区：危険木10本、崎栃子地区：危険木10本、崎羽下谷地区：危険木20本、錦浅ヶ谷地区：異常堆積土砂撤去 1箇所、大内山藤放地区：危険木 5 本（巨木）

計8箇所 危険木90本、異常堆積土砂撤去 1箇所

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない	—	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

現地及び事業に精通した大紀森林組合を選定した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり		市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
------	-------------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	溪流倒木等処理事業				
事 業 費	3,003,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,003,000	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

溪流内倒木等の危険木や流木を除去することにより、危険木が下流域へ流出し、橋梁等への衝突及び堆積の危険性を減少させ、溪流外への越水等の影響を防ぐことで、災害の発生や増幅の可能性を低下させることにより、下流域住民の安心・安全が向上した。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

倒木や流木の処理と共に、溪流内の異常堆積土砂の流出対策等を行うことにより、総合的に下流域の安心。安全が向上した。

【新たな対策・視点及び改善点】

当初からの継続事業で、地域住民からの要望も多く、今後も計画的に事業を行っていく。また、台風等が発生し緊急的に撤去が必要な場合も、危険性等を考慮し対応していく。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	170戸
期待する波及効果	地区住民だけでなく、不特定多数の受益が見込まれる。

【公的関与の必要性】

森林所有者による整備が困難なため、町による緊急性の高い箇所を整備する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者に税事業での実施を説明する際に、その他目的に転用しないよう説明した。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	施業中に実施箇所にのぼりを設置し、県民税での実施を周知する。
ポスター掲示	実施後	当該年度実績を庁舎内に掲示し、県民税での実施を周知する。
HP掲載	実施後	当該年度実績を大紀町HPに掲載し、県民税での実施を周知する。
広報誌掲載	実施後	当該年度実績を広報たいぎに掲載し、県民税での実施を周知する。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
------	-------------------------	-----	-----	---------	----

事業名	溪流倒木等処理事業
-----	-----------

6(1). 写真



写真1

大紀町永会藤地内溪流内に在する危険木

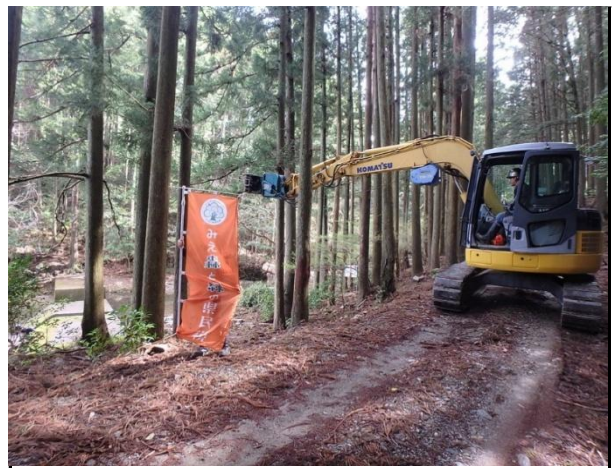


写真2

大紀町永会藤地内溪流内に在する危険木作業中



写真3

大紀町永会藤地内溪流内に在する危険木撤去後



写真4

大紀町崎大平地内溪流内に在する危険木



写真5

大紀町崎大平地内溪流内に在する危険木作業中



写真6

大紀町崎大平地内溪流内に在する危険木撤去後

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
------	-------------------------	-----	-----	---------	----

事業名	溪流倒木等処理事業
-----	-----------

6(1). 写真



写真1

大紀町崎羽下地内溪流内に在する危険木



写真2

大紀町崎羽下地内溪流内に在する危険木作業中



写真3

大紀町崎羽下地内溪流内に在する危険木撤去後



写真4

大紀町錦浅ヶ谷地内溪流内に異常堆積する土砂



写真5

大紀町錦浅ヶ谷地内溪流内に異常堆積する土砂作業中



写真6

大紀町錦浅ヶ谷地内溪流内に異常堆積する土砂撤去後

【様式集②】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
------	-------------------------	-----	-----	---------	----

事業名	溪流倒木等処理事業
-----	-----------

6(2).補助事業者取組一覧

[illegible]

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
事業名	渓流倒木等処理事業				

6(3).その他

大紀町役場 産業振興課 玄関の県民税コーナーにて実績を掲示



掲示内容（ホームページも同様に周知）



令和7年度

みえ森と緑の県民税市町交付金事業実施状況

- 1. 渓流倒木等処理事業**
- 2. 生活環境林整備事業**
- 3. 大平つつじ山整備事業**
- 4. ライフライン事前伐採事業**

みえ  と  の 県 民 税

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
事業名	渓流倒木等処理事業				

6(3).その他

2. 生活環境林整備事業

事業の目的：公共施設や通学路等の、生活に支障を及ぼす恐れのある危険木を除去し、暮らしの安全を図る

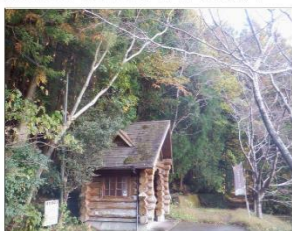
大宮小学校敷地にかかる危険木（枯松、雑木）

危険木の除去により、地域住民の安心安全が向上しました。



大紀町錦地内の町営墓地にかかる危険木

危険木の除去により、地域住民の安心安全が向上しました。



この事業により、上記2箇所と外5箇所で合計約150本の危険木を除去し住民の皆様の安心安全が向上しました。



2. 生活環境林整備事業

事業の目的：公共施設や通学路等の、生活に支障を及ぼす恐れのある危険木を除去し、暮らしの安全を図る

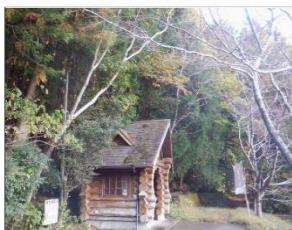
大宮小学校敷地にかかる危険木（枯松、雑木）

危険木の除去により、地域住民の安心安全が向上しました。



大紀町錦地内の町営墓地にかかる危険木

危険木の除去により、地域住民の安心安全が向上しました。



この事業により、上記2箇所と外5箇所で合計約150本の危険木を除去し住民の皆様の安心安全が向上しました。



対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
事業名	渓流倒木等処理事業				

6(3).その他

3. 大平つつじ山整備事業

事業の目的：三重県の景勝地に指定されている大平つつじ山をイベント等を通じて森林環境教育を行える場として必要な環境整備を行っていき、ツツジの開花状況も図っていく

雑木が繁茂し、ツツジより背丈が大きくなり管理できていない状況

環境整備（雑木伐採除去）0.4haを実施しツツジの開花が確認できるようになりました。



雑木伐採し、ツツジを捕植しました。



令和6年度に整備した道路法面の緑化を行いました。



この事業により、大平つつじ山の環境整備を0.4ha（雑木伐採等）を行いました。引き続き大平つつじ山の環境整備を行い、森林環境教育の場として整備していきます。



4. ライフライン事前伐採事業

事業目的：災害からライフラインを守る事前伐採事業により、倒木の発生を抑え、ライフラインの寸断を防止し、災害等の緊急時における住民の皆様安全・安心な暮らしを守ることを図る。



この事業により、大紀町永会（木屋）東河内地区の七保中央浄水場へ架かる配電線の危険木を事前伐採し、台風等の災害に伴う倒木による配電線断線の防止を図りました。尚、令和8年度以降も、継続し事前伐採する予定としています。この事業は市町が実施し、事業費を町（みえ森と緑の県民税市町交付金）と配電事業者と1/2ずつ負担しています。



対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
------	-------------------------	-----	-----	---------	----

事業名	溪流倒木等処理事業
-----	-----------

6(3).その他

その他周知について

・大紀町ホームページ [みえ森と緑の県民税で実績を周知](#) 左記QRコード

URL: [みえ森と緑の県民税／大紀町ホームページ](#)



みえ森と緑の県民税

更新日：2026年05月08日

森林は土砂災害の防止、水源のかん養など私たちの生活に欠かすことのできない大切な働きを持っています。

しかし、山村地域では過疎化などにより手入れが不足した荒廃森林が増えており、ゲリラ豪雨など異常気象が増加していることも考え合わせると、自然災害の発生リスクが高まっていると考えられます。

皆さんの生命・財産を守る「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、皆様のご理解・ご協力をお願いします。

「みえ森と緑の県民税」のしくみ等については、三重県のホームページをご覧ください。
※「[みえ森と緑の県民税](#)」(県税のページ)へ

「みえ森と緑の県民税」の使いみちについて

○土砂や流木による被害を出さない森林づくり

土砂や流木によって人家や公共施設、沿岸及び漁業等に被害が及ばないように、洪水緩和や土砂災害防止機能等の森林の働きを発揮させるために必要な対策を進めます。

○暮らしに身近な森林づくり

生活環境の保全や向上のため、県民の暮らしにかかわりの深い森林について必要な対策を進めます。

○森を育む人づくり

「災害に強い森林づくり」を将来に引き継ぎ、また森林やみどりを大切に思い・育む人づくりの為、森林環境教育・木育に携わる人材の育成や、教育活動を進めます。

○森と人をつなぐ学びの場づくり

未就学児や児童生徒をはじめ、様々な県民の森林や木材について学ぶ・ふれあう場を提供し、森と県民との関係を深める対策を進めます。

○地域の身近な水や緑の環境づくり

地域の身近な水や緑の環境づくりを進めるため、森・川・海のつながりを意識した森林や緑、水辺環境を守り、生物多様性を保全する活動支援や、森林や緑と親しむための環境整備等、身近な緑や水辺環境と県民との関係を深める対策を進めます。

大紀町で実施した「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」の紹介

[令和7年度実施事業 \(PDFファイル: 3.9MB\)](#)

[令和6年度実施事業 \(PDFファイル: 788.6KB\)](#)

[令和5年度実施事業 \(PDFファイル: 5.1MB\)](#)

[令和4年度実施事業 \(PDFファイル: 1.8MB\)](#)

[令和3年度実施事業 \(PDFファイル: 2.0MB\)](#)

[令和2年度実施事業 \(PDFファイル: 2.2MB\)](#)

[平成26年度実施事業 \(PDFファイル: 485.0KB\)](#)

この記事に関するお問い合わせ先

産業振興課
〒519-2703 三重県度会郡大紀町滝原1610番地1
電話番号：0598-86-2243
ファックス：0598-86-3690
[メールフォームによるお問い合わせ](#)

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
------	-------------------------	-----	-----	---------	----

事業名	溪流倒木等処理事業
-----	-----------

6(3).その他

その他周知について

・町広報誌での実績紹介

左記QRコード

6月号にて周知予定

URL: [広報たいき 令和8年分／大紀町ホームページ](#)



原稿

みえ森と緑の県民税 令和7年度実績の紹介



大紀町では、三重県から交付される「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用し事業を行っています。
令和7年度に大紀町が行いました事業実績をお知らせします。

溪流倒木等処理事業

この事業は溪流沿いの倒木や流木などを除去を行い、下流への流出を防止することで災害の拡大を抑制することを目的としています。令和7年度において8箇所の倒木や異常堆積した土砂を除去しました。

溪流内に横たわる危険木



除去後



生活環境林整備事業

この事業は、公共施設裏や、通学路等にかかる危険木を除去を行い、通常の暮らしの安全を図ることを目的としています。令和7年度において、7箇所の危険木を除去しました。

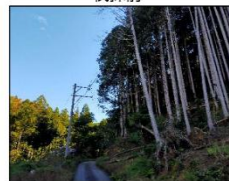
大平つつじ山整備事業

三重県の景勝地に指定されている大平つつじ山の環境整備を行い、景観やつつじの開花状況の改善と、イベントや散策など利用しやすい環境づくりを目的としています。令和7年度において、つつじを隠すほど大きくなった雑木を除去し、0.4haの環境整備を行いました。また、つつじの植栽などの緑化を行いました。今後も環境整備を進めていきます。

災害からライフラインを守る事前伐採事業

この事業は、配電線等のライフライン周辺の立木を事前伐採し、台風時の倒木による配電線の寸断を防止し、災害時における住民の皆様の安全・安心な暮らしを守ることを目的としています。令和7年度において、永会木屋の七保中央浄水場にかかる配電線付近の立木を一部伐採しました。

伐採前



伐採後



大紀町 HP にて、大紀町で行った事業を掲載していますのでご覧ください。
QRコードより、大紀町みえ森と緑の県民税紹介ページをご覧ください。



問い合わせ 産業振興課 TEL0598-86-2246

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	生活環境林整備事業				
事 業 費	4,999,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,999,000		500

1. 事業の目的

公共施設や生活道路（通学路等）沿い及び人家裏等の倒木の恐れのある危険木を除去し、通常の暮らしの安全を図る。

2. 事業の実績

【事業内容】

公共施設や生活道路（通学路等）沿い及び人家裏等の倒木の恐れのある危険木を除去する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

大紀町

【実施個所及び箇所数】

7箇所

【事業量】

野原高咄地区：危険木10本、滝原金山(大宮小学校裏)地区：危険木50本、崎寺道地区：危険木30本、崎大平地区：危険木10本、錦浅ヶ谷地区：危険木20本、大内山松原地区：危険木15本、大内山大平谷地区：危険木15本

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない	—	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

現地及び事業に精通した大紀森林組合を選定した。

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	生活環境林整備事業				
事 業 費	4,999,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,999,000		500

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

倒木等の恐れがある危険木を除去することにより、地域住民や道路等施設利用者の暮らしの安全を確保し、安全安心な住民生活の向上が期待できる。また、台風等の非常時における道路の通行止め等のリスクを下げ、住民避難時の安全性が確保できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

地区住民等からの要望により事業実施しているが、特に危険度が高く緊急を要する箇所、中でも公共性があり事業効果が発揮できる場所を優先しながら計画的に実施している。

【新たな対策・視点及び改善点】

当初からの継続事業で、地域住民からの要望も多く、今後も計画的に事業を行っていく。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	158戸
期待する波及効果	地区住民だけでなく、不特定多数の受益が見込まれる。

【公的関与の必要性】

土地所有者や森林所有者による整備が困難なため、町による緊急性の高い箇所を整備する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

土地所有者や森林所有者に税事業での実施を説明する際に、その他目的に転用しないよう説明した。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	施業中に実施箇所にのぼりを設置し、県民税での実施を周知する。
ポスター掲示	実施後	当該年度実績を庁舎内に掲示し、県民税での実施を周知する。
HP掲載	実施後	当該年度実績を大紀町HPに掲載し、県民税での実施を周知する。
広報誌掲載	実施後	当該年度実績を広報たいぎに掲載し、県民税での実施を周知する。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

6(1). 写真



写真1

大紀町立大宮小学校裏の危険木(枯松、雑木)



写真2

大紀町立大宮小学校裏の危険木作業中



写真3

大紀町立大宮小学校裏の危険木除去後



写真4

大紀町崎宮原地内通学路の危険木



写真5

大紀町崎宮原地内通学路の危険木作業中



写真6

大紀町崎宮原地内通学路の危険木除去後

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

6(1). 写真



写真1

大紀町錦浅ヶ谷地内人家裏に在する危険木



写真2

大紀町錦浅ヶ谷地内人家裏に在する危険木作業中



写真3

大紀町錦浅ヶ谷地内人家裏に在する危険木除去後

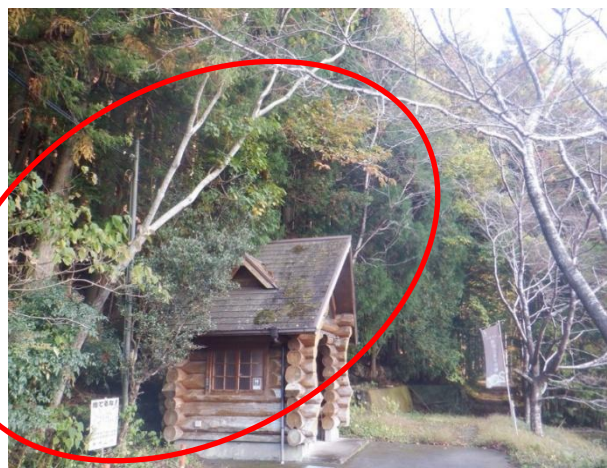


写真4

大紀町大内山間弓地内生活道路沿いの危険木



写真5

大紀町大内山間弓地内生活道路沿いの危険木作業中



写真6

大紀町大内山間弓地内生活道路沿いの危険木除去後

【様式集②】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

6(2).補助事業者取組一覧

[illegible]

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	大平つつじ山整備事業				
事 業 費	4,959,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,955,000	0	4,900

1. 事業の目的

三重県の景勝地に指定されている『大平つつじ山』は、地元住民による環境整備が行われているが、イベント等を通じて森林環境教育を行える場として必要な遊歩道の整備や下刈りを行い、継続的に環境整備を行っていく。また、環境整備によるツツジの開花状況の改善も図っていく。

2. 事業の実績

【事業内容】

森林環境教育を行う場として必要な『大平つつじ山』の環境整備（下刈り、遊歩道整備等）を行い、植栽等イベントによる森林環境教育の場を整備していく。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

大紀町

【実施個所及び箇所数】

大平つつじ山 1箇所

【事業量】

イベントや森林環境教育を実施するための場所の整備 雑木等除去 A=0.40ha

【環境整備全体計画A=5.4ha、遊歩道全体計画 L=373m（必要最小限での幅員）】

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	建設業者	補助事業ではない	—	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

現地に精通し、過去のイベント実施や環境整備を行っていた地元建設業者を選定した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
3	大平つつじ山整備事業				
事業費	4,959,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,955,000	0	4,900

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

環境整備により、利便性が向上するほか、ツツジの開花状況が良くなり、利用者数が増加に伴い、より多くの人に森林の大切さについて理解向上が図れる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

緑化基金事業によるツツジの植栽、中国青年公益事業交流団による植樹活動を当地で実施し、県民税の意義説明やPRを行った。「森の先生(森林組合職員)」を講師に迎えて行った森林教育出前授業については、今年度は小学校での実施となったが、今後は当つつじ山にて実施していく予定であり、森林環境教育活動の場とし

【新たな対策・視点及び改善点】

三重県の景勝地として指定されており、長年の間地元住民でのイベント等を通じて環境整備を行ってきたが、森林環境教育を通じて、地元住民や小中学校と連携した環境整備の取り組みを実施していく。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	—
期待する波及効果	地区住民だけでなく、不特定多数の受益が見込まれる。

【公的関与の必要性】

長年地元住民による保全活動やイベント等行い、観光資源としての整備を行ってきたが、地域住民の減少や高齢化が進み、住民団体では環境整備活動ができない状況である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

地域住民団体の再活動を促し、観光協会や小中学校と連携を図りながら環境整備に取り組むと共に、地域住民や一般来場者に憩いの場として提供する。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	施業中に実施箇所にのぼりを設置し、県民税での実施を周知する。
ポスター掲示	実施後	当該年度実績を庁舎内に掲示し、県民税での実施を周知する。
HP掲載	実施後	当該年度実績を大紀町HPに掲載し、県民税での実施を周知する。
広報誌掲載	実施後	当該年度実績を広報たいぎに掲載し、県民税での実施を周知する。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

下刈りや除伐を行うことによりツツジの開花状況が良くなり、環境整備が進むと来訪者の増加が見込まれ、地域の活性化につながると喜んでいる。令和8年度にて、環境整備をした箇所において、地域住民を対象に植栽イベントを実施予定。（R7年度は急傾斜箇所であったことから、イベントは断念した）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
事業名	大平つつじ山整備事業				

6(1). 写真



写真1
大平つつじ山R7環境整備前状況。雑木が大きくなりつつじが隠れてしまっている



写真2
R6年度に整備した道路を活用し環境整備を行いつつじ以外の雑木等を除去を行った。



写真3
道路法面緑化前の状況



写真4
R7環境整備後、別事業での法面への種子吹付により緑化を行った



写真5
種子吹付による緑化状況（R8年4月現在）



写真6
R7環境整備を行った箇所への、別事業でつつじを捕植を行った

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
事業名	大平つつじ山整備事業				

6(1). 写真



写真1
環境整備作業中遠景
（人力による雑木除去集積搬出）



写真2
環境整備作業中近景
（人力による雑木除去集積搬出）



写真3
環境整備後、ツツジの花が咲き始めた状況（R8年4月現在）



写真4
環境整備後のツツジ開花状況（R8年4月現在）



写真5
環境整備後のツツジ開花状況（R8年4月現在）



写真6
R8以降も、環境整備により、イベント等を行う箇所として整備を行っていく

【様式集②】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	大平つつじ山整備事業
-----	------------

6(2).補助事業者取組一覧

[illegible]

南 伊 勢 町

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和5年度版三重県市町要覧による）

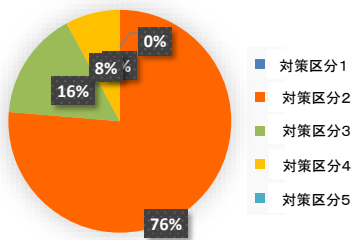
市町名	南伊勢町	三重県
人口（人）	10,039	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	5.4％	11.6％
森林面積(ha)	20,629.00	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	20,429.98	348,561.87
森林率(％)	85.0％	64％
都市公園面積（㎡/人口）＊3	0.2	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	2	危険木除去事業	8,557,900	8,394,000		8,394,000			
2	3	森林環境教育事業	1,760,000	1,729,000			1,729,000		
3	4	三重県産材木 木製品購入事業	889,900	873,000				873,000	
				0					
計			11,207,800	10,996,000	0	8,394,000	1,729,000	873,000	0

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	当町の森林・林業を取り巻く情勢として、総土地面積の約85％（20,630ha）が森林で覆われているにもかかわらず、林業経営体は14経営体しかおらず、林業者が極めて少ない状況となっています。森林の整備についても、整備が行われていない森林が大半であり、森林所有者の関心が低くなっていることが窺えます。そのような状況の中、森林について興味関心が持てるように、公共施設周辺や通学路・避難道等にかかる危険木の除去や、森林環境教育事業による森や海を大切に思う子どもの育成、子どもや町民が森林や木材についてふれあいながら学ぶことができる場づくりなど、町民が将来にわたって安全安心に過ごしながら森や緑と関わる機会を創出することを目的に県民税を活用する。
事業実施により期待される効果	危険木の除去については、自然災害等による倒木を未然に防ぐことで、安全安心して暮らすことに寄与している。 森林環境教育事業については、樹木について知識を得ることや木製品が身近にあることで森と緑の大切さを理解し、森林について考えるきっかけづくりへの寄与を期待している。 木製品購入事業については、日常的に木材製品とふれあうことにより、木製製品のあたたかみを感じることで保育環境の向上につながると考えている。
情報発信への取組	町の広報誌やHP等への掲載することにより、情報発信を行いました。

年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	⑩ 専門員の雇用	9,620	9,620
2	③ 私有林整備	8,840	8,840
3	③ 私有林整備	8,098	8,098
4	⑰ 基金積立（森林整備等）	22,810	22,810
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	49,368	49,368

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	危険木除去事業				
事 業 費	8,557,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			8,394,000		163,900

1. 事業の目的

公共施設の周辺や通学路、避難道等の危険木を除去することで、災害に強い森林づくりを進めるとともに安心安全な街づくりを目指し、地域住民の生活環境の向上を図る。

2. 事業の実績

【事業内容】

地域住民の要望を確認し、公共施設の周辺や通学路、避難道等の危険木の除去を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

南伊勢町（委託契約先：いせしま森林組合）

自治体（補助事業）

【実施個所及び箇所数】

13箇所（槌柄浦・東宮・阿曽浦2ヶ所・田曾浦2ヶ所・五ヶ所浦・伊勢地・大方竈・村山・船越・栃木竈・賛浦）

【事業量】

槌柄浦：人家裏12本、東宮：人家裏30本、阿曽浦①：避難路沿い30本、阿曽浦②：人家裏8本、田曾浦①：人家裏20本、田曾浦②：20本、五ヶ所浦：避難路沿い30本、伊勢地：避難路沿い30本、大方竈：避難路沿い40本、村山：避難路沿い5本、船越：公共施設周辺10本、栃木竈：人家裏70本、賛浦：避難路沿い20本

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		
補助事業	自治会等	1/2以内	上限50万円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
1	危険木除去事業				
事 業 費	8,557,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			8,394,000		163,900

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

- ・町の規定に基づき、度会町・大紀町・大台町の認定林業事業体から、指名競争入札により選定。
- ・危険木伐採補助金として自治会が選定した業者へ支払う金額の1/2（上限50万円）を区へ補助。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

伐採中の道路通行止め等について、地元へ協力をいただき円滑に実施できた。

伐採後の土砂対策について地元の区と協議した。

作業時間帯の調整や事前周知を行うことで、騒音や通行への影響を最小限に抑えた。

【新たな対策・視点及び改善点】

危険な箇所を事前に対策するため、地元と情報交換を行った。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	槌柄浦120人 東宮261人 阿曾浦520人 田曾浦729人 五ヶ所浦1,140人 伊勢地113人 大方竈20人 村山301人 船越470人 栃木竈11人 贅浦348
期待する波及効果	町民の安全安心な生活に寄与している。

【公的関与の必要性】

通学路や避難道等の安全は確保する必要があるが、高齢化も進んでおり、また技術が必要であることや、緊急に実施する必要性があるため、所有者による整備は困難であると考えられる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

通学路や避難道等の安全のための緊急の危険木除去であり、箇所の転用の制限等は設けずに柔軟に対応していきたいと考えている。管理体制については、町や管理者により適切に管理していく。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	今後	みえ森と緑の県民税の説明とともに、令和6年度事業実績として効果が分かりやすいように実施前と実施後の写真と併せて公開する。
広報誌掲載	実施後	みえ森と緑の県民税の説明とともに、効果が分かりやすいように実施前と実施後の写真と併せて公開する。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

地元の区長から感謝の言葉をいただいた。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	危険木除去事業
-----	---------

6(1). 写真



写真1

槌柄浦 実施前



写真2

槌柄浦 実施後



写真3

東宮 実施前



写真4

東宮 実施後



写真5

阿曾浦① 実施前



写真6

阿曾浦① 実施後

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	危険木除去事業
-----	---------

6(1). 写真



写真1

阿曾浦② 実施前



写真2

阿曾浦② 実施後

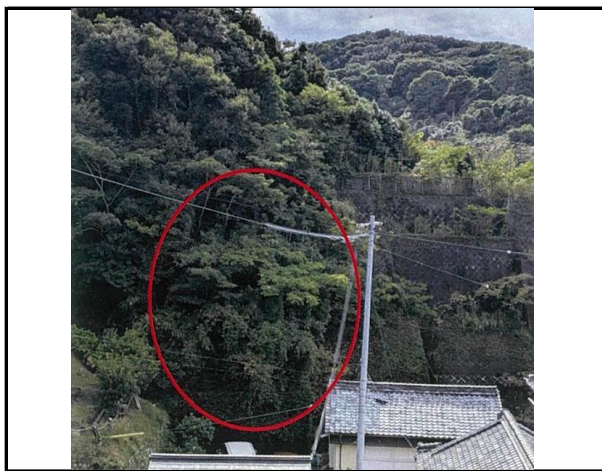


写真3

田曾浦① 実施前

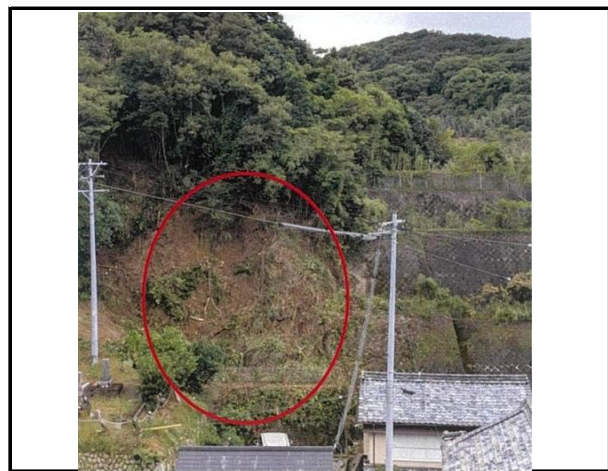


写真4

田曾浦① 実施後



写真5

田曾浦② 実施前



写真6

田曾浦② 実施後

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	危険木除去事業
-----	---------

6(1). 写真



写真1
五ヶ所浦 実施前



写真2
五ヶ所浦 実施後



写真3
伊勢地 実施前



写真4
伊勢地 実施後



写真5
大方竈 実施前

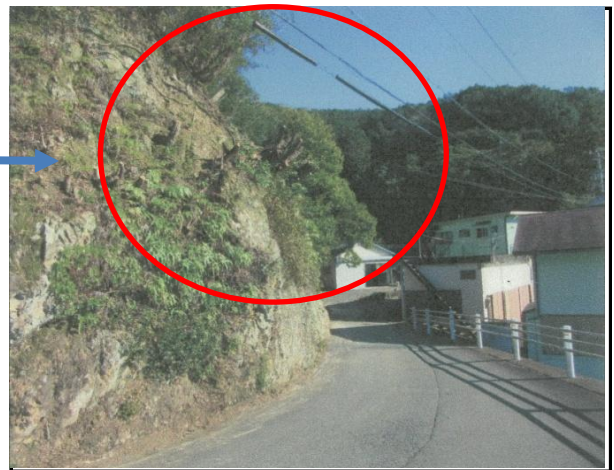


写真6
大方竈 実施後

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	危険木除去事業
-----	---------

6(1). 写真

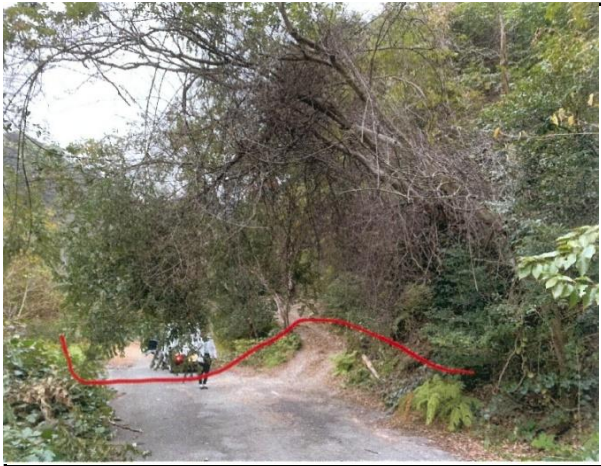


写真1

村山 実施前



写真2

村山 実施後



写真3

船越 実施前



写真4

船越 実施後



写真5

栃木竈 実施前



写真6

栃木竈 実施後

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	危険木除去事業
-----	---------

6(1). 写真

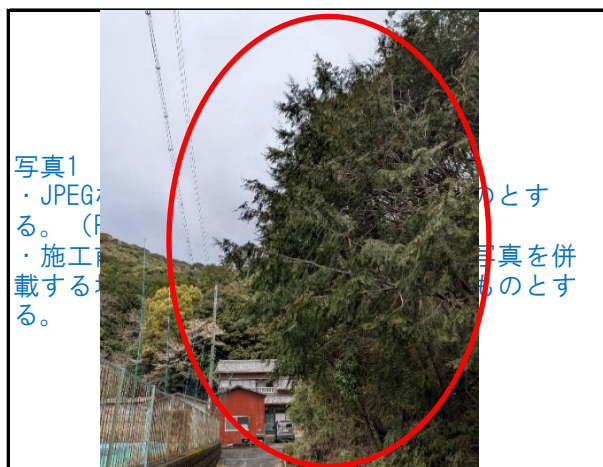


写真1
賛浦 実施前



写真2
賛浦 実施後



写真3



写真4



写真5



写真6

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	森林環境教育事業				
事 業 費	1,760,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,729,000		31,000

1. 事業の目的

森林や緑を大切に思い育む人づくりや、森林への理解を深めるため、小学生を対象に、森林の働きや木材について学びふれあう機会となる森林環境教育を実施する。

2. 事業の実績

【事業内容】

町内の小中学生を対象に、樹木や木製品について学びふれあうことを目的とした森林教育を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

南伊勢町（委託契約先：いせしま森林組合）森林環境教育支援業務
南伊勢町（委託契約先：いせしま森林組合）クップ体験

【実施個所及び箇所数】

5箇所（南島西小学校・南島東小学校・南勢小学校・南島中学校・南勢中学校）

【事業量】

南勢小学校：5年生23名
南島西小学校：1～2年生19名
南島東小学校：1～2年生、6年生20名

南勢中学校：1年生34名
南島中学校：1年生17名 計113名及び学校関係者

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

物品調達については、実績のあるいせしま森林組合を町の規定に基づき、随意契約を行なった。

森林教育の講師は県民税を活用して設立されたみえ森づくりサポートセンターに森のせんせいとして登録がある方を選定した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	--	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
2	森林環境教育事業				
事 業 費	1,760,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,729,000		31,000

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

森林や木材にふれあう機会が少ない現代の子どもたちにおいて、木や緑とふれあう貴重な機会であり、森林に興味を持ってもらえることを期待している。
樹木について興味を持ってもらえることや、木製品を身近に使用することで森や緑について考えてもらうきっかけづくりとなっている。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

森のせんせいに授業をしてもらうことで、森林の働きや仕組みを知ってもらうことに効果を期待できた。また、木にふれたり自分で作る達成感を感じてもらった。

【新たな対策・視点及び改善点】

事業実施の時期について、学校の意向に沿いながらもインフルエンザの流行が低下している時期で実施した。またみなみいせまつりにて新たな取り組みとしてクッパ体験を行い、幅広い年齢層に木に触れ合ってもらえることが出来た。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	南勢小学校：5年生23名 南島西小学校：1～2年生19名 南島東小学校：1～2年生、6年生20名 南勢中学校：1年生34名 南島中学校1年生17名及び学校関係者に対して実施。
期待する波及効果	森や緑を大切に考える子どもの育成

【公的関与の必要性】

通常の授業のほか、総合的な学習として森林環境教育を実施することは、これからの地域を支える子どもたちにとって非常に重要である。また森林環境教育を校外の先生が行うことは、子どもたちの関心が格段に高まるなどの効果が期待できる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林環境教育事業であるため、転用等が想定されず、該当しない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前	みえ森と緑の県民税の説明とともに、令和7年度事業実績として効果が分かりやすいように公開した。
広報誌掲載	実施後	みえ森と緑の県民税の説明とともに、令和7年度事業実績として効果が分かりやすいように公開した。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

実際に見て聞いて触って体験をすることで森林を身近に感じていただく事ができた。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	------	---------	----

事業名	森林環境教育事業
-----	----------

6(1). 写真



写真1

南島東小学校



写真2

南勢小学校



写真3

南島西小学校



写真4

南勢中学校



写真5

南島中学校



写真6

カップ体験（みなみいせまつり）

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	みえ森と緑の県民税市町交付金事業 三重県産材木 木製備品購入事業				
事 業 費	889,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			873,000		16,900

1. 事業の目的

子どもが森林や木材についてふれあいながら学ぶことができる場づくりなど、子どもが将来にわたって安全安心に過ごしながら森や緑と関わる機会を創出することを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

図書室に三重県産木材を使用した木製備品を導入する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

南伊勢町（契約先：いせしま森林組合）

【実施個所及び箇所数】

2箇所（南島ふれあい図書室、南伊勢図書室）

【事業量】

書架片面傾斜1台、書架両面傾斜1台、看板2枚

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	森林組合	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

町の規定に基づき、津以南に本店または営業所を有し、事務用品、保育教材に登録のある業者から、指名競争入札で選定した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	--	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
3	みえ森と緑の県民税市町交付金事業 三重県産材木 木製備品購入事業				
事 業 費	889,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			873,000		16,900

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

南島ふれあい図書室、南伊勢図書室は日常利用される場である。日常的に緑と関わる機会を創出することで、木材のぬくもりを感じてもらい、心身の健康面での効果が期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

日常的に利用されるような備品について導入することで、木材のぬくもりを感じてもらえるように工夫した。また本棚周辺にみえ森と緑の県民税事業の説明と県民税関係の物品を置き啓発に取り組んだ。

【新たな対策・視点及び改善点】

今後は学校、保育所、図書室等に幅広く導入していきたい。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	利用者数	なとうふれあい図書室3,869名	みなみいせ図書室	5,390名
期待する波及効果	木材や森林を身近に感じながら木製備品を利用できる			

【公的関与の必要性】

町が管理する施設であるため。子どもが木材に触れながら活用していただくことを目的に、公的な整備が必要であった。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

公共施設の整備であるため、転用等が想定されず、該当しない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	今後	みえ森と緑の県民税の説明とともに、令和7年度事業実績として効果が分かりやすいように公開する。
標識・標柱等設置	実施中	みえ森と緑の県民税を活用したことがわかる看板を設置した。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

利用者より、木材のぬくもりを感じることができると感謝の声が上がってきている。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	------	---------	----

事業名	みえ森と緑の県民税市町交付金事業 三重県産材木 木製備品購入事業
-----	----------------------------------

6(1). 写真



写真1

片面書架



写真2

両面書架

写真3

写真4

写真3

写真4

写真5

写真6

写真5

写真6

市 張 名

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和7年度版三重県市町要覧による）

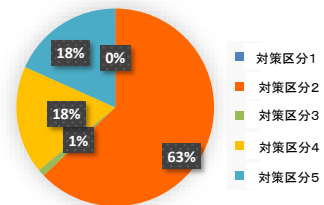
市町名	名張市	三重県
人口（人）	72,439	1,700,207
年少人口割合（％）＊1	11.0%	11.6%
森林面積(ha)	6,827.00	371,680.00
民有林面積(ha)＊2	6,827.00	348,561.87
森林率(％)	52.6%	64.3%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	14.1	11.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	2	危険木伐採事業	4,040,925	4,040,925		4,040,925			
2	2	未利用間伐材バイオマス利用 推進事業	62,075	62,075		62,075			
3	2	人家裏危険木伐採事業	820,000	820,000		820,000			
4	2	森林公園等環境活用整備事業	400,000	400,000		400,000			
5	3	森林環境教育推進事業	100,000	100,000			100,000		
6	4	学校林整備事業	700,000	700,000				700,000	
7	4	子ども若者第三の居場所創生 事業	792,000	792,000				792,000	
8	5	桜並木保全管理事業	400,000	400,000					400,000
9	5	国定公園環境整備事業	1,150,000	1,150,000					1,150,000
10		県産材を使った弓道場改修事 業（基金積立）	4,080,000	0					
計			12,545,000	8,465,000	0	5,323,000	100,000	1,492,000	1,550,000
								4,080,000	

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	15.32ha	4,455,000	4,455,000	間伐作業（赤目野一ノ井、中知山、青蓮寺 地内）
災害からライフラインを守る事前伐採事業	21本	2,000,000	2,000,000	伐採作業（矢川竜口、星川中村、後山、笹谷 線内）
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	名張市は、周囲を山々に囲まれた山間盆地であり、林野率は52.6％、人工林率は65.1％で、森林の主体をなす私有林においては、5ha未満の所有者が全体の52.1％を占めている。特に、南部は森林資源が豊富で、かつては優良な木材を産出する地域であったが、最近の社会情勢の変化に伴い伐採適齢期を過ぎてても放置されている森林が急増し、里山としての利用すらほとんどなくなっている。 しかし、森林の持つ多様な公益的機能は市民にとってかけがえのない財産であり、名張市が目指そうとする「福祉の理想郷づくり」には欠かせない重要な要素であることから、森林の機能低下を防ぎその向上を図るため、災害に強い森林づくりとして森林整備を進めるとともに、市民が森と緑に触れ合う機会を創出し、森を育む人及び学びの場づくりを進める。
事業実施により期待される効果	「災害に強い森林づくり」に沿った事業の実施により、あまり手入れされることなく放置され、市民の生活圏を脅かしていた森林が整備されたことで、市民がより安心して暮らせるようになる。また、森林への関心が高まる今日、「県民全体で森林を支える社会づくり」に沿った事業の実施により、森林環境教育を推進し、次代を担う子どもたちが森林や緑に対する関心を深めることで森林の重要な役割に気付くきっかけづくりとなる。
情報発信への取組	事業内容やその成果については広報誌及びHPにより、広く市民に周知している。また、事業実施現場にはのぼり旗や看板を設置することで、みえ森と緑の県民税の存在を最大限周知できるよう努めた。さらに小学校関連の事業については、教員、保護者、地域住民等もボランティアスタッフ等として広く参加を呼び掛け実施し、財源にはみえ森と緑の県民税が活用されていることを周知した。 その他、3月上旬から始まる確定申告にあわせ、名張市役所1階にみえ森と緑の県民税に関するパネルを展示した。また、パネル展示に併せてみえ森と緑の県民税に関するアンケートを設置し、回答いただいた方にクリアファイル・ハンカチ等のグッズを配布することで、市庁舎を訪れる大勢の方に向けて県民税の周知を行い、アンケート結果から今後の事業改善につなげていくことに努めた。

令和7年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	② 意向調査	8,580	8,580
2	⑦ その他（森林整備）	2,481	2,481
3	⑦ その他（森林整備）	8,635	8,635
4	⑥ 林道・林専道の整備等	1,655	1,655
5	③ 私有林整備	482	482
6	③ 私有林整備	51	51
7	⑩ 専門員の雇用	0	0
8			
9			
10			
	合計	21,884	21,884

令和 7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	危険木伐採事業				
事 業 費	4,040,925 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,040,925	0	0

1. 事業の目的				
市道、通学路等及び市有施設の周辺や緑地（市有地）にあって、倒木の恐れがある危険木の伐採を行い、道路施設・公共施設や市民の財産を保全し、暮らしの安心・安全を確保する。				
2. 事業の実績				
【事業内容】				
市道、通学路、スクールバス通路及び市が所有する公共性・公益性の高い施設（小学校・中学校・保育所・幼稚園・公民館・市民センター・図書館等）の周辺にあって、台風等により倒木の恐れのある危険木の伐採を行った。また、緑地（市有地）にあって、台風等により道路や周辺の人家等に倒木の恐れのある危険木の伐採を行った。				
【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】				
名張市				
【実施個所及び箇所数】				
市内19箇所				
【事業量】				
危険木伐採88本				
3. 事業の実施方法				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】				
実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	造園業者	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
道路に面した森林において、高度な技術を要する特殊伐採を実施するため、地元造園業者等へ委託した。				

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	危険木伐採事業				
事 業 費	4,040,925 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,040,925	0	0

4. 事業の効果・工夫						
【事業実施により期待される効果】 道路施設・公共施設や人家等への倒木を未然に防ぐことにより、市及び市民の財産の保全を図ることができる。 市道の危険木伐採により、台風時等の道路機能の寸断を防ぎ、避難所への経路が確保される。また通学路等の危険木伐採により子供たちの通学の安全・安心が確保される。さらに、公共・公益施設周辺の危険木伐採により、子供たちの学校等での生活における安全・安心と公民館等利用者の安全・安心が確保される。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 住民からの要望がある箇所で危険度の高いところを選定し事業を実施した。 【新たな対策・視点及び改善点】 危険木の伐採にあたり一律に根元から伐採することは避けるなど、状況に応じた伐採方法を柔軟に選択する。 【受益者及び、期待する波及効果】 <table border="1"> <tr> <td>受益者</td> <td>危険木伐採箇所を通行する名張市民多数</td> </tr> <tr> <td>期待する波及効果</td> <td>通行人からの波及効果が期待される</td> </tr> </table> 【公的関与の必要性】 道路管理として公的に取り組む必要がある 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 道路管理者が適切に管理する			受益者	危険木伐採箇所を通行する名張市民多数	期待する波及効果	通行人からの波及効果が期待される
受益者	危険木伐採箇所を通行する名張市民多数					
期待する波及効果	通行人からの波及効果が期待される					
5. 情報発信						
【内容】						
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）				
のぼり設置	実施中	事業実施箇所				
パネル展示	実施後	市庁舎、イベント会場				
6. 写真及びその他資料						
別紙のとおり						
7. その他特記事項（受益者の反応等）						

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

6(1). 写真



写真1

市道青蓮寺ダム線地内（施工前）



写真2

市道青蓮寺ダム線地内（施工後）



写真3

すずらん台東4番町地内（施工前）



写真4

すずらん台東4番町地内（施工後）



写真5

百合が丘西1番町地内（施工前）

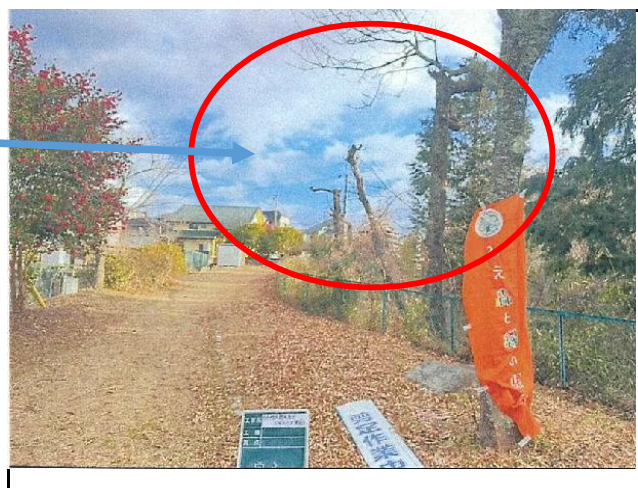


写真6

百合が丘西1番町地内（施工後）

【様式集㉔】第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

6(2).補助事業者取組一覧

補助事業者名	補助金額	取組概要
株式会社ヤマモト	59,400	名張市 百合が丘東1番町 地内
総合建設業ワイズ	297,000	名張市 春日丘 地内
スガコー建設株式会社	66,000	名張市 鴻之台 地内
有限会社タケシン	99,000	名張市 桔梗が丘西1番町 地内
有限会社タケシン	209,000	名張市 東田原 地内
有限会社タケシン	154,000	名張市 すずらん台東4番町 地内
有限会社タケシン	242,000	名張市 池の台西 地内
有限会社タケシン	88,000	名張市 すずらん台西1番町 地内
株式会社ヤマモト	190,300	名張市 つつじが丘北8番町 地内
一般社団法人名張市造園建設業協会	297,000	名張市 つつじが丘北9番町 地内
有限会社タケシン	253,000	名張市 つつじが丘南5番町 地内
株式会社ヤマモト	95,700	名張市 梅が丘南5番町 地内
有限会社タケシン	293,525	名張市 百合が丘西1番町 地内
株式会社ヤマモト	297,000	名張市 つつじが丘北2番町 地内
一般社団法人名張市造園建設業協会	235,400	名張市 青蓮寺 地内
一般社団法人名張市造園建設業協会	299,200	名張市 東町 地内
一般社団法人名張市造園建設業協会	299,200	名張市 南古山 地内
一般社団法人名張市造園建設業協会	295,900	名張市 下比奈知 地内
一般社団法人名張市造園建設業協会	270,300	名張市 中知山 地内

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事 業 費	62,075 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			62,075	0	0

1. 事業の目的

森林所有者による未利用間伐材の利用を推進することにより、木質バイオマス資源の活用を図ると共に、森林の健全化を図る。

間伐材の搬出困難等で森林内に放置されている未利用間伐材を名張市内の森林から搬出及び運搬する経費を助成することで搬出を促進し、木質バイオマス燃料として活用するとともに、森林の持つ多面的機能の向上を図る。

2. 事業の実績

【事業内容】

木質バイオマスの利用促進を図るため、未利用間伐材を名張市内の山林から伊賀管内のF I Tに基づく木質バイオマス燃料買取実施場所までの搬出及び運搬に要する経費を助成した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

事業に参画する林家

【実施個所及び箇所数】

補助事業実施者：4名

整備が行われた山林：4箇所

【事業量】

未利用間伐材の搬出 24.83t

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	個人	定額補助	2,500円/t	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった個人を対象とした。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事 業 費	62,075 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			62,075	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

- ・利用率の低い未利用間伐材のバイオマス資源利用が推進される。
- ・森林の健全化、未利用残材の処理を推進することにより災害時の林地残材の流失防止に繋がる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

特になし

【新たな対策・視点及び改善点】

特になし

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市民・県民多数
期待する波及効果	森林整備が行われることによる森林の多面的機能の向上

【公的関与の必要性】

木材価格が下落した昨今において、木材の搬出に公的関与が必要となる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

林家個人が適切に管理する。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

6(1). 写真



写真1

伐採前写真



写真2

伐採後写真



写真3

搬出状況写真



写真4

搬入状況写真



写真5

搬出状況写真



写真6

搬入状況写真

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

6(2).補助事業者取組一覧

補助事業者名	補助金額	取組概要
個人	46,800	未利用間伐材のバイオマス利用補助
個人	1,075	未利用間伐材のバイオマス利用補助
個人	19,550	未利用間伐材のバイオマス利用補助
個人	3,650	未利用間伐材のバイオマス利用補助

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名					
3	人家裏危険木伐採事業					
事 業 費	820,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			820,000	0	0	

1. 事業の目的				
人家裏にある危険木を伐採することで、災害を未然に防止し住民の通常の暮らしの安心・安全を図る。				
2. 事業の実績				
【事業内容】 人家裏にあり、災害時等に倒木の危険がある木で、おおむね樹高が人家と木との距離以上の木の伐採について、伐採に要する費用のうち1本あたり10,000円以内で助成を行った。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 地域住民 7戸 【実施個所及び箇所数】 7 件 【事業量】 82本の危険木を伐採				
3. 事業の実施方法				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】				
実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	個人	定額補助	1件 上限 300,000円 1本あたり10,000円以内	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】 申請があった個人を対象とした。				

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	人家裏危険木伐採事業				
事 業 費	820,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			820,000	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

災害時等に人家に危険を及ぼす恐れのある樹木の伐採により、災害を未然に防止し、住民の通常の暮らしの安心・安全が確保される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

特になし

【新たな対策・視点及び改善点】

特になし

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市民・県民多数
期待する波及効果	森林整備が行われることによる森林の多面的機能の向上

【公的関与の必要性】

市民の生命及び安全な暮らしを守るために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

個人が適切に管理する。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施前	市の広報誌（広報なばり）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

6(1). 写真



写真1

赤目町一ノ井地内（施工前）



写真2

赤目町一ノ井地内（施工後）

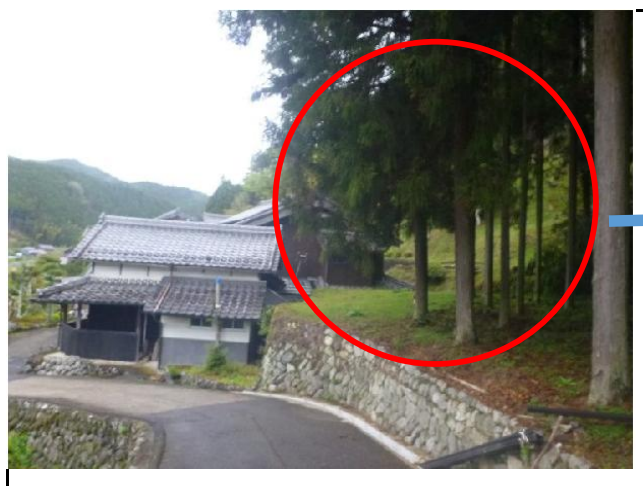


写真3

長瀬地内（施工前）



写真4

長瀬地内（施工後）



写真5

黒田地内（施工前）



写真6

黒田地内（施工後）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

6(2).補助事業者取組一覧

補助事業者名	補助金額	取組概要
個人	300,000	30本
個人	20,000	2本
個人	200,000	20本
個人	50,000	5本
個人	30,000	3本
個人	150,000	15本
個人	70,000	7本

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
4	森林公園等環境活用整備事業				
事 業 費	400,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			400,000	0	0

1. 事業の目的				
市民の憩いの場である森林公園などを地域住民らによるボランティアで整備することにより、住民の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、自然に親しむ豊かな生活環境を作る。				
2. 事業の実績				
【事業内容】 事業内容は次の通り。 ①桔梗が丘地内の森林公園：森林環境教育や地域のイベントなどに利用できるよう、地域内の自然公園において、枯れ木の伐採処理、自然植生の保護、遊歩道の整備、除草作業等を行い、保全管理作業を行った。 ②西田原ふるさと公園内の雑木の伐採、草刈り等の整備を行い、景観が良くなるようにした。 ③東山ふれあいの森：多くの住民が自然に親しむ公園として利用できるよう、遊歩道及び東屋周辺における立木の剪定、除去、除草作業を行った。 ④箕曲地内の森林：箕曲地内の森林（箕曲小学校付近）を森林公園として利用できるよう、遊歩道の整備、古木の管理、地域住民参加で植樹を行った。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 市内地域づくり組織（ひなち地域ゆめづくり委員会、桔梗が丘自治連合協議会、箕曲地域づくり委員会、薦原地域づくり委員会） 【実施個所及び箇所数】 市内4箇所 【事業量】 桔梗が丘地内の森林公園 枯れ木の伐倒処理、自然植生の保護、遊歩道の整備、除草作業、植樹（14名のスタッフにて年間19回の保全活動） 西田原ふるさと公園 雑木の伐採、草刈り（作業人数：区役員6名、神社役員3名） 東山ふれあいの森 遊歩道付近における立木の剪定、除去、除草作業（作業人数12名） 箕曲地内の森林 遊歩道の整備、古木の管理、地域住民参加で植樹（延べ作業人数30名）				
3. 事業の実施方法				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】				
実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	定額補助	上限300,000円	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
申請があった地区を対象とした。				

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
4	森林公園等環境活用整備事業				
事 業 費	400,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			400,000	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

森林公園の整備を住民主体の地域づくり活動の一環として実施することにより、森林への理解、関心、愛着や親しみが生まれ、それによって優しく森林公園を利用し、市民が心豊かな生活が送れることができる環境が整備される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

住民が自ら事業を実施することで森林が身近に感じられるよう工夫した。

【新たな対策・視点及び改善点】

市民が利用しやすいように市内の森林公園の大半が当事業によって整備され、また利用する市民も多いため今後も継続して実施する必要がある。整備内容について、税の趣旨に対する位置づけを明確にするとともに、広報などを利用し広く市民に向けて情報発信を行う。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	地域住民及び公園利用者並びにボランティア参加者 約36,600人
期待する波及効果	地域住民からの波及効果が期待される

【公的関与の必要性】

森林公園は地域協議会等が管理しているが、管理費用等は協議会負担であり、整備を充実させるためには公的関与が必要となる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

購入した備品は公園管理にのみ使用し、地域協議会等が適切に管理する

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ポスター掲示	実施後	市のホームページ
のぼり設置	実施中	事業実施箇所
パネル展示	実施後	市庁舎、イベント会場

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林公園等環境活用整備事業
-----	---------------

6(1). 写真

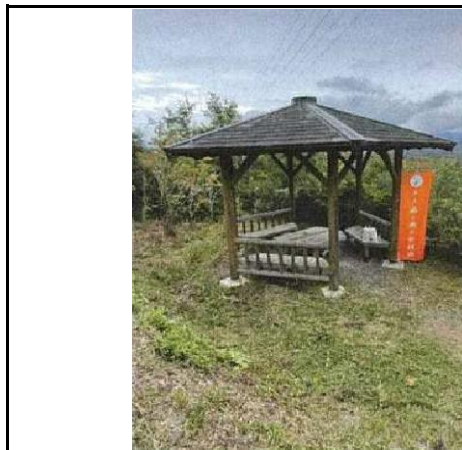


写真1

東山ふれあいの森（ひなち地域ゆめづくり委員会）



写真2

東山ふれあいの森（ひなち地域ゆめづくり委員会）



写真3

森林公園での作業の様子（桔梗が丘自治連合協議会）



写真4

森林公園での作業の様子（桔梗が丘自治連合協議会）



写真5

西田原ふるさと公園（薦原地域づくり委員会）



写真6

西田原ふるさと公園（薦原地域づくり委員会）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林公園等環境活用整備事業
-----	---------------

6(1). 写真



写真1
箕輪地域内の森に植える苗（箕輪地域ゆめづくり委員会）



写真2
箕輪地域内の森に植える苗（箕輪地域ゆめづくり委員会）



写真3
箕輪地域内植樹（箕輪地域ゆめづくり委員会）



写真4
箕輪地域内植樹（箕輪地域ゆめづくり委員会）



写真5
箕輪地域内植樹（箕輪地域ゆめづくり委員会）



写真6

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林公園等環境活用整備事業
-----	---------------

6(2).補助事業者取組一覧

[illegible]

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	森林環境教育推進事業				
事 業 費	100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			100,000	0	0

1. 事業の目的				
全国的に森林環境教育の重要性が高まる中で、初等教育の過程において森林・自然への理解や関心を高めるため、小学校と地域づくり組織が共同で森林教育を行う。				
2. 事業の実績				
【事業内容】 市内小学校が実施する、森林公園・学校林等でのフィールドワーク等の体験型学習及び森林の公益的機能に関する学習会等、森林環境教育として相応しい活動内容の事業に対し、活動費用の補助を行った。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 市内地域づくり組織（桔梗が丘自治連合協議会） 【実施個所及び箇所数】 1校（桔梗が丘東小学校） 【事業量】 1校 補助事業費：100,000円				
3. 事業の実施方法				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】				
実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	定額補助	1件当たり 100,000円	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】 申請があった団体を対象とした。				

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	森林環境教育推進事業				
事 業 費	100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			100,000	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

森林環境教育を受けた子ども達が、森林・自然への理解と関心を深めることができる。活動経費の補助により森林環境教育を実施する機会が増加する。

また、本事業を実施するにあたりボランティアスタッフも森林・自然への理解と関心を深める機会となり、地域づくり組織が率先して地域の小学生と交流する場となる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

地域住民への波及効果を期待しできるだけ多くのボランティアスタッフに協力いただいている。

【新たな対策・視点及び改善点】

森林教育を通して、小学生、保護者が地域づくり組織と交流する場が確保されることは、地域にとって有意義な活動であるとともに、初等教育において里山等への関心を深める活動は貴重な経験となる。クイズラリーに関しては、毎年異なった問題が出題されており、地域づくり組織の工夫も感じられる。また、記念品として、参加した小学生に間伐材を利用して製作したコースターの贈呈を行ったり、事業完了後、事業内容や参加した小学生の感想等をまとめた冊子の制作も行っている。これらのことから、今後も継続して実施する必要がある。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	桔梗が丘東小学校(4～5年生)児童70名、教員及びボランティアスタッフ約49名
期待する波及効果	保護者等への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

森林環境教育を充実させるために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施前・中・後	実施箇所（森林公園内）
のぼり設置	実施中	実施箇所（森林公園内）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場
啓発物品配布	実施中	間伐材を利用して製作したコースター
アンケート実施	実施後	小学生を対象に感想をとりまとめて冊子を製作

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育推進事業
-----	------------

6(1). 写真



写真1

フィードワーク出発前（11/19）



写真2

フジバカマとアサギマダラの話（11/19）

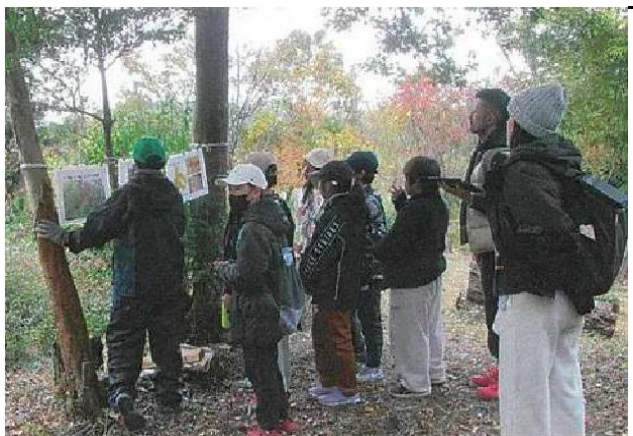


写真3

コナラ枯と病原菌の話（11/19）



写真4

クイズラリーの状況（11/19）

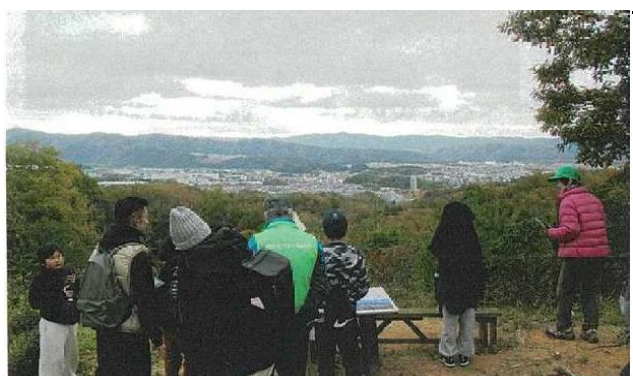


写真5

頂上にて（11/19）



写真6

分かれ道でスタッフと（11/19）

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続 の別	継続
------	-------------------	-----	-----	-------------	----

番 号	事 業 名				
6	学校林整備事業				
事 業 費	700,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			700,000	0	0

1. 事業の目的

これまで放置され、荒廃が進んでいる学校林を整備することにより、小学生が学校生活において森林に親しむ豊かな環境を再生し、森林や緑に対する理解を深める場として活用する。

2. 事業の実績

【事業内容】

事業内容は次の通り。

①薦原小学校林：薦原小学校林への通路及び法面、学校林敷地内の倒木・枯枝や土石の除去及び草刈、補修及び遊具の点検を行い、子どもたちが安全で楽しく学習しやすい学校林に整備した。また、学校ボランティアに、1年生、6年生の学校林探検、5年生への森林環境学習を行った。

②すずらん台小学校林：「学習の森（小学校内学校林）」において、子どもたちがより安全に活動できるように学校林内にある散策路コースの整備、倒木の整理及び搬出、敷地境界ロープの設置などを行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

市内地域づくり組織（薦原地域づくり委員会、地縁法人すずらん台町づくり協議会）

【実施箇所及び箇所数】

市内2箇所

【事業量】

薦原小学校林：遊歩道及び散策路等の整備、法面の草刈り等

学校林面積 1,334㎡ 200,000円

すずらん台小学校林：散策路コースの整備、倒木の整理及び搬出、入り口の設置等

学校林面積 約1ha 500,000円 計700,000円

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助 対象者等	補助率・ 負担率等	補助の上限及び定額 補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	定額補助	1件当たり 500,000円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった団体を対象とした。

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	名張市	新規・継続 の別	継続
------	-------------------	--	-----	-----	-------------	----

番 号	事 業 名				
6	学校林整備事業				
事 業 費	700,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			700,000	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

子ども達が学校生活において森林に親しむことができる環境を整備することで、森林や緑に対する理解を深める機会を創出できる。また、PTAや地域住民の利活用も期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

学校林の整備と併せて、森林教育活動を実施することで、より効果的な取組とした。

【新たな対策・視点及び改善点】

森林に触れる経験は児童にとって重要かつ有意義なものであり、児童が安心して学習できる学校林を維持するために今後も継続して実施する必要がある。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	学校林を活用する児童 約230名、教員及びPTA、ボランティアスタッフ 約90名
期待する波及効果	保護者等への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

森林環境教育の充実及び学校林を活用する児童の安全を確保するために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

学校と学校林整備を行う団体が適切に管理する。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施前・中・後	整備箇所（学校林内）
のぼり設置	実施中	整備箇所（学校林内）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	学校林整備事業
-----	---------

6(1). 写真



写真1

薦原小学校林/整備時写真



写真2

薦原小学校林/整備時写真



写真3

薦原小学校林/整備後写真



写真4

薦原小学校林/整備後小学生使用写真



写真5

すずらん台小学校林/入口門設置写真



写真6

すずらん台小学校林/整備時写真

【様式集㉔】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	学校林整備事業
-----	---------

6(2).補助事業者取組一覧

補助事業者名	補助金額	取組概要
薦原小学校	200,000	通路・法面整備工事、講師謝礼等
すずらん台小学校	500,000	保全作業委託費

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
7	子ども若者第三の居場所創生事業				
事 業 費	792,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			792,000	0	0

1. 事業の目的

放課後や休日に子どもや若者が気軽に集い、ゆっくり過ごせる居場所である3階フロアの入り口に県産材を使った木製の家具を置くことで木の温かみを感じてもらい、穏やかな気持ちで利用できる場所づくりを行う

2. 事業の実績

【事業内容】

- ・居場所となる3階フロアの入り口に、県産材を使った下駄箱を置く

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

名張市

【実施個所及び箇所数】

名張市総合福祉センター3階入り口 エレベーターホール1箇所

【事業量】

木製下駄箱 1台

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	小売業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

随意契約

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
7	子ども若者第三の居場所創生事業				
事 業 費	792,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			792,000	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

- ・木に触れることで、来所者の気持ちを落ち着かせ、安らぎのある空間をつくる
- ・概ね10歳以上30歳未満の子ども若者が集う場所のため、森や木々に関する本や資料を設置することで森林に対する興味関心を引き、居場所である3階フロア全域のエントランスにある県産材を使用した実際の木材加工品である下駄箱に触れてもらい、体験を伴った教育の機会とする

【効果を発揮させるための工夫・取組】

3階フロアのエントランスに設置することで、来所する子どもや若者が木のぬくもりや自然をより身近に感じることができ空間を創出した。また、直接木に触れて親しみを感じられるように、下駄箱は壁面を利用せず独立して設置し、下駄箱の背面からも木のぬくもりを感じられるようにした。

図書を置くスペースに森や木々に関する資料を置く。

【新たな対策・視点及び改善点】

子どもや若者が利用する場所のため、オープン後下駄箱にパネルを設置しアンケートを取ることで若い世代に周知を行う。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	概ね10歳以上30歳未満の子ども若者（一日利用最大50人）
期待する波及効果	小学校高学年から20～30代の若者が集う場所のため、県産材に興味を持つ機会になる

【公的関与の必要性】

事業運営者として市が公的に取り組む必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

事業運営者として市が適切に管理を行う。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ホームページ掲載 (シール・プレート等)	実施後	下駄箱に貼付する
啓発物品配布	実施後	来所者等に配布する。
パネル展示	実施中	下駄箱裏にみえ森と緑の県民税事業に関する資料展示
パネル展示	実施後	市町舎1階にて
パネル展示	実施後	総合福祉センターふれあい内にて

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

令和8年6月27日よりオープン予定

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	子ども若者第三の居場所創生事業
-----	-----------------

6(1). 写真



写真1

作成時の様子



写真2

作成時の様子



写真3

作成時の様子



写真4

作成時の様子



写真5

作成時の様子



写真6

完成品設置時の様子

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
8	桜並木保全管理事業				
事業費	400,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			400,000	0	0

1. 事業の目的					
名張の春の名所である桜並木を、地域住民らによるボランティアで、維持管理や桜木の保護・育成をすることにより、住民の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、自然に親しむ豊かな生活環境を作る。					
2. 事業の実績					
【事業内容】 ①中央公園：中央公園内道路沿いに植樹された桜並木の樹体に被害の出ていた樹の除去及び新たな植樹、施肥、カビ・苔の除去等の作業を実施した。 ②薦生地区:名張川堤の「薦生の桜」の枯れ枝の剪定、施肥等の作業を実施した。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 名張中央公園で桜並木の保全管理を実施する団体（名張桜未まつり実行協議会） 薦生区民有志 12名 【実施個所及び箇所数】 2箇所（名張中央公園、名張川薦生堤 内） 【事業量】 ①中央公園：施肥、カビの除去、剪定、てんぐ巣病等対策 300,000円 ②薦生地区：施肥、剪定 100,000円					
3. 事業の実施方法					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】					
実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考	
補助事業	活動団体	定額補助	1件あたり 300,000円		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
申請があった団体を対象とした。					

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
8	桜並木保全管理事業				
事 業 費	400,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			400,000	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

桜並木の保全管理を通して、森林を思う気持ちの醸成や樹木も適切に管理しなければ枯れてしまうこと、身近な森林に親しむためには手入れが必要であることが実感できる機会を創出する。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

「桜満開プロジェクト」において、地域住民への呼びかけを行うことで、桜並木を思う気持ちの醸成を図った。

【新たな対策・視点及び改善点】

桜資源をこれからも維持し続けるために、住民が主体的に保全活動に取り組むことが不可欠なので、次年度についても継続して実施する必要がある。保全活動の内容を広報などで情報発信することで、この事業の有効性や必要性の周知を行う必要がある。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	「桜満開プロジェクト」及び「名張桜まつり」の参加者 約8,000人（R7年度）
期待する波及効果	「名張桜まつり」の参加者への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

桜並木の保全及び市民の森林を思う気持ちの醸成ために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	実施箇所（名張中央公園内）
HP掲載	実施中	名張桜まつり実行協議会HP記載
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	桜並木保全管理事業
-----	-----------

6(1). 写真

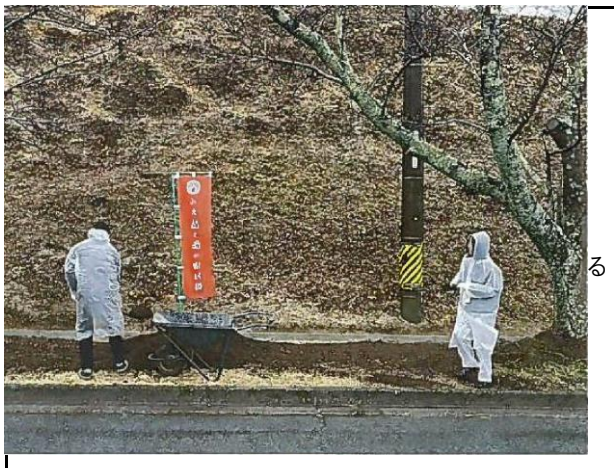


写真1

保全活動の様子（名張中央公園）



写真2

保全活動の様子（名張中央公園）



写真3

保全活動の様子（名張中央公園）



写真4

HP掲載（名張中央公園）

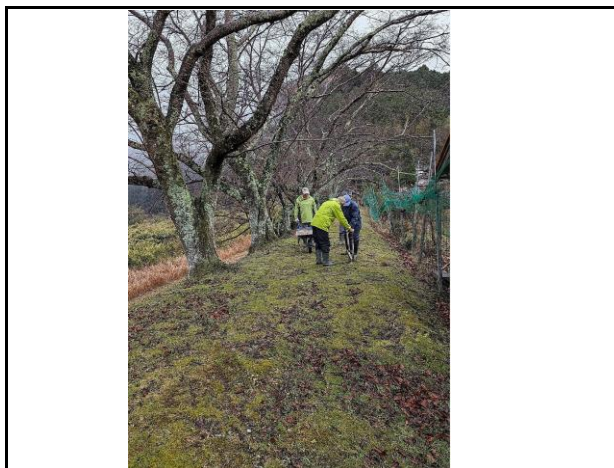


写真5

保全活動の様子（薦生地区）



写真6

保全活動の様子（薦生地区）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	桜並木保全管理事業
-----	-----------

6(2).補助事業者取組一覧

[illegible]

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
9	国定公園環境整備事業				
事 業 費	1,150,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,150,000	0	0

1. 事業の目的				
市民や観光客の癒しの場所である赤目四十八滝溪谷の遊歩道を整備することにより、市民や観光客の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、自然に親しむ豊かな生活環境を作る。				
2. 事業の実績				
【事業内容】 赤目四十八滝溪谷保勝会が主体となって、国定公園である赤目四十八滝溪谷内の危険木を伐採し、遊歩道を整備することで、市民や観光客が安全で森林と親しみやすい環境を整備した。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 一般社団法人 赤目四十八滝溪谷保勝会 【実施個所及び箇所数】 赤目四十八滝内 1 箇所 【事業量】 溪谷危険木診断、指導料 99,480円 危険木伐採工事費 1,050,520円				
3. 事業の実施方法				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】				
実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	定額補助	1,150,000	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
赤目四十八滝溪谷内の施設の管理、自然環境の保護、観光客の誘致を行う団体を対象とした。				

年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
9	国定公園環境整備事業				
事 業 費	1,150,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,150,000	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

国定公園である赤目四十八滝の環境整備を行うことで、市民や観光客が安全に身近な森林にふれあい愛着を持つことで、国定公園の必要性や保全に対する理解を深める。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

事業実施後に危険木の伐採についてラミネートを溪谷内に掲載し、保全活動の周知を行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

当事業は、国定公園内にある赤目四十八滝の遊歩道を安全に楽しむために実施する必要がある。事業実施後、市庁舎1階にて展示掲載することで当事業の有益性や必要性を市民に周知し、より市民が自然環境に親しめるように取り組む。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	赤目四十八滝の年間入山者数 約123,773人（R7年度）
期待する波及効果	赤目四十八滝を訪れる観光客がより安全に楽しむことができる

【公的関与の必要性】

名張市の貴重な観光資源の維持及び発展のために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

引き続き赤目四十八滝溪谷保勝会が管理を行う。施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施後	市庁舎1階にて展示
のぼり設置	実施中	整備箇所

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	国定公園環境整備事業
-----	------------

6(1). 写真



写真1

保全活動の様子

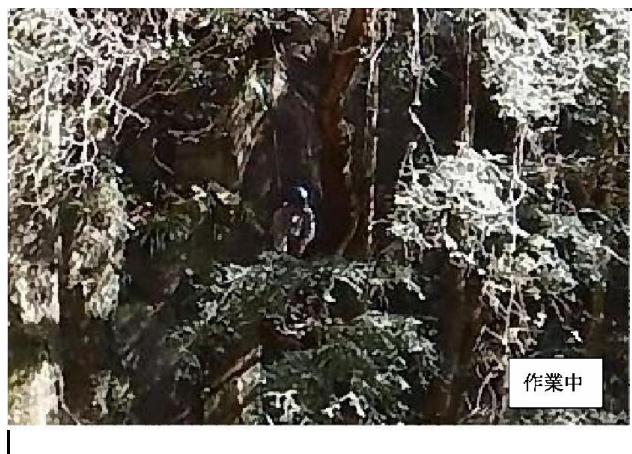


写真2

保全活動の様子



写真3

保全活動の様子



写真4

保全活動の様子

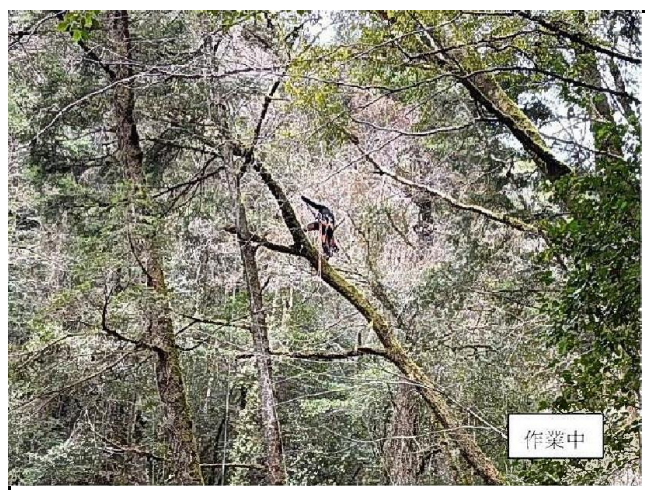


写真5

保全活動の様子



写真6

保全活動の様子

【様式集②】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	国定公園環境整備事業
-----	------------

6(2).補助事業者取組一覧

[illegible]

伊 賀 市

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和7年度版三重県市町要覧による）

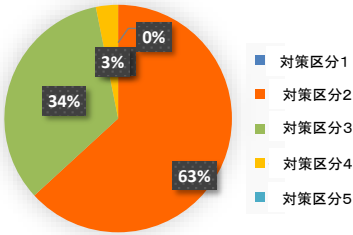
市町名	伊賀市	三重県
人口（人）	82,729	1,700,107
年少人口割合（％）＊1	9.9%	11.1%
森林面積(ha)	33,870.00	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	32,566.00	348,561.87
森林率(%)	60.7%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	10.8	10.9

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	みんなの里山整備活動推進事業	7,808,505	7,808,505		7,808,505				
2	2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	1,694,760	1,694,760		1,694,760				
3	2	危険木伐採事業	4,563,900	4,504,908		4,504,908				
4	3	伊賀の森っこ育成推進事業	3,893,014	3,893,014			3,893,014			
5	3	地域の森と緑のつながり支援事業	260,838	260,838			260,838			
6	3	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）	500,000	500,000			500,000			
7	3	木づかい木育推進事業	2,810,746	2,810,746			2,810,746			
8	4	保育所木育推進事業	698,229	698,229				698,229		
計			22,229,992	22,171,000	0	14,008,173	7,464,598	698,229	0	0

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	調査115箇所、間伐40.98ha	13,641,100	13,640,500	現地調査及び間伐実施
災害からライフラインを守る事前伐採事業	調査1.41ha、伐採0.19ha	5,731,000	2,865,500	現地調査及び間伐実施
県民参加の植樹祭事業	0	0	0	

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	当市の森林面積率は61%であり、周囲が森林に囲まれた立地にある。そのような背景を踏まえ、災害に強い森林づくりと住民全体で森林を支える仕組みづくりの両立を図ることが必要であることから、暮らしに身近な森林を住民自らの手で整備する事業を推進しているとともに、木育を始めとして森林や緑を大切に思う人づくりに繋がる教育活動を支援する事業を推進している。
事業実施により期待される効果	里山整備や危険木伐採、間伐材の有効活用が進み、災害に強く安全な森林づくりと市民生活の安心確保が図られる。また、地域住民の主体的な活動やイベントを通じて、森林を支える人材や組織の育成が進み、地域のつながりが強化される。さらに、木育や学習機会の充実により、子どもから大人まで森林や木材への理解と関心が高まり、将来の担い手育成や森林資源の循環利用につながるなど、持続可能な地域づくりへの効果が期待できる。
情報発信への取組	本事業の情報発信においては、ホームページ掲載や行政チャンネル「ウィークリー伊賀市」による周知を通じて、事業の目的や概要、県民税を財源としていることを広く発信した。また、市役所玄関でのパネル展示やアンケート設置、施工看板やのぼり旗の掲出により、来庁者や地域住民へ視覚的にPRを行った。さらに、学校へのチラシ配布や学校だよりへの掲載により、児童生徒や保護者にも周知を図り、多様な媒体を活用した効果的な情報発信に取り組んだ。

令和7年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税（千円）
1	⑦ その他（森林整備）	159	159
2	⑩ 専門員の雇用	2,774	2,774
3	③ 私有林整備	8,800	8,800
4	③ 私有林整備	38,666	38,666
5	⑦ その他（森林整備）	66	66
6	⑦ その他（森林整備）	352	352
7	⑪ 新たな組織の設立	2,250	2,250
8	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	10	10
9	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	964	964
10	③ 私有林整備	1,391	1,391
11	③ 私有林整備	11,586	11,586
12	⑦ その他（森林整備）	9,829	9,829
13	⑫ その他（人材育成等）	2,795	2,795
14	⑰ 基金積立（森林整備等）	270	270
15	⑩ 専門員の雇用	409	409
16	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	113	113
17	⑬ 木造公共建築物の整備等	1,228	1,228
18	⑬ 木造公共建築物の整備等	262	262
19	⑬ 木造公共建築物の整備等	897	897
20	⑬ 木造公共建築物の整備等	165	165
21	⑬ 木造公共建築物の整備等	1,914	1,914
	合計	84,900	84,900

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	みんなの里山整備活動推進事業				
事 業 費	7,808,505 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,808,505	0	0

1. 事業の目的

地域住民の主体的な参加のもと、地域や生活に密着した緑の環境づくりや里山・竹林を再生するために自治会等が行う活動に対して支援することにより、身近な里山環境を豊かにすること及び地域住民による持続的な里山管理を目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

緑の環境づくりや生活に密着した里山の再生、荒廃竹林や危険木伐採を行う自治会等の地域ボランティア活動に対して、その活動に必要な費用を補助金（上限250,000円/団体）として交付する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

地域住民が組織する自治会等の団体

【実施個所及び箇所数】

34箇所

【事業量】

支援地域団体数：34団体 整備面積：20.21ha

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	定額補助	25万円/団体	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

補助金交付申請により、事業目的に沿ったものであるか判断した。

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	みんなの里山整備活動推進事業				
事 業 費	7,808,505 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,808,505	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

既存の森林整備事業では整備が難しい暮らしに身近な里山等の整備を、地域住民の作業によって実施できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

地域住民のボランティアによる地域の里山・竹林・緑地の管理及びこれらの関連施設の管理を年間2回以上行うことを事業要件としていること。

【新たな対策・視点及び改善点】

当事業の趣旨は、地域住民が当事業に積極的に参加することであることを再度周知徹底し、より良い制度運用を行なっていただいた。事業別実績書には、実施団体ごとに内訳がわかるように、事業実績や補助金交付額を記載した。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市内住民 活動団体数：34団体 活動参加人数：延べ1301人
期待する波及効果	地域住民が主体的に身近な森林の整備に取り組むことで、森林環境に対する理解と関心が深まり、愛着の醸成が図られるとともに、継続的な里山管理への意識向上につながる。

【公的関与の必要性】

地域の里山等として整備するため、特定の個人への利益となるものでなく、公的な支援が妥当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

地域共有の場としての里山等を事業対象としているため、転用等は想定されない。
持続管理する必要性について指導している。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
パネル展示	実施中	市役所玄関スペースに設置し、県民税アンケート記載台も併せて設置した。
のぼり設置	実施中	事業実施日に県民税のぼりを設置し、周辺住民へのPRを図った。
TV（行政チャンネル等）	実施中・後	行政だより「ウィークリー伊賀市」において取り組みについて周知をした。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

住民参加による森林整備の必要性に対する理解が深まり、継続的に取り組みたいとの声が多かった。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
事業名	みんなの里山整備活動推進事業				

6(1). 写真



写真1

竹林の伐採



写真2

竹林の伐採



写真3

森林整備



写真4

森林整備



写真5

支障木の伐採

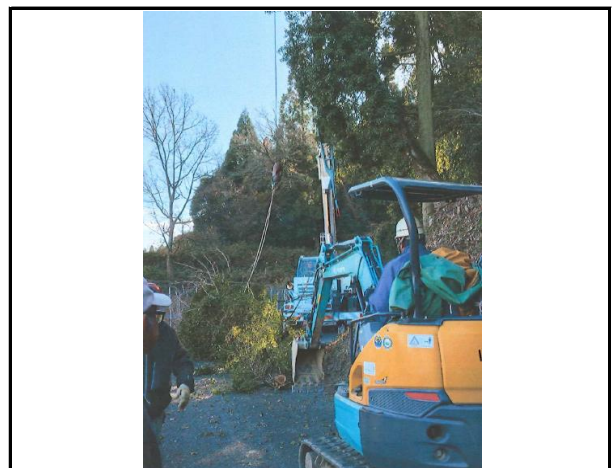


写真6

危険木の伐採

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	みんなの里山整備活動推進事業
-----	----------------

6(2).補助事業者取組一覧

補助事業者名	補助金額	取組概要
四十九町自治会	250,000	支障木伐採
大道区	250,000	竹林伐採・整備
大江区	250,000	支障木伐採
下神戸区	190,108	草刈・登山道整備
波敷野区	250,000	危険木伐採・整備
河合地域住民自治協議会	250,000	草刈・散策道整備
法花区	250,000	草刈・登山道整備
上野ニュータウン自治会	250,000	草刈・整備
中矢区	250,000	草刈・整備
妙楽地区	250,000	雑木草除去、倒木除去、保全管理告知看板設置
勝地区	250,000	支障木、雑草木除去・倒木処理
東高倉区	250,000	支障木・竹除去、草刈
坂下区	197,387	支障木撤去、草刈
新堂区	250,000	支障木撤去、草刈
霧生区	250,000	緑地・竹林保全管理
千貝区	250,000	倒木・危険木伐採、雑木草除去
瀧区	244,800	竹林・雑木伐採
小杉区	86,296	支障木撤去、草刈
上友生区	237,520	支障木伐採
伊勢路区	250,000	危険木伐採・撤去、草刈
出後区	221,056	危険木伐採・撤去、草刈
青山羽根区	200,000	危険木伐採・撤去
川南区	231,200	草刈・整備
下川原区	250,000	草刈・整備
川東区	250,000	草刈・整備
西山自治会	250,000	雑木草除去、草刈
中友生区	250,000	樹木伐採、竹林整備
音羽区	250,000	危険木伐採・草刈
大内区	250,000	竹林整備・草刈
丸柱区	219,000	危険木伐採・草刈
猪田大東区	55,000	危険木伐採・草刈
西高倉自治会	195,138	竹林伐採・整備
桐ヶ丘三丁目自治会	231,000	大木伐採・除去
界外区	250,000	草刈、竹林整備
合計	7,808,505	

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事 業 費	1,694,760 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,694,760	0	0

1. 事業の目的

森林所有者等による未利用間伐材の搬出を推進することにより、木質バイオマス資源の有効活用を図ると共に、森林所有者等の意識啓発や暮らしに身近な森林における林地残材の減少を図り流木による災害を防止する。

2. 事業の実績

【事業内容】

発電用チップに用いる間伐材等由来の木質バイオマス証明材を、市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業者に買い取ってもらうために必要な搬出及び運搬に要する経費の一部を助成する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

補助事業：森林所有者等

【実施箇所及び箇所数】

補助申請毎の伐採届による間伐箇所と連動する。

【事業量】

補助事業：未利用間伐材搬出 564.92t （前年：803.52t） 搬出件数 延べ14件 1,694,760円

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	登録者	定額補助	3,000円/t	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

該当無し

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事 業 費	1,694,760 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,694,760	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

土砂災害等の被害拡大につながる林地残材を減らすことにより、くらしの安心・安全を守る災害に強い森林づくりに寄与したほか、森林所有者等に森林整備の必要性を身近に感じてもらうことにより、森林への意識が高まった。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

令和3年度に、当事業を利用している森林所有者の要望を受け、林地残材の搬出に係る実態調査を行い検討した結果、補助単価を2,500円/tから3,000円/tに増額した。

【新たな対策・視点及び改善点】

市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業者と連携を図り、事業を活用しやすいように、申請書及び添付資料を簡略化を検討する。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	森林所有者等
期待する波及効果	森林の整備が進むことにより、森林の持つ公益的機能の向上の恩恵を受けることができる

【公的関与の必要性】

市内の森林整備を進めていくため、公的支援（経費補助）による間伐材搬出作業の推進が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林が適正に管理されるよう指導している。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
パネル展示	実施中	市役所玄関スペースに設置し、県民税アンケート記載台も併せて設置した。
TV（行政チャンネル等）	実施中・後	行政だより「ウィークリー伊賀市」において取り組みについて周知をした。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

森林所有者がバイオマス材として搬出することに欠かせない補助金であるとの声をいただいている。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

6(1). 写真



写真1

間伐材搬出の様子



写真2

間伐材搬出の様子



写真3

間伐材搬出の様子



写真4

間伐された森林の様子



写真5

間伐された森林の様子



写真6

搬出された間伐材

【様式集②】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

6(2).補助事業者取組一覧

補助事業者名	補助金額	取組概要
森林所有者①	112,230	未利用間伐材の搬出
②	56,070	未利用間伐材の搬出
③	1,005,570	未利用間伐材の搬出
④	88,530	未利用間伐材の搬出
⑤	20,760	未利用間伐材の搬出
⑥	62,640	未利用間伐材の搬出
⑦	16,560	未利用間伐材の搬出
⑧	21,930	未利用間伐材の搬出
⑨	2,490	未利用間伐材の搬出
⑩	31,020	未利用間伐材の搬出
⑪	46,260	未利用間伐材の搬出
⑫	63,360	未利用間伐材の搬出
⑬	11,910	未利用間伐材の搬出
⑭	155,430	未利用間伐材の搬出
合計	1,694,760	

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	危険木伐採事業				
事 業 費	4,563,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,504,908	0	58,992

1. 事業の目的

市道及び農道等の沿道で、倒木の恐れがある危険木の伐採を行い、道路周辺の森林整備をすることにより、市民の暮らしの安心・安全を確保する。

2. 事業の実績

【事業内容】

市道及び農道等の沿道で、台風等により倒木の恐れがある危険木の伐採を行い、道路周辺の森林整備をすることにより、市民の暮らしの安心・安全を確保する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

伊賀市（市道：道路河川課・農道：農村整備課）

【実施箇所及び箇所数】

伊賀市内（市道：出後(2路線)・愛田・千戸・種生・川西・安場・菖蒲池・東湯舟・西高倉地内 広域農道：下神戸地内）

【事業量】

危険木・支障木の伐採（市道：整備面積1m×100m×10、広域農道：1m×1,200m）

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	建設業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

施行箇所の近隣の建設業者及び造園業者で、これまでに実績があり高所作業者を保有する業者を選定した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	危険木伐採事業				
事 業 費	4,563,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,504,908	0	58,992

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

市道及び農道等の沿道で、台風等により倒木の恐れがある危険木の伐採を行い、避難所等への経路確保や道路施設を保全し、市民の暮らしの安心・安全が確保される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

危険木・支障木の伐採にあたり一律に根元から伐採することは避けるなど、状況に応じた伐採方法を柔軟に選択する。

【新たな対策・視点及び改善点】

危険木・支障木の伐採を実施後、伐採した樹木の健康状態が悪くなり倒れる危険性がある。このため、伐採記録の保全と巡回計画を策定し定期的に周辺環境の安全性を確認する必要があると感じた。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市道・農道を通行する市民
期待する波及効果	避難所等への経路確保や道路周辺の森林整備をすることにより、交通安全性が向上する。

【公的関与の必要性】

市内には今回実施箇所と同様の問題を抱えた市道・農道が多数ある。限られた予算の中で統一された安全基準を求められることから、行政機関が関与することで地域間でばらつきのない安全対策実施が可能になる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

実施箇所の記録保全及びそれに基づく巡回体制の構築を行う。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施前・中・後	工事現場及びその周辺の施工看板に提示を行った。
のぼり設置	実施中	事業実施箇所へのぼり旗の設置を行い周知を行った。
TV（行政チャンネル等）	実施中・後	行政だより「ウィークリー伊賀市」において取り組みについて周知をした。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

6(1). 写真



写真1

市道支障木伐採（施工前）



写真2

市道支障木伐採（施工中）

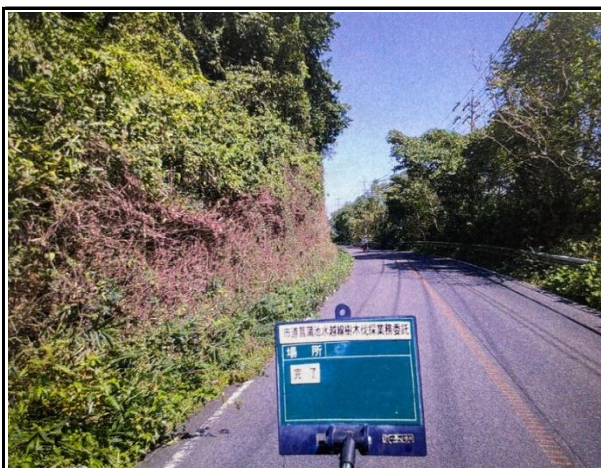


写真3

市道支障木伐採（施工後）



写真4

広域農道支障木伐採（施工前）

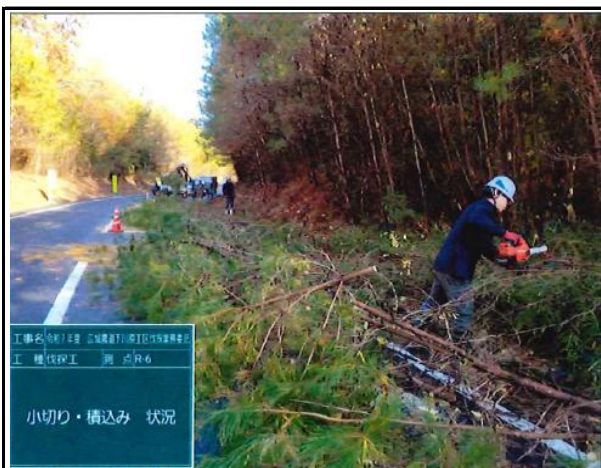


写真5

広域農道支障木伐採（施工中）



写真6

広域農道支障木伐採（施工後）

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
4	伊賀の森っこ育成推進事業				
事 業 費	3,893,014 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,893,014	0	0

1. 事業の目的

森林環境への関心や要望が高まるなか、次代を担う子ども達へ森林教育を実施し、森林・林業への理解と関心を持った人づくりを推進する。

2. 事業の実績

【事業内容】

市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等が実施する、森林のはたらきや森林・林業の歴史についての学習活動、木工利用、木工体験（竹材等も含む）、間伐体験、里山整備活動、植物・樹木観察、野生生物・昆虫観察など、森林・自然や木に関連した森林環境教育にふさわしい内容の活動に対して、活動費用を補助する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等

【実施個所及び箇所数】

25箇所（学校）

【事業量】

事業量：市内小中学校 25校60学級で実施

事業費：3,893,014円（補助金額）

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	10/10以内	最上級学年の学級数×10万円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

森林環境教育等に対して意欲的な団体を選定する必要があるため、補助金制度として運用している。

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
4	伊賀の森っこ育成推進事業				
事 業 費	3,893,014 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,893,014	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

市内に在学している小中学生が「森のせんせい」などの講師から、森のはたらきや林業について学習することができ、森林環境や木材等に関して知識理解を深めることが出来た。学校だよりを通じ、保護者に対して森林環境への理解を深めることが出来た。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

事業開始から毎年申請数が増え、継続して要望もあることから、今後も継続して事業を実施していく。

【新たな対策・視点及び改善点】

小学校と中学校で、年齢・学年に応じた体験を行うことで、子どもたちにより知識・理解を深めることが出来た。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	参加生徒児童総数1440人
期待する波及効果	生徒に森林環境教育や木工体験を実施し、身近な森林への興味関心を育んだ。

【公的関与の必要性】

市内の小中学校生徒を対象としており、より多くの生徒に森林環境教育を実施するため必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設等整備ではなく転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
チラシ等配布	実施前	学校担当者に対し、校長会の際に本事業の内容について説明した。
学校だより等掲	実施後	事業を実施した小中学校の学校だよりやホームページで保護者や生徒に対し、「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を図った。
のぼり設置	実施中	学校へ県民税ミニのぼりを配布し事業実施日に設置いただくようPRを図った
HP掲載	実施中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
パネル展示	実施中・後	市役所玄関スペースに設置し、県民税アンケート記載台も併せて設置した。
TV（行政チャンネル等）	実施中・後	行政だより「ウィークリー伊賀市」において取り組みについて周知をした。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

各学校からは、児童生徒の森林に対する興味・関心・意欲が深まり、実生活に活かすことが出来ているとの声を多数頂いている。学校担当者からは、森林教育を行う上で、必要不可欠な取り組みとの声もある。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
事業名	伊賀の森っこ育成推進事業				

6(1). 写真



写真1

森林環境教育



写真2

森林環境教育



写真3

間伐材を使って木工教室



写真4

木工



写真5

森林体験学習



写真6

植樹

【様式集㉔】第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	伊賀の森っこ育成推進事業
-----	--------------

6(2).補助事業者取組一覧

補助事業者名	補助金額	取組概要
城東中学校伊賀の森っこ育成推進事業実行委員会	255,000	木工体験学習(本棚作り)、森林学習
崇広中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	377,440	木工体験活動(マルチラックの製作)、森林環境学習
成和西小学校伊賀の森っこ育成推進事業実行委員会	100,000	1・2年生:上野森林公園(自然観察、フォトフレーム作り)、5年生:森林学習、工作
上野南中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	140,048	木材の特徴を学習・本立て、ラック制作
霊峰中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	200,000	1年生木製コースター制作、2年生繭の糸取り機の作成
青山中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	200,000	青山めぐり、木工製品制作
緑ヶ丘中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	318,400	桐材を用いて本棚やCDラックの製作、森林学習
青山小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	200,000	上野森林公園:木工、自然観察、青山小学校図書館:木工、森林環境教育
成和東小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	100,000	上野森林公園:木工、自然観察、かぶとの森テラス:木工、自然観察、
上野南小学校伊賀の森っこ育成推進事業実行委員会	83,663	3年生:野森林公園、森のフォトフレーム作り、あおぞら学級:1葉っぱのエコバック作り、6年生:本棚制作
大山田小学校伊賀の森っこ推進事業委員会	121,220	上野森林公園:森の遊園地・森のフォトフレーム
島ヶ原小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	100,000	全学年:創立150周年記念「大きな絵プロジェクト」制作 6年生:トイレ案内看板制作
阿山小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	100,000	上野森林公園:フォトフレーム作り、自然体験
友生小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	119,904	上野森林公園:木工・自然観察、フォトフレーム作り
柘植中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	99,990	桐材を用いて木工製作、森林学習
上野西小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	217,800	上野森林公園:エコバック製作、自然観察
府中小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	100,000	上野森林公園:森の遊園地・ねじきペンダント制作、葉っぱスタンプ体験
上野北小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	100,000	三栄林産:製材過程の見学、かぶとの森テラスで森林観察・箸づくり
大山田中学校伊賀の森っこ育成推進事業実行委員会	99,552	木工体験(本棚)、森林学習
阿山中学校伊賀の森っこ育成推進事業実行委員会	199,629	木工体験(本棚)、森林学習
上野東小学校伊賀の森っこ育成推進事業実行委員会	300,000	1年生:上野森林公園(自然観察、フォトフレーム作り)5年生:植樹、選定作業
三訪小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	100,000	上野森林公園 自然体験、エコバック作り
島ヶ原中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	60,368	パインの集成材を利用した木工製作(棚づくり)
西柘植小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	100,000	上野森林公園(1・2年生)ねじきペンダントづくりほか、6年生木工制作(書架)
壬生野小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	100,000	6年生木工工作、・2年生シイタケ菌打ち体験
合計	3,893,014	

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	地域の森と緑のつながり支援事業				
事 業 費	260,838 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			260,838	0	0

1. 事業の目的

地域住民が森林・林業にふれあう機会が少なくなっているため、地域における森林環境・林業に関する教育活動を支援することで、地域住民や子どもたちが共に森林・林業等への関心を持ち、身近な生活における森と緑のつながりを感じられる人づくりを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

住民自治協議会等が実施主体として、森・緑・木材と地域とのつながりを目的に行う一般募集の森林・林業・環境学習・木工などのイベントや研修活動に対して、必要な費用を補助する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

住民自治協議会等

【実施個所及び箇所数】

住民自治協議会等

【事業量】

6地区

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	10/10以内	上限5万円/団体	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

補助事業による選定のため、該当なし

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	地域の森と緑のつながり支援事業				
事 業 費	260,838 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			260,838	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

森林を支える地域において、補助事業によるイベント等を通して、森を育む人づくり・森を支える社会組織づくりが行えた。直接的に、森づくりやみえ森と緑の県民税の趣旨について、市民に伝えることができた。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

施設整備等ではなく、該当しない。

【新たな対策・視点及び改善点】

地域における森林の大切さを知らせることが出来た。森林・林業等全般への理解・関心を高めた。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市内住民 活動団体数：6団体 活動参加人数：63人
期待する波及効果	地域住民が森林・林業等への関心を持ち、身近な生活における森と緑のつながりを感じられる

【公的関与の必要性】

地域における森林環境・林業に関する教育活動を支援するもので、特定の個人への利益となるものでなく、公的な支援が妥当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設等整備ではなく転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
パネル展示	実施中	市役所玄関スペースに設置し、県民税アンケート記載台も併せて設置した。
TV（行政チャンネル等）	実施中・後	行政だより「ウィークリー伊賀市」において取り組みについて周知をした。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
事業名	地域の森と緑のつながり支援事業				

6(1). 写真



写真1

木工教室（山田地域住民自治協議会）



写真2

木工教室（山田地域住民自治協議会）



写真3

林業研修（3自治協合同開催）



写真4

林業研修（3自治協合同開催）



写真5

林業研修（3自治協合同開催）



写真6

森林に関する映像鑑賞（古山地区住民自治協議会）

【様式集㉔】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	地域の森と緑のつながり支援事業
-----	-----------------

6(2).補助事業者取組一覧

補助事業者名	補助金額	取組概要
古山地区住民自治協議会	38,000	災害に負けない森林土壌づくり(ドキュメンタリー映像の鑑賞)
布引地域住民自治協議会	50,000	伊賀地域の林業者等が一度に介しての合同研修(吉野林業地の視察「林業の故郷、奈良・吉野に行こう」)
阿波地域住民自治協議会	50,000	伊賀地域の林業者等が一度に介しての合同研修(吉野林業地の視察「林業の故郷、奈良・吉野に行こう」)
上津地区住民自治協議会	22,838	伊賀地域の林業者等が一度に介しての合同研修(吉野林業地の視察「林業の故郷、奈良・吉野に行こう」)
友生地区住民自治協議会	50,000	伊賀地域の林業者等が一度に介しての合同研修(吉野林業地の視察「林業の故郷、奈良・吉野に行こう」)
山田地域住民自治協議会	50,000	木を知り、木に触れて、木を好きになって貰うために、木工体験を行う。
合計	260,838	

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
6	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）				
事 業 費	500,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			500,000	0	0

1. 事業の目的

市内の間伐材の利用と地域の木材を活用できる人材の育成を目的とする。

市民から必要とされている木製品を開発する中で、若い人材や地域団体などが、伊賀の木の活用ノウハウを身に着ける。また、市内の高校生が制作した木製備品が設置されることで市民へ木とふれあい・やすらげる空間が形成される。

2. 事業の実績

【事業内容】

旧上野市庁舎の改修により整備される児童図書館空間の一部（テラス部分）に設置する木製備品を市内の間伐材等を利用して開発する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

伊賀白鳳木育推進実行委員会

【実施個所及び箇所数】

旧上野市庁舎SAKAKURA BASE、木製備品（高石垣コーン）9台

【事業量】

木製備品の製作に係わる原材料費、需用費、備品購入費等 500,000円

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	10/10以内	上限50万円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

補助事業による選定のため、該当なし

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
6	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）				
事 業 費	500,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			500,000	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

木工や建築を志す高校生が、旧上野市庁舎SAKAKURA BASEに設置する木製備品を開発することで、木や森林に関心を持つ良い機会となる。旧上野市庁舎SAKAKURA BASEの利用者が、木製備品を目にすることで、木に対し愛着を持つことが期待できる。

地域材の活用技術が継承され、市民に直接木材の良さと木材利用の必要性を伝えることが期待出来る。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

事業内容について報道機関等へ取材を依頼し、事業の周知を行うとともに、高校生のプレゼンテーションの機会を創出し、事業効果を高めている。

【新たな対策・視点及び改善点】

今後も地元団体や高校等と連携しながら、伊賀産材の活用及び人材育成に努める。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	旧上野市庁舎SAKAKURA BASE利用者
期待する波及効果	旧上野市庁舎SAKAKURA BASE利用者が木に愛着を持つことが出来る

【公的関与の必要性】

制作主体が伊賀白鳳高校の生徒であり、その生徒達の木育・木活用人材育成となるような取り組みを目指しているものであるため、公的関与が必要であると考えられる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

今回は市所有の旧上野市庁舎SAKAKURA BASEに設置する目的の元で開発・制作されるものであるため、転用の懸念は無いと考えられる。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施中・後	事業内容及び「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を行った。
その他	実施中	各報道機関に当事業について取材依頼をし、経過や現在の活動状況等を周知した。
TV（行政チャン	実施中・後	行政だより「ウィークリー伊賀市」において取り組みについて周知をした。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

高校生は、昨年度からの木製備品の製作や、旧上野市庁舎整備の受注業者である(株)伊賀市にぎわいパートナーズ設計担当者へのプレゼンテーションなどの経験を通じて、木工技術の習得や、プレゼンテーション能力の向上など人材育成の貴重な機会となっている。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
事業名	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）				

6(1). 写真

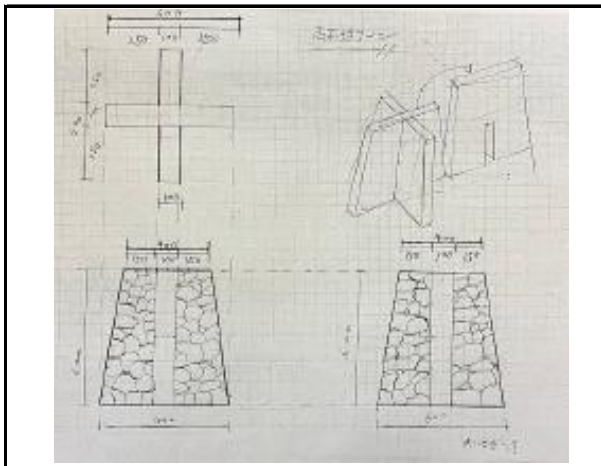


写真1

最終決定製作作品デザイン「高石垣コーン」



写真2

「高石垣コーン」製作



写真3

「高石垣コーン」完成



写真4

完成披露



写真5

「憩いの丘」 完成



写真6

「憩いの丘」

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
7	木づかい木育推進事業				
事 業 費	2,810,746 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,810,746	0	0

1. 事業の目的

幼児期から木育を推進することで、健やかな子どもの成長を推進するとともに、地域の森林に高い関心を持った人づくりを進める。また、木育に供する資材の製作を通じて、森林の持続的整備に必要不可欠な木材利用の推進を図り、森林を支える社会づくりが進む市として、地域そのものの価値を高める。

2. 事業の実績

【事業内容】

- ・幼児期からの「木育」を進めるため、親子共に木のぬくもりを共有できる物として、出生のお祝いに伊賀のヒノキの薫る木製フォトフレームを配布する。
- ・小学5年生が社会科の授業で森林の間伐を学ぶ機会にあわせて伊賀産ヒノキの手作り箸キットを配布する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

伊賀市

【実施個所及び箇所数】

市内全域

【事業量】

フォトフレーム 出生時 450個
伊賀産材の手作り箸キット 630個

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	個人	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

競争入札により発注、購入した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
7	木づかい木育推進事業				
事 業 費	2,810,746 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,810,746	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

木に触れることで、木の薫りとぬくもりを感じることができるとともに、リーフレットを配布することにより親子で木に関心を持つ機会を作る。また、社会科の授業と併せて森に関する人づくりを行うことができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

配布時に、伊賀産材を使用していることなど直接伝えることで、木や森林に関心を持つ機会を創出した。

【新たな対策・視点及び改善点】

1歳半検診時に木製（伊賀産材）のスプーンを、3歳児検診時に木製（三重県産材）の子ども用のお箸を保健師の手から、木育リーフレットの配布にあわせて配布していたが、子どもがスプーンを噛んで飲み込む事象が発生したため、令和4年度から配布対象年齢を上げ、伊賀産ヒノキの手作り箸キットを配布することとした。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	新生児、小学5年生
期待する波及効果	受益者及び家族が木材に愛着を感じるようになり、木製品を好むようになる、森林環境に関心を持つ。

【公的関与の必要性】

多くの市民に配布物による木のぬくもりを感じてもらうため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
チラシ等配布	実施中	フォトフレーム、手作り箸キットに事業の目的等を記載したチラシを添付のうえ配布した。
HP掲載	実施前・中・後	市民全体に取組事例を説明し、県民税の目的や必要性をPRした。
アンケート実施	実施中	親に対する県民税を活用した旨のPRをこめたアンケートを実施した。
TV（行政チャンネル等）	実施中	行政だより「ウィークリー伊賀市」において取り組みについて周知をした。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	木づかい木育推進事業
-----	------------

6(1). 写真



写真1

フォトフレーム（表）



写真2

フォトフレーム（裏）



写真3

伊賀産材の手作り箸キット



写真4

箸を削っている様子



写真5

写真5



写真6

写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
事業名	木づかい木育推進事業				

6(3).その他

ご出産おめでとうございます

～アンケートにご協力ください～

伊賀市は幼児期からの「木育」を進めるため、親子共に木のぬくもりを共有できる物として、出生のお祝いに伊賀産ヒノキの木製フォトフレームを配布しています。

こちらのQRコードを読み取りアンケートにお答えください。今後の参考にさせていただきます。

かおり。てざわり。ぬくもり。

伊賀市役所 こども政策課・農林振興課 未来の山づくり推進室

～アンケート調査 ご協力をお願いします～

伊賀市では、木づかい木育事業として、お子さまが産まれたのちに、伊賀市へ住民登録をされた方に、お祝いとして伊賀産のヒノキでできたフォトフレームをプレゼントしています。

この事業は、三重県が「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるために、平成26年4月から導入した「みえ森と緑の県民税」を活用しています。

今後の参考としたいので、この事業の感想と森林に対する想いを聞かせてください。

事務担当

こども政策課 Tel22-9654
未来の山づくり推進課 Tel41-0934

QRコードを読み取ってアンケートにお答えください

みえ森と緑の県民税

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
8	保育所木育推進事業				
事業費	698,229 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			698,229	0	0

1. 事業の目的

次世代を担う子どもたちが、森林環境への理解を深め、木に関心を持つ大人へと成長することを目的として、幼児期から森や木に親しむ木育事業を計画的に実施する。

2. 事業の実績

【事業内容】

市内の公立保育所（園）において、木製3Dパズルや積み木、木育に関する紙芝居、森林関係の絵本を配布し、幼児の森林や木への関心を高める木育の推進を図る。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

伊賀市

【実施個所及び箇所数】

市内公立保育所（園）13保育所

【事業量】

地域産材木製3Dパズル（12種類 合計151個）、地域産材積み木（15セット）、木育に関する紙芝居（1セット）、森林関係の絵本（9冊×13園）

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	その他	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

購入金額に応じて見積合わせを行うなどして発注・購入した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
8	保育所木育推進事業				
事 業 費	698,229 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			698,229	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

木育図書や紙芝居、木製品等により森や木を知り関心を持つことにより、自然を大切にする心を育むことができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

木育図書や紙芝居、木製品等に触れることで、森や木への理解と関心を深め、自然を大切にする心を育むことができる。

【新たな対策・視点及び改善点】

単なる配布にとどまらず、保育士向けに木育教材の活用方法を共有するなど、保育現場での継続的な活用を促進する。木製品や図書の活用状況や園児の反応についてフィードバックを収集し、次年度以降の教材選定や事業内容の改善に反映する。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市内公立保育所（園） 13保育所 園児 約300人
期待する波及効果	幼少期から森林や木に親しむことで、自然を大切にする意識の醸成を図るとともに、その意識が家庭や地域へと波及することが期待される。

【公的関与の必要性】

森林環境の保全と木材利用の促進は公益性が高く、幼少期からの意識醸成には公的関与が必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

配布物は各保育所で適切に管理し、目的外使用や譲渡・転用は認めないものとする。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
学校だより等掲載	実施後	保育所だより等で事業を案内し、周知する。
HP掲載	実施後	事業内容及び「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を行う。 キッズビュー等により各保育所（園）毎に取り組み内容を発信する。
HP掲載	実施後	インスタグラム等で取組を発信する。
パネル展示	実施中・後	伊賀市役所内に「みえ森と緑の県民税」事業についての説明パネルを展示する。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	保育所木育推進事業
-----	-----------

6(1). 写真



写真1

積み木



写真2

積み木



写真3

木育図書



写真4

木製3Dパズル

写真5

写真6

写真5

写真6

尾 鷲 市

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和7年度版三重県市町要覧による）

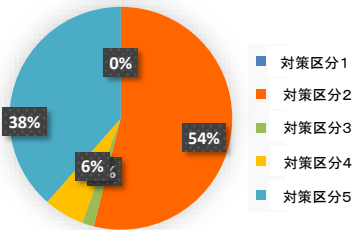
市町名	尾鷲市	三重県
人口（人）	14,295	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	7.7%	11.6%
森林面積(ha)	17,703.00	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	15,080.00	348,561.87
森林率(%)	92.0%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	4.47	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	2	人家裏危険木伐採事業	1,599,000	1,599,000		1,599,000			
2	2	三木里海岸の松原整備事業	2,953,500	2,953,500		2,953,500			
3	2	三木里海岸の松原内墓地危険木伐採事業	488,400	488,400		488,400			
4	3	尾鷲ヒノキ等を活用した保育園児等への山育事業	161,284	161,284			161,284		
5	4	木とふれあう学校環境づくり事業	172,260	172,260				172,260	
6	4	みえ森林教育ステーションを活用した木育事業	375,100	375,100				375,100	
7	5	馬越公園整備事業	1,133,000	1,133,000					1,133,000
8	5	中村山公園ほか整備事業	2,468,900	2,468,900					2,468,900
計			9,351,444	9,351,444	0	5,040,900	161,284	547,360	3,601,900

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業	146本	4,149,200	2,074,600	
県民参加の植樹祭事業	1回	247,856	247,856	

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	近年では、災害による被害が拡大傾向にあるうえ、尾鷲市は住宅地と森林が隣接しており、山地災害が市民生活に直結するため、災害に強い森林づくりは大変重要なものであると考えている。また、危険木等を伐採したままにするのではなく、園児や児童、生徒への木育の機会を設けるツールとして利用することとし、災害対策と森林教育推進の観点から事業の選定を実施している。
事業実施により期待される効果	人家裏や公園の危険木伐採は、災害に強い町づくりの推進に一定の効果が得られた。この点については、事業実施後の住民の反応や声をみても、いずれも好意的なものであったため、安心安全の確保に効果があったと感じている。また、保育、教育の現場に地元産材でつくられた木製品を導入したり、地域の木や自然とふれあう場を創出することで、地域の自然環境や林業への理解を深めるとともに、地元産材の利活用について学習する機会となった。
情報発信への取組	ホームページや広報誌での情報発信を行い、市内に広く周知することができた。危険木除去等では伐採した箇所に看板を設置したほか、山育を行った保育所等においては、保護者だよりに活動の様子の掲載を行ったため、一定の周知は図れたと思う。

令和7年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	③ 私有林整備	12,028	12,028
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	12,028	12,028

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	人家裏危険木伐採事業				
事業費	1,599,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,599,000		

1. 事業の目的

人家に密接する放置林において、自治会等が自主的に行う人家裏にある山林の危険木伐採費用の一部を補助し、災害を未然に防止することを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

自治会等が事業主体となり、人家に隣接する山林内の危険木で緊急に伐採する必要がある場合に限り、その費用の一部を補助する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

自治会・自主防災会等

【実施個所及び箇所数】

3 地区 （北浦地区・倉ノ谷地区・三木浦地区）

【事業量】

北浦地区：複数本、倉ノ谷地区：複数本、三木浦地区：複数本

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	9/10以内	500,000	補助率は伐採費用の80%

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

地域で危険だと認識し、地域全体で防災意識を持ってもらうのが主旨であるため

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	人家裏危険木伐採事業				
事 業 費	1,599,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,599,000		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

当地域は、背後に急傾斜を有する人家が多いため、危険木を伐採することにより、森林の適正な整備が促進され、災害を未然に防止できる。また、地域住民がお互いに災害の危険性を認識していただくことで、森林整備の必要性を改めて認識される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

昨年度以前と同様に、要望が寄せられた自治会等の方々と森林伐採の専門家も同伴での現地確認を行うことで、より防災効果の見込める効果的な伐採箇所の選定を実施している。

【新たな対策・視点及び改善点】

危険木や倒木の恐れのある木の伐採要望が年々増えつつある。みえ森と県民税事業や人家裏危険木伐採事業の周知の効果がでている。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	危険木伐採により生活環境の安全性が向上する地区は3地区
期待する波及効果	森林の重要性に対する住民意識や防災意識の向上

【公的関与の必要性】

市が補助を出すことで住民自ら危険木の伐採を進めることにより、倒木による災害を未然に防止する観点があるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者との調整は申請者（自治体等）が行っている。
森林所有者が適正に管理。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	実施前：令和7年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和8年度当初に令和7年度事業実績の報告
広報誌掲載	実施前	令和8年6月号に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載
標識・標柱等設置	実施後	実施場所付近に標柱を設置して県民税活用を周知する。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

人家及び生命に危険であったため、伐採してもらってとてもよかった。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

6(1). 写真



写真1

施行前（北浦地区）



写真2

施行後（北浦地区）



写真3

施行前（倉ノ谷）

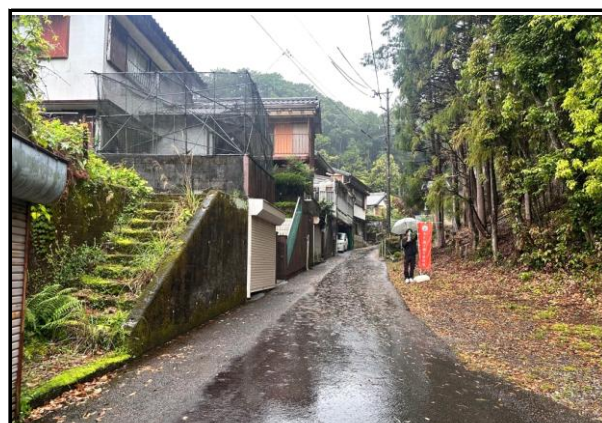


写真4

施行後（倉ノ谷）

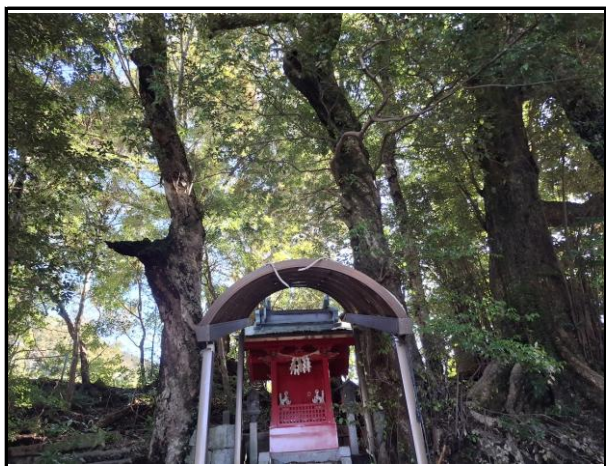


写真5

施行前（三木浦）



写真6

施行後（三木浦）

【様式集②②】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	人家裏危險木伐採事業
-----	------------

6(2).補助事業者取組一覧

[illegible]

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
2	三木里海岸の松原整備事業				
事 業 費	2,953,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,953,500		

1. 事業の目的

市外からも多くの来訪者がある三木里海水浴場。その付近に防風林として植林された松原がある。この防風林内には楠の大木やクロマツなど日常で触れる機会の少ない自然が存在しているが、枝が大きく張り出し安全上支障があるため、枝払いなどの整備を行い、身近な自然と触れ合うことができる環境を作ることを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

危険木の枝払い及び伐採を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【実施箇所及び箇所数】

三木里地内1箇所

【事業量】

防風林内に植生している樹木のうちの危険木の枝払いや伐採を行う。

- ・ 該当敷地面積：18,710㎡
- ・ 伐採：16本、枝払い：20本

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

- ・ 指名競争入札による業務委託
- ・ 安全面と専門的な技術が必要となるため

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
2	三木里海岸の松原整備事業				
事 業 費	2,953,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,953,500		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

枯損木や危険木の伐採を行った結果、家屋への倒木の危険を未然に防止することができた。

また、景観上の支障木も伐採したことにより、地域住民の日当たりの確保、落葉を収集する手間を軽減し、安全に防風林内を散策し自然と触れ合うことができる環境を整備することができた。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

伐採に当たっては、地域住民と協議の上、実施箇所を選定し実施した。

【新たな対策・視点及び改善点】

みえ森と緑の県民税市町交付金事業を活用し、支障木を伐採したことを近隣住民や地区会長へ報告を行った。地域の住民からは、安心できる等の感想をいただき、防風林整備の大切さを知っていただいた。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	危険木伐採により生活環境の安全性が向上する地区は1地区
期待する波及効果	伐採により枯枝の落下や倒木による災害の懸念がなくなることで、住民に安心感を与え、また、市内最大の海水浴場のふもとであるため、景観の確保による海水浴客の安全性の向上が見込まれる。

【公的関与の必要性】

市有地であるとともに地域住民や観光客など不特定多数の者が利用する地場であるため、市が管理を行う必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市有地であるため、転用等が想定されず、該当しない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	実施前：令和7年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和8年度当初に令和7年度事業実績の報告
広報誌掲載	実施前・後	令和8年6月号（予定）に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載
標識・標柱等設	実施後	実施場所付近に標柱を設置して県民税活用を周知する。
手段	実施後	近隣住民や地区会長へ県民税を活用した事業であることを報告を行った。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

近隣住民からは、明るくなったとの声をいただいた。また、地区会からも支障木がなくなったことで安心できるとの声とともに実施地の一つである広場が広がったとの声をいただき、安全の確保ができた上、景観面でも地域の一助になることができた。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
事業名	三木里海岸の松原整備事業				

6(1). 写真



写真1

伐採前：北側



写真2

伐採後：北側



写真3

伐採前：敷地内



写真4

伐採後：敷地内



写真5

伐採前：南側



写真6

伐採後：南側



写真7

設置前：東側



写真8

伐採後：南側

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
3	三木里海岸の松原内墓地危険木伐採事業				
事 業 費	488,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			488,400		

1. 事業の目的

市外からも多くの来訪者がある三木里海水浴場。その付近に防風林として植林された松原がある。この防風林内にある墓地に生えている松の枝が大きく張り出し危険な状態のため、伐採を行い市民が安心安全にお墓参りができる環境を整備する。

2. 事業の実績

【事業内容】

危険木の枝払い及び伐採を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【実施個所及び箇所数】

三木里町地内 1 箇所

【事業量】

クロマツ 1 本

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	林業事業体	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

市内業者の中で、伐採可能な業者の選定を行った。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	三木里海岸の松原内墓地危険木伐採事業				
事 業 費	488,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			488,400		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

危険木の伐採を実施することにより、安全にお墓参りをすることができるとともに、自然と触れ合える環境を作ることができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

樹木医の診断結果を踏まえ、緊急性・危険度の高い樹木から優先的に対応を行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

伐採候補である松は、樹木医の診断によりマツクイムシの被害を受けきわめて衰弱な状態とされており、そのような松を伐採することで、倒木による被害を防ぐことができる。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	利用する市民
期待する波及効果	枯損木の除去により景観が改善され、安心して利用できる環境づくりに寄与する

【公的関与の必要性】

尾鷲市の所有している土地での伐採のため、関与が必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

尾鷲市の所有している土地での伐採のため、管理は市職員が行う。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施後	事業実績の報告を掲載。
HP掲載	実施後	実施後：令和8年度当初に事業実績の報告。
のぼり設置	実施中	伐採中にのぼりを設置し、県民税の周知を行う。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

松の葉や枝により被害を受けていた人から感謝の言葉をいただいている。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	三木里海岸の松原内墓地危険木伐採事業
-----	--------------------

6(1). 写真



写真1

三木里 松 伐採前①

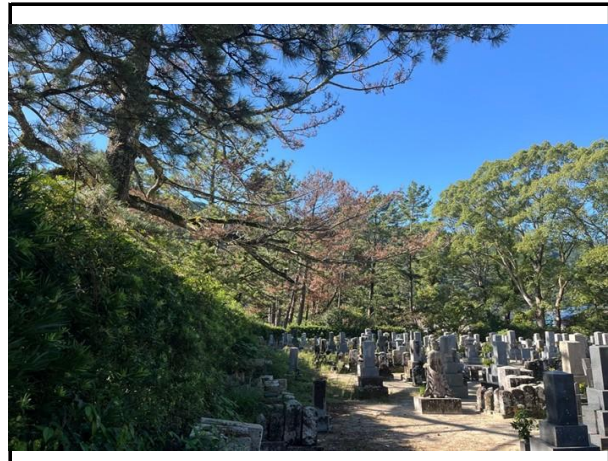


写真2

三木里 松 伐採前②



写真3

三木里 松 伐採後①



写真4

三木里 松 伐採後②



写真5

写真5



写真6

写真6

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
4	尾鷲ヒノキ等を活用した保育園児等への山育事業				
事 業 費	161,284 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			161,284		

1. 事業の目的

「山育事業」の一環として、園児一人ひとりが尾鷲ヒノキや尾鷲の山に植生する桜やクヌギなどの苗木を育てていく取組みを実施し、子どもたちが森に親しみ、苗木の成長に合わせた継続的な森との関係性を保つ機会を創出する。

2. 事業の実績

【事業内容】

市内の保育園・認定こども園に在籍する5歳児（年長児）を対象に、尾鷲ヒノキ等の苗木を一人に1本ずつ配布し園で育てる。

尾鷲ヒノキや森について学ぶ木育教室を実施し、園児一人ひとりが苗木を育て、卒園前に市有林として整備している「尾鷲みんなの森」にそれぞれの園ごとに植樹をする。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【実施個所及び箇所数】

市内の5歳児が在籍する保育園・認定こども園（尾鷲第一保育園、尾鷲第三保育園、ひのきっここども園、矢浜保育園、とちのもり保育園）の計5園で実施。

【事業量】

出前講座：計5回 植樹体験：計4回（尾鷲第一保育園、尾鷲第三保育園・矢浜保育園合同、ひのきっここども園、とちのもり保育園）

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
直営	その他	補助事業ではない	-	尾鷲市主導で実施

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
4	尾鷲ヒノキ等を活用した保育園児等への山育事業				
事 業 費	161,284 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			161,284		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

尾鷲市の大切な資源である「尾鷲ヒノキ」等の樹木を子どもたちが約1年かけて育て、育てた苗木を植樹することにより、生涯にわたって尾鷲ヒノキ等や森に愛着を感じることができる。また、森に行く機会が出来ることで成長とともに環境や植物多様性など森のもつ多面的な機能を学びきっかけにつながる。

また、ヒノキ等に愛着を持つことで将来的な木材利用の推進につなげることができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

出前講座で樹木や森に対する関心を高めること、苗木を自分で育て森を歩き植樹する体験がより森や樹木への愛着や興味を深める取組みを行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

尾鷲市の小中学校で実施してきた森林教育（木育、山育）の取組みを就学前の児童にも広げることにより、幼少期から木に触れる機会を設け、一体的な森林教育へとつなげる。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	保育園児及びその保護者
期待する波及効果	対象を保育園児にしたことで、本事業での体験が子どもの成長に寄与することに加えて、子どもたちから父母、祖父母等保護者への普及が見込める。

【公的関与の必要性】

公募でなく、保育園等の保育活動の中で実施することで、平等に森林教育を受ける機会を提供できる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市有林に植樹していることから、管理は市職員が行う。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
学校だより等掲載	実施後	保護者に向けて各園ごとに園だよりを発行した。
その他	実施前・中・後	HPやSNSにより山育（出前講座及び植樹体験）の様子を掲載・発信。テレビや新聞の報道による発信。
啓発物品配布	実施後	尾鷲ヒノキコースターを植樹体験後にプレゼントしました。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

こどもたちの感想など：1年間育てた苗木を植樹できて、達成感と喜びを感じてもらえました。また、みんなの森を探索することで、木や自然の感触を肌で感じた感想が多かったです。

先生方の感想など：普段できない貴重な体験ができた、こどもたちが日々、水やりを頑張っていた。実際にみんなの森で植樹や探索をすることで、自然の大切さを学んだようだなど、教育的な効果を高く評価して頂きました。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	尾鷲ヒノキ等を活用した保育園児等への山育事業
-----	------------------------

6(1). 写真



写真1

出前講座で尾鷲ヒノキの紹介



写真2

園児が、鉢に苗木と土を入れてます



写真3

苗木の完成（尾鷲の山を守り隊に任命）



写真4

植樹体験 出発前の準備運動



写真5

植樹体験後に集合写真



写真6

森の散策、見晴台でヤッホー

保護者様

山育とは、尾鷲市のふるさと教育のひとつ
“尾鷲ヒノキ等を活用した事業”です。

R8.2.17

山育だより

尾鷲市立とちのもり保育園

2月13日（金）九鬼“みんなの森”へ植樹に行きました。植樹をしたのは6月に5歳児2名が園で植えた“桜・クヌギ・もみじ・椿”の4本です。今回は幼児組6名が参加し、尾鷲市の大切な資源である尾鷲ヒノキや広葉樹・山・森について、実際の山で体験をとおして学びました。尾鷲ヒノキとスギの葉をみて違いを知り、空を仰ぎ木々の高さに圧倒され、土や木の感触や香りのかぐ…自然を満喫した時間でした。

見晴らし台から
見る海は最高！

九鬼のみなさん！
ヤッホーヤッホー

僕が大人になる頃には
大きな大きな木になって

シダの葉が飛行機に！
それ～飛べ～

今からみんなで木を植えに
行くぞーエイエイオー！

↑ヒノキとスギの葉を
見せてもらっています。
指導とサポートは
尾鷲市水産農林課
福祉保健課職員!!
ありがとうございました♪

バスの中は…“クイズ大会！”
Q カバンの中にある動物は？
A カバ！！
次々正解する子どもたち。
出題者は福祉保健課の
名ガイド別所さんでした～👏

まずは準備体操
1・2・3・4・5・6・7・8！

もみじ

さくら



やまいくにさんかしました！



すみれぐみ



「おっきなるかなあ」とつぶやきながら、
しょくじゅしていました♪つちをかけて、
あしでふんでかため、さむくないよう
おちばをかけてました！

ぜっけいのばしょでしゃしんをとりました♡



ひのきとすぎのちがいについてのはなしをききま

みんなたのしみながら、がんばりました♡



尾鷲ヒノキ等を活用した山育事業について

2月10日(火)、約1年間、年長さんが育てた苗木を尾鷲市の市有林(尾鷲みんなの森)に植樹してきました。この山育を通して、尾鷲の豊かな自然に親しみ、大切にすることが育ってくれると嬉しいです。



R8年2月16日
尾鷲第一保育園

2月12日（木）年長さんが育てた苗木を尾鷲市の市有林（尾鷲みんなの森）に植樹してきました。

この山育を通して、尾鷲の豊かな自然に親しみ、大切にする気持ちが育ってくると嬉しいです。



おわせのやまは
木がたくさん
そだってる



苗木たち、元気に育ってね
ぼくたち、わたしたちが
大きくなったら
見にいきたいな



やっほー

山の展望台からみた景色に
園児たち大歓声！！



植樹をした後は山を散策し、50年も育っているひのきを見ました。
杉とひのきの育ちや葉っぱのちがいがなど山や木々についていろいろなことを教えてもらいました。





山育だより

見晴台にて R8.2.19



7月から年長さんがお世話してきた苗木を、尾鷲市の私有林(尾鷲みんなの森)に植樹してきました。山育を通して、尾鷲の豊かな自然に親しみ、大切にすることが育ってくれと嬉しいです。



お～きくなあれ



令和8年2月 矢浜保育園

尾鷲市のふるさと教育のひとつ『尾鷲ヒノキ等を活用した山育事業』に、今年度も保育園の年長児が参加しています。山育とは、尾鷲市の大切な資源である尾鷲ヒノキや広葉樹について学び、苗木を育て、植林することで山や森に触れる体験をし、ふるさと尾鷲の自然に親しむことが目的です。

6月から年長児が育ててきた苗木(やまざくら・いろはもみじ・くぬぎ・やぶつばき)を『尾鷲みんなの森』へ植樹しに行ってきました。



『たのしかったよおで！』
初めて歩く山の中は、空気が美味しくて
遠くに海が見えて・・・いろんな発見がありました。
市役所の皆様ありがとうございました。



やっほー！
保育園まで
届くかな？



第三保育園のおともだちと一緒に植えました



[尾鷲市メインサイトへ](#)[サイトマップ](#)[お問い合わせ](#)[やさしい日本語](#)[Language](#)

背景色

[反転](#)[標準](#)

文字サイズ

[拡大](#)[標準](#)

尾鷲わんぱく子育てガイド

検索

[ホーム](#)[年齢・対象別で探す](#)[目的別で探す](#)[子育てしたい・
しやすい街づくりのために](#)[子育てマップ](#)現在位置 [尾鷲わんぱく子育てガイド](#) > [年齢・対象別で探す](#) > [0歳から2歳](#) > [預ける・幼稚園・保育園](#) > [認定こども園・保育園・幼稚園](#)

あしあと

尾鷲ヒノキ等を活用した山育事業 ★大事に育てた苗木を尾鷲みんなの森に植樹と散策をしてきました！★

[公開日：2026年2月25日] [更新日：2026年2月25日] ID:21374

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

[シェア](#)[ポスト](#)[LINEで送る](#)

尾鷲ヒノキ等を活用した山育事業

令和7年度みえ森と緑の県民税交付金事業を活用して、市内の保育園・認定こども園に在籍する年長児を対象に山育事業を実施します。

- 第1回 出前講座 園児1人1人に苗木を贈呈し、園児たちは、苗木を育て、成長を観察します。
- 第2回 植樹と森の散策 育てた苗木を尾鷲みんなの森に植樹及び森の散策を実施します。

植樹と森の散策！

植樹と森の散策の日程が決まりました！

- 現地時間 午前10時～午前11時10分頃
- 雨天時は延期します。また、天候によって内容を変更する場合があります。
- 日程は表のとおりです。

※2月9日（月）尾鷲第三保育園・矢浜保育園は、天候不良のため2月19日（木）に延期となりました。

日程表		
	日時	予備日（雨天時）
尾鷲第三保育園 矢浜保育園	2月9日（月）	2月19日（木）
ひのきっここども園	2月10日（火）	2月18日（水）
尾鷲第一保育園	2月12日（木）	2月16日（月）
とちのもり保育園	2月13日（金）	2月20日（金）

尾鷲みんなの森

[場所](#)



各園の山育だより

 [尾鷲第一保育園](#)

 [尾鷲第三保育園](#)

 [ひのきっこども園](#)

 [矢浜保育園](#)

 [とちのもり保育園](#)

出前講座

6月に市内の保育園・認定こども園を巡回し、水産農林課職員による「樹木や山・森について学ぶ」出前講座を実施しました。

園児たちは尾鷲ヒノキや山・森についての話を聞き、実際の尾鷲ヒノキを見て・触れて・香りを感じる体験をしました。

「尾鷲の山を守り隊」を任命された園児たちに、尾鷲ヒノキやヤマザクラ、クヌギ等の苗木をプレゼントし、園内で育ててもらいます。











各園の山育だより

 [尾鷲第一保育園](#)

 [尾鷲第三保育園](#)

 [ひのきっここども園](#)

 [矢浜保育園](#)

 [とちのもり保育園](#)

ご意見をお聞かせください

このページは役に立ちましたか？

☐役に立った ☐まあまあ役に立った ☒どちらともいえない ☐あまり役に立たなかった ☐役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

☐見つけやすかった ☐まあまあ見つけやすかった ☒どちらともいえない ☐やや見つけにくかった ☐見つけにくかった

このページに関してのご意見がありましたらご記入ください。

(注意) お答えが必要なお問い合わせは、直接担当部署へお願いします (こちらではお受けできません)。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	木とふれあう学校環境づくり				
事業費	172,260 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			172,260		

1. 事業の目的

本交付金を活用し、市産材で制作した木製の机・椅子を平成26年度に宮之上小学校へ、令和元年度に賀田小学校へ、R5年度に矢浜小学校配置し、木の温もりにふれあう快適な学習環境を構築した。将来にわたって児童が自分の机・椅子として使用するとしているが、日々の使用によって損傷するため、これを修理し再使用する。

2. 事業の実績

【事業内容】

木製机の修理又は損傷の激しいものは部品（県産材）交換を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【実施個所及び箇所数】

尾鷲市立宮之上小学校、賀田小学校矢浜小学校 計18枚

【事業量】

市産材で制作した組立式の机の天板

宮之上小学校 7枚、賀田小学校 3枚、矢浜小学校 8枚

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

導入事業者である森林組合おわせに補修・研磨を発注した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	木とふれあう学校環境づくり				
事 業 費	172,260 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			172,260		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

交付金事業により、木製の机・椅子を整備することで、木の持つ温かみや香り、肌触りなどの木の良さを実感できる快適な学習環境を構築する。木製ということもあり、使用により損傷してしまうものもあるが、将来にわたって使用する計画であることから、修理し再使用することとしている。このことから、物を大切にしようとする心を養うことができ、さらに、森林の重要性・必要性について学ぶ機会を得ることができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

児童が使用する机・椅子は、地元の「尾鷲ヒノキ」をふんだんに使った木の温もりが感じられるものであり、それ自体が木育をするための1つの教材と捉えている。天板を変えてずっと使っていくことは、卒業生から新入生へ、物を大切にしたい想いを繋ぐと共に、天板に使用した成木のあとに幼木を植樹することによる森林の繋がりがや、持続可能な社会の実現に向けた森林教育及び情操教育を行うツールとして活用していきたい。また、授業時間を確保し、市職員による地域材「尾鷲ヒノキ」についての説明を実施することで、森林の重要性や地元産材の歴史なども知ってもらいたい。

【新たな対策・視点及び改善点】

例年の継続事業であるため、特に新たな対策はありません。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	宮之上小学校、賀田小学校、矢浜小学校の児童
期待する波及効果	地元産材を使用した机の天板を補修し継続して使用することと、市職員による森林教育授業を実施することで、森林整備の大切さと成長サイクル、循環型社会や持続可能な社会の実現について学ぶことができる。

【公的関与の必要性】

小学校で児童が使用する机の天板の補修・研磨作業及び関連する森林学習であるため、管理者である市の関与が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

学校内各教室にて管理

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	市ホームページに天板交換の様子や、みえ森と緑の県民税市町交付金を活用した整備内容の説明を掲載
その他	実施前・後	地方新聞社各社へ報道資料の提供、記事掲載
その他	実施後	市公式Instagramに掲載
学校だより等掲載	実施後	学校だよりに掲載保護者への情報発信を行った。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

きれいな机になってうれしい、この机を大事にしていきたい等の感想が聞かれた。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	木とふれあう学校環境づくり
-----	---------------

6(1). 写真



写真1

水産農林課職員による木育授業を実施



写真2

水産農林課職員による木育授業を実施



写真3

天板作業を行う児童



写真4

天板作業を行う児童

写真5

写真6

写真5

写真6



賀田小だより

尾鷲市立賀田小学校

No. 14

令和7年12月9日

救急車の写生

11月20日（木）、1・2年生が尾鷲消防署輪内出張所へ写生に行きました。消防車が救急車どちらかを描くことになっていたのですが、みんなが救急車を選んだそうです。細かなところまで見て丁寧に描くことができました。なお、救急車に乗せてもらったり、ストレッチャーに寝かせてもらったりと、貴重な体験をすることもできました。



消防のお仕事を勉強しました

11月20日（木）、3年生も、社会科の勉強で尾鷲消防署輪内出張所を訪れました。消防自動車や通信の設備、日常的な仕事や万々に備えた訓練など、市民の安全な暮らしを守る消防署員の仕事について理解を深めました。なんとこの日は、消防服を装着する様子もを見せていただくことができ、その速さに子どもたちは驚いていました。



一輪車の発表会

11月20日（木）、1・2年生と3・4年生が学習参観会と一輪車の発表を行いました。6年生は残念ながらインフルエンザによる学年閉鎖でした。1～4年生は、自分自身の決めた目標の技を一生懸命練習し、見事に披露することができました。



和菓子作り体験

11月25日（火）、1・2年生がみのや製菓舗様にて、和菓子作りの体験をさせていただきました。2年生は昨年も経験があり、とても手際が良かったそうです。1年生は初めてでしたが、説明をしっかりと聞いて、うまく仕上げることができました。



天板の交換

11月27日（木）、1年生が教室で使っている机の天板を交換しました。「みえ森と緑の県民税」の市町交付金を活用し、尾鷲市が「木とふれあう学校環境づくり事業」として実施しているものです。1年生は、昨年経験した2年生の応援を受け、六角レンチでネジを外し、新しい天板を乗せて、ネジをつけて完成させました。新しい天板が嬉しくて、頬ずりしている子もいました。大切に使います。



おわせっこ共育フェスティバル

11月28日（金）、せぎやまホールにておわせっこ共育フェスティバルが行われ、市内の小中学生を代表して、6年生が「トチの学習」に関する発表を行いました。本来、昨年の5・6年生が発表する予定でしたが、インフルエンザで中止となったため、卒業生7人の分も合わせての発表でした。

当日は、これも賀田小の伝統である一輪車での入場で会場をどよめかせ、その後、一年間のとちに関する学習についてスライドを使いながら説明しました。6年生の堂々たる発表態度は皆さんから賞賛を受けました。とても良い経験となりました。



尾鷲わんぱく子育てガイド

[ホーム](#)[年齢・対象別で探す](#)[目的別で探す](#)[子育てしたい・
しやすい街づくりのために](#)[子育てマップ](#)

現在位置 [尾鷲わんぱく子育てガイド](#) > [子育てしたい・しやすい街づくりのために](#) > [各学校（園）のようす](#) > [小学校](#) > [賀田小学校](#)

あしあと [学校指導係](#) > [令和7年度](#) > [9月](#) > [10月](#) > 11月

11月

[公開日：2025年12月10日] [更新日：2025年12月10日] ID:23453

消防のお仕事を勉強しました。

11月20日（木）、3年生が、社会科の勉強で尾鷲消防署輪内出張所を訪れました。消防自動車や通信の設備、日常的な仕事や万一来った訓練など、市民の安全な暮らしを守る消防署員の仕事について理解を深めました。なんとこの日は、出動の際に消防服を装着する様子も見せていただくことができ、その速さに子どもたちは驚いていました。

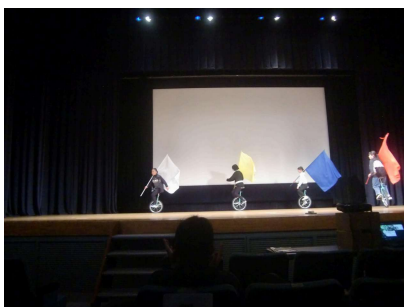


令和7年度

- > [4月](#)
- > [5月](#)
- > [6月](#)
- > [7月](#)
- > [9月](#)
- > [10月](#)
- > 11月
- > [12月](#)
- > [1月](#)
- > [2月](#)

おわせっこ共育フェスティバル

11月28日（金）、せぎやまホールにておわせっこ共育フェスティバルが行われ、市内の小中学生を代表して6年生が「トチの学習」に関する発表を行いました。当日は、これも賀田小の伝統である一輪車での入場で会場をどよめかせ、その後、一年間のとちに関する学習についてスライドを使いながら説明しました。大舞台での発表は、とても良い経験となりました。



天板の交換

11月27日（木）、1年生が教室で使っている机の天板を交換しました。「みえ森と緑の県民税」の市町交付金を活用し、尾鷲市が「木とふれあう学校環境づくり事業」として実施しているものです。1年生は、昨年経験した2年生の応援を受け、六角レンチでネジを外し、新しい天板を乗せて、ネジをつけて完成させました。新しい天板が嬉しくて、頼ずりしている子もいました。卒業まで大切に使います。



ご意見をお聞かせください

このページは役に立ちましたか？

☐役に立った ☐まあまあ役に立った ☒どちらともいえない ☐あまり役に立たなかった ☐役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

☐見つけやすかった ☐まあまあ見つけやすかった ☒どちらともいえない ☐やや見つけにくかった ☐見つけにくかった

このページに関してのご意見がありましたらご記入ください。

（注意）お答えが必要なお問い合わせは、直接担当部署へお願いします（こちらではお受けできません）。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
6	みえ森林教育ステーションを活用した木育事業				
事 業 費	375,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			375,100		

1. 事業の目的

みえ森林教育ステーションに認定されている、「みえ尾鷲海洋深層水アクアステーション」でのイベント時に、尾鷲ヒノキ製ミニ看板を掲示したり、市内事業者配布することで、市内の子どもたちに地元産材である尾鷲ヒノキに触れていただく機会の創出を行う。

2. 事業の実績

【事業内容】

尾鷲ヒノキ製ミニ看板を作製し、イベントなどで掲示し、みえ森と緑の県民税をPRするとともに、市内外事業者配布し、店内掲示をしていただく。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【実施箇所及び箇所数】

みえ尾鷲海洋深層水アクアステーションほか、市内外事業者約100か所

【事業量】

尾鷲ヒノキ製ミニ看板250個

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	登録者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

地元特産である「尾鷲ヒノキ」を活用し、大阪・関西万博で配布する啓発物品を作成した経緯もあり、質の高い啓発物品（ミニ看板）の確実な作製が期待できるため、当該業者を選定した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
6	みえ森林教育ステーションを活用した木育事業				
事 業 費	375,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			375,100		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】
 地元特産である「尾鷲ヒノキ」と「みえ尾鷲海洋深層水」の関わりについて学ぶことで、森林の大切さをより多くの方に知っていただくことができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】
 作製した尾鷲ヒノキ製ミニ看板を、みえ森林教育ステーションである「みえ尾鷲海洋深層水アクアステーション」でのイベント時に掲示し、来場者（約200名）に、尾鷲ヒノキが地域資源であること、森林が持つ役割、「みえ森と緑の県民税」を活用し看板を作製したことを周知した。さらに、日頃から深層水を利用している市内外の事業者100箇所へ配布し、店内展示を依頼することで、深層水と尾鷲ヒノキの魅力をセットで視覚的にアピールできるよう工夫した。

【新たな対策・視点及び改善点】
 今回の取り組みにより、一定の普及啓発効果が得られた。今後は、さらに多くの事業者への展開や、イベント時のSNS等と連動した情報発信などを検討し、より広範な地域資源の認知度向上に繋げていく必要がある。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	深層水を利用している事業者（100事業者）および、イベント参加者（約200名）
期待する波及効果	尾鷲ヒノキ製ミニ看板がイベントや、各店舗を訪れる多くの一般消費者・観光客等の目に触れることで、「みえ森と緑の県民税」を活用した取り組みや、尾鷲ヒノキ・深層水といった地域資源への認知度向上と利用促進が広く図られる。

【公的関与の必要性】
 地域資源（尾鷲ヒノキ・みえ尾鷲海洋深層水）の活用推進と森林保全の啓発は、持続可能な地域づくりにおいて不可欠である。これらを結びつけた普及啓発活動は民間単独では実施が困難であり、市が主体となって「みえ森と緑の県民税」を活用し推進する必要性が高い。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
 配布した各事業者に対し、店舗内での継続的な展示・掲示を依頼するとともに、目的外の使用をしないよう指導を行う。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	今後	市公式ホームページにて、事業者の看板配布情報を掲載するとともに、県民税活用も併せて掲載する。
広報誌掲載	今後	今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載する。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

海洋深層水の看板をヒノキを用いて、立てたことにより森林教育を通してヒノキの魅力を伝えた。
 ヒノキは綺麗で香りがとてもよいと反応があった。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	海洋深層水 ミニ看板尾鷲ヒノキ普及啓発事業
-----	-----------------------

7の(1). 写真



写真1
ミニ看板



写真2
森林教育の様子



写真3
森林教育の様子

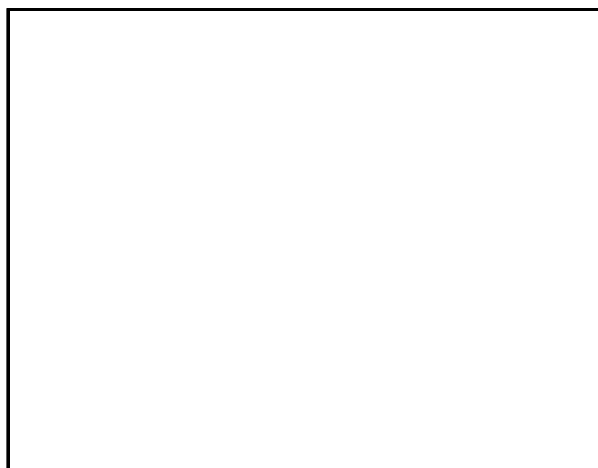


写真4



写真5



写真6

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
7	馬越公園整備事業				
事業費	1,133,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,133,000		

1. 事業の目的

世界遺産登録されている熊野古道馬越峠に隣接し、市内外から訪れ利用する多くの方に対し、憩いの場として活用されている馬越公園内の樹木を整備し、安全に安心して公園内で遊んだり寛ぐことができる、豊かな生活環境を実現することを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

高木となり景観上支障を及ぼすなど園内の枝や樹木、危険木の伐採、整備を実施する。

また、地域の小学生を対象に、公園内の不要木や支障木を活用した森林教育を実施し、森林の重要性等を学ぶ機会とする。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【実施個所及び箇所数】

馬越公園

【事業量】

景観上支障のある樹木、危険木を伐採し、森林教育に活用

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	林業事業体	補助事業ではない		入札

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

一般競争入札による業務委託

安全面と専門的な技術が必要となるため

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
7	馬越公園整備事業				
事 業 費	1,133,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,133,000		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

世界遺産熊野古道に隣接している馬越公園内の樹木を整備・伐採したことにより、倒木等の危険性を低減し利用者の安全確保が図られるとともに、景観の改善による観光満足度の向上が期待される。また、適正な森林管理を行うことで文化的景観の保全及び快適な散策環境の維持につながり、誘客促進にも寄与することができ、多くの人々に公園や熊野古道沿いの樹木や自然とふれあう機会を提供することが期待できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

伐採した危険木を活用して、小学生や保護者を対象に森林教育を実施することで、子育て世代にこの事業と森林の大切さを幅広く周知することができ、今後の活用も十分に期待できる。

【新たな対策・視点及び改善点】

景観に配慮した維持管理を継続するとともに、案内看板の充実や休憩スペースの環境整備など、来訪者が安心して快適に利用できる環境づくりを進めていく。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	小学生及びその保護者
期待する波及効果	小学生や保護者を対象に事業を実施することで、子育て世代に事業を幅広く周知することができ、今後の活用も十分に期待できる。

【公的関与の必要性】

市有地であるため、市が管理を行う必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市有地であるため、転用等が想定されず、該当しない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	みえ森と緑の県民税を活用した事業であることを示した標柱を設置した。
その他	実施中	事業実施中に担当から県民税を活用した取組であることを参加者に説明し事業を進めた。
広報誌掲載	実施後	事業内容を掲載

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

伐採した木を森林教育に活用したことにより、森林整備の重要性や木の魅力について、知ってもらい森林教育をしてもらってよかったと声をもらった。危険木を切ってもらって、安心できると声をいただいた。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	馬越公園整備事業
-----	----------

7の（1）. 写真



写真1

伐採前

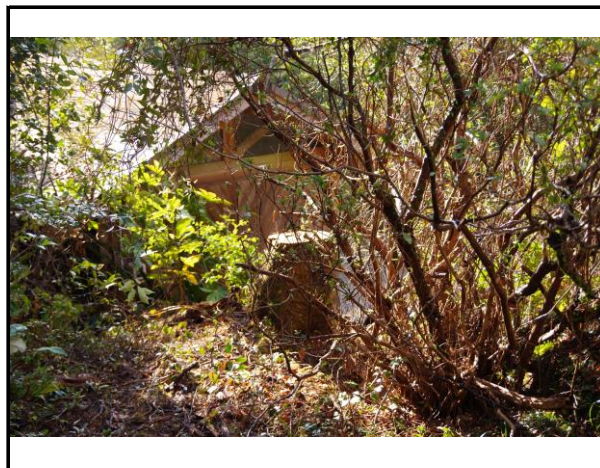


写真2

伐採後

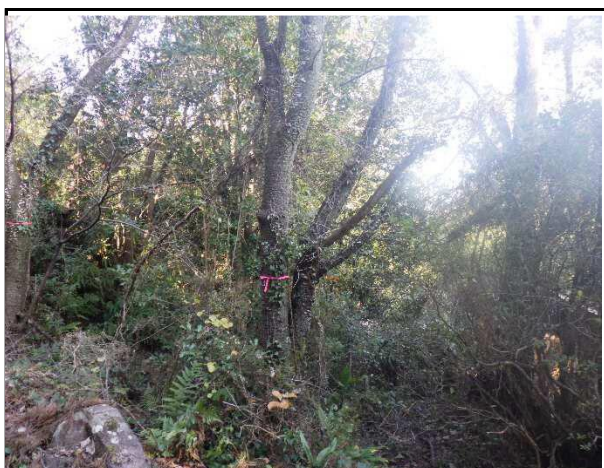


写真3

伐採前



写真4

伐採後



写真5

伐採前



写真6

伐採後

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	馬越公園整備事業
-----	----------

7の(1). 写真



写真1
標柱設置



写真2
小学生に事業説明



写真3
小学生に事業説明



写真4
森林教育事業



写真5
森林教育事業



写真6
森林教育事業

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
8	中村山公園ほか整備事業				
事 業 費	2,468,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,468,900		

1. 事業の目的				
市民の憩いの場として活用されている市内の公園内の樹木を整備し、安全安心に多くの市民が自然に触れ合う機会を設け、豊かな生活環境を実現することを目的とする。				
2. 事業の実績				
【事業内容】 市民が自然と触れ合える親しみやすい公園を整備するため、危険木や景観上支障のある樹木等の除去を実施するとともに地域の小学生を対象に、公園内の不要木や支障木を活用した木工体験教室を開催し、森林の重要性等を学んでいく。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 尾鷲市 【実施箇所及び箇所数】 2 か所（野地町駅前児童公園、大曾根公園） 【事業量】 ・公園に植生している危険木や景観上支障のある樹木の除去。 ・小学生を対象とした森林教育については貯金箱等をつくる木工体験を実施した。体験回数一回、参加者19名（1名欠席）				
3. 事業の実施方法				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】				
実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】 ・指名競争入札による業務委託 ・安全面と専門的な技術が必要となるため				

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
8	中村山公園ほか整備事業				
事 業 費	2,468,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,468,900		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

枯損木や危険木の伐採を行った結果、公園の計画向上や公園利用者の安全性の確保をすることができた。他にも市民から苦情が来ていた景観上の支障木を伐採できたことにより、以前より尾鷲市の自然豊かな海や山、街並みを見渡すことができるようになり、公園利用者の満足度に繋がることも期待される。現状においても、未だ木々が生い茂り危険木等も存在することから、引き続き、樹木等の伐採を行い、市民が使いやすく親しみやすい公園に整備することにより自然と触れ合える拠点を提供することができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

伐採木は、近隣住民の意見を参考としながら選定をおこなった。

【新たな対策・視点及び改善点】

大曽根公園には展望台があり、そこから海や山、尾鷲の街並みなどの景色を眺めたり、近くの椿園を散歩コースとして利用するなど様々な用途で訪れることのできる貴重な公園である。しかし、本来有する価値や魅力が十分に活かされておらず、現状は木が生い茂り、展望機能が十分に発揮されておらず、利用者が少ないのも事実である。そのため尾鷲の街並みを一望出来るとともに緑の豊かさを感じられる公園として、多くの人に親しまれる公園を目指し整備を進めていき利用者を増やしていきたい。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	地域の小学生や住民
期待する波及効果	伐採により景観も良くなり、多くの住民が安心安全に利用できる場所に近づいたとともに、観光地としての整備を行っていくことにより、将来的には市内外から来園者が訪れる公園を目指す。

【公的関与の必要性】

市有地（都市公園）であるため、市が管理を行う必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市有地であるため、転用等が想定されず、該当しない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	実施前：令和7年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和8年度当初に令和7年度事業実績の報告
広報誌掲載	実施前・後	令和8年6月号（予定）に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載
標識・標柱等設	実施後	実施場所付近に標柱を設置して県民税活用を周知する。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

展望台の目の前にあった景観上の支障木を伐採したことにより、海や山、尾鷲の街並みを見渡すことが出来るようになり、展望台からの眺めがかなり良くなったとの嬉しい声があった。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	中村山公園ほか整備事業
-----	-------------

6(1). 写真



写真1

景観上の支障木：伐採前

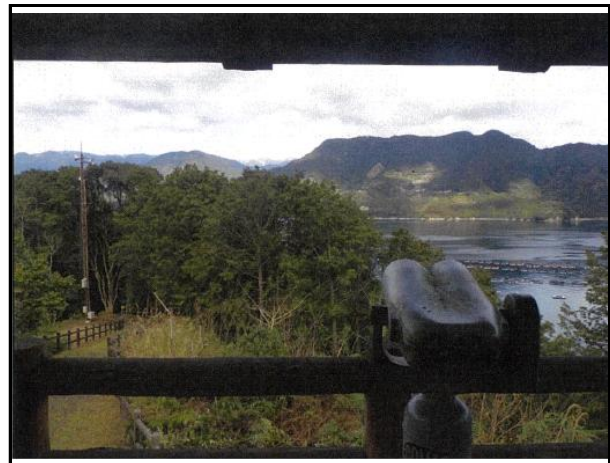


写真2

景観上の支障木：伐採後



写真3

危険木：伐採前



写真4

危険木：伐採後



写真5

大曽根公園標柱



写真6

野地町駅前児童公園標柱

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
事業名	中村山公園ほか整備事業				

6(1). 写真



写真1

森林教育（木工体験）



写真2

森林教育（木工体験）



写真3

森林教育（木工体験）



写真4

森林教育（木工体験）



写真5

森林教育（木工体験）



写真6

森林教育（木工体験）

紀 北 町

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和5年度版三重県市町要覧による）

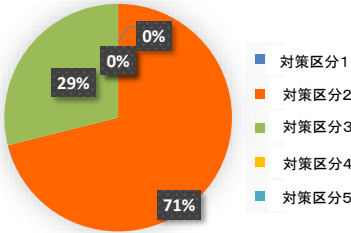
市町名	紀北町	三重県
人口（人）	13,288	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	7.0%	11.6%
森林面積(ha)	22,932.00	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	18,007.88	348,561.87
森林率(%)	87.7%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	52.1	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	危険木伐採事業	6,179,500	6,179,500		6,179,500				
2	2	集落周辺森林（里山）整備事業	333,600	333,600		333,600				
3	3	森林環境教育活動支援事業	2,650,061	2,650,061			2,650,061			
4	4	みえ森と緑の県民税市町交付金積立事業	1,885,839	1,885,839						1,885,839
				0						
計			11,049,000	11,049,000	0	6,513,100	2,650,061	0	0	1,885,839

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	0	0	0	
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0	0	0	
県民参加の植樹祭事業	0	0	0	

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	町民の安全・安心を守る暮らしに身近な森林づくりと、次世代を担う子どもたちが森林の大切さを学ぶ機会の創出
事業実施により期待される効果	危険木伐採事業では、事業実施主体である各区の森林管理の意識の向上が見られ、補助金活用の要望が増加し、集落周辺里山整備事業では事業主体の森林整備を行う様子や、新たな林内歩道が整備されている様子をSNS等で広く周知することで、整備を行った森林へ入る住民の安全性の向上が図られた。 また、森林環境教育では山、川、海を森林を起因とした一つのフィールドととらえ「紀北ネイチャラポ」を実施し、参加した生徒らの自然に対する興味、関心と危険性の認知の向上が図られ、緑の植樹活動事業では植樹イベントへ参加した町民及び来訪者等に緑を身近に感じる機会の創出を図り、森林に対する興味、関心が高まった。
情報発信への取組	紀北パーキングエリア内の始神テラスの一角や、町内イベントブースに展示スペースを設け事業成果を示したパネル展示や、ノベルティの配布を行った。また、町民向けの行政放送テレビチャンネルで県民税について取り扱いを行い、事業実施地にはPR用の木製標柱を設置した。

年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	② 意向調査	12,836	12,836
2	⑥ 林道・林専道の整備等	8,684	8,684
3	⑦ その他（森林整備）	20,834	20,834
4	⑦ その他（森林整備）	18,272	18,272
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	60,626	60,626

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	危険木伐採事業				
事業費	6,179,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,179,500		

1. 事業の目的

人家や公共施設等に隣接した山林等において、倒木の恐れがある危険木を伐採することによって被害を未然に防止し、家屋や施設、人命を守り、生活環境の保全や安全性の向上を図る。

2. 事業の実績

【事業内容】

人家等に隣接し、倒木になる恐れのある危険木について、緊急に伐採する必要があるが、所有者による伐採が困難である場合に限り、その費用の一部を自治会に補助して伐採する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

自治会

【実施箇所及び箇所数】

自治会15箇所

（加田、船津、茂原、上里、志子奥、三浦、道瀬、山本、十須、田山、山居、松本、白浦、中桐、此ヶ野）

【事業量】

自治会15箇所 550本

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	9/10以内	1申請につき1年度50万円の上限	
委託事業	その他			標柱

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請書の提出と早期対応の必要があるかを添付書類にて判断。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	危険木伐採事業				
事 業 費	6,179,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,179,500		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

人家裏や公共施設等の危険木を事前に伐採することにより、集中豪雨や強風時の倒木による危険性を未然に回避し、地域住民の生活環境の向上や公共施設等の安全、安心が確保されるとともに、住民の森林整備に対する意識の向上が見込める。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

実施した自治会に回覧板等により周知する

【新たな対策・視点及び改善点】

危険木伐採の補助要綱において、伐採箇所の地目が「山林」であるものを対象としていたが、受益者等からの強い要望があり、現況が山林化している急傾斜地等に対しても対象とするよう改めたことから、広く希望に対応できるようになり、地目が「保安林」であるのものや、その他の地目で生活環境の改善が進んでいる。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	15自治会、住宅、道路、集会所等
期待する波及効果	隣接する人家等の安全性の確保

【公的関与の必要性】

個人での危険木の伐採には手間も費用もかかり負担が大きいことから伐採が遅れてしまうため、補助によって早期に伐採することが出来る。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町の補助金交付要綱により転用や目的外使用について制限はかけていない。自治会が森林所有者から事業実施の同意を得た上で森林内での必要最低限の危険木伐採を行う

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

暮らしに身近な森林づくりの重要性を再認識し、税を活用する事業であることを自治会（地区住民）で議論していただくために、自治会としての要望書の提出を事前に義務付けている。

事業実施により森林所有者はもとより、各地区の住民が森林管理の必要性を再認識し、森林整備の意識醸成につながった。また各自治会からは、人家裏山林の状況を再度確認した上で事業に取り組みたいと聞いている

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
事業名	危険木伐採事業				

6(1). 写真

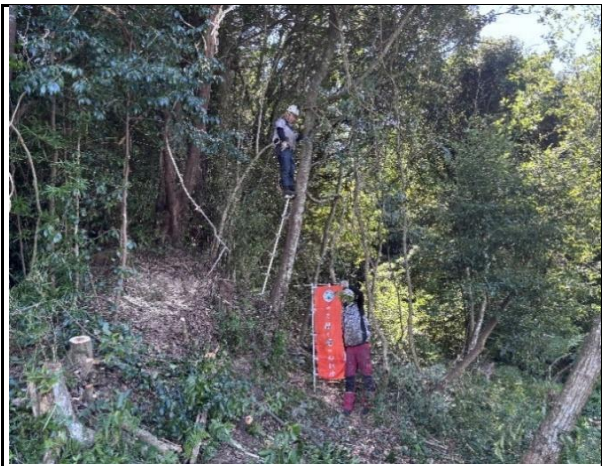


写真1

令和7年度 茂原地区 危険木 伐採状況



写真2

令和7年度 茂原地区 危険木 伐採後



写真3

令和7年度 田山地区 危険木 伐採前



写真4

令和7年度 田山地区 危険木 伐採後

写真5

写真5

写真6

写真6

【様式集㉔】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

6(2).補助事業者取組一覧

補助事業者名	補助金額	取組概要
加田区	500,000	伐採40本
船津区	241,000	伐採30本
茂原区	231,000	伐採8本
上里区	154,000	伐採1本
志子奥区	445,000	伐採120本
三浦区	286,000	伐採10本
道瀬区	500,000	伐採123本
山本1区	500,000	伐採60本
十須区	500,000	伐採15本
田山区	500,000	伐採25本
山居区	500,000	伐採50本
松本1区	500,000	伐採23本
白浦区	449,000	伐採30本
此ヶ野区	180,000	伐採4本
中桐区	446,000	伐採11本

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	集落周辺（里山）整備事業				
事 業 費	333,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			333,600		

1. 事業の目的

当地域は、沿岸部に人家が密集し、背後に急傾斜地を有する人家が多く、近い将来想定される東南海地震による津波の襲来が心配される。また、近年人家周辺山林に人が入ることが少なくなり、野生動物の隠れ場になっているケースも多い。

このような集落周辺の荒廃が進む森林を、住民自らが整備することで、森林のもつ多面的な機能を活用し、安全安心・快適な生活環境を創出していく。

2. 事業の実績

【事業内容】

集落周辺の里山において、風倒木の伐採、不要萌芽の除去、雑草木の刈払い、土留め、林内歩道の設置など、森林整備活動を実施した地域住民で組織する団体（ボランティア団体）に補助する

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

地域住民で組織する団体（ボランティア組織）

【実施箇所及び箇所数】

2団体 : 施業箇所4箇所

NTRC：大台ヶ原尾鷲道、木津道 白石湖周回登山道

引本グリーンクラブ：引本トレイル

【事業量】

NTRC：大台ヶ原尾鷲道 0.9ha 木津道 2.0ha 白石湖周回登山道 0.7ha 面積 ①計3.60ha

引本グリーンクラブ：引本トレイル ②1.25ha ①+②=4.85ha

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	その他	1ヘクタール当たり16万円を上限とする。補助金の額は1団体、年度当たり20万円を上限とする。	3名以上で組織する団体が自主的に取り組む、集落周辺の森林整備等に関する保全活動及び森林環境整備活動に直接必要と認められる経費（人件費、食糧費等は除く。）

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

荒廃した里山等の再生並びに集落周辺の登山道等の整備など、暮らしに関わりの深い森林づくりが地域住民の自主的な取り組みにより継続的に実施されることを期待するとともに、最小限の費用で整備することが可能である活動団体を選定

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	集落周辺（里山）整備事業				
事 業 費	333,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			333,600		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

森林整備することで、住民が安心安全かつ、気軽に里山に立ち入りできるようになり、林内を良好な状態に保つことができるとともに、野生動物による獣害の防止や住民協働による里山整備の拡大などへの波及効果が期待できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

NTRCに対し、本事業の取り組みを継続的に実施するよう求めた。

【新たな対策・視点及び改善点】

登山道沿いの風倒木処理や、下刈り、林内歩道の設置等の森林整備だけでなく、枝打ち等の全体的な森林整備を実施した。また去年に引き続き団体にホームページ、ブログ、SNS等で県民税活用の積極的なPRを求める。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	登山者、森林所有者、集辺住民
期待する波及効果	森林の適切な整備と、登山者の安全確保

【公的関与の必要性】

紀北町は「自然と共生の町」を宣言しており、豊かな自然のある大台ヶ原への登山道の整備であることから、税を活用した登山者の安全確保は必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

登山道については以前から登山者や森林所有者が利用しており、今後も同様の活用となると考えられる。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
その他	実施中	SNS等で発信し、利用者に県民税により実施したことを周知する。
TV（行政チャ	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

登山者からは、登山道の環境が整備がされ、安全性が増したという意見をいただいている。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
事業名	集落周辺（里山）整備事業				

6(1). 写真



写真1 令和7年度実施 NTRC
木津道 風倒木処理前



写真2 令和7年度実施 NTRC
木津道 風倒木処理後



写真3 令和7年度実施 NTRC
高丸山登山道 見晴らし場 整備前



写真4 令和7年度実施 NTRC
高丸山登山道 見晴らし場 整備後



写真5 令和7年度実施 引本グリーンクラブ
白石湖トレイル 植栽、獣害柵設置状況



写真6 令和7年度実施 引本グリーンクラブ
白石湖トレイル 植栽、獣害柵設置完了後

【様式集㉔】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	集落周辺森林（里山）整備事業
-----	----------------

6(2).補助事業者取組一覧

補助事業者名	補助金額	取組概要
NTRC	133,600	・尾鷲道 0.9ha ・木津道 2.0ha ・白石湖周回登山道 0.7ha 風倒木・枯損木の伐採、雑草木の刈払い 不要萌芽の除去 歩道・作業道の作設・改修、土留め
引本グリーンクラブ	200,000	・引本トレイル 1.25ha 植樹、獣害柵設置 風倒木・枯損木の伐採 雑草木の刈払い 歩道・作業道の作設・改修

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	森林環境教育活動支援事業				
事 業 費	2,650,061 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,650,061		

1. 事業の目的

町では、中学校の総合学習の時間を活用し「キャリアラボ」「クリエイティブラボ」「ネイチャーラボ」の3つのカテゴリーに分けて、体験学習プログラムを実施しています。

この中の「ネイチャーラボ」において、町内の豊かな自然を活用し、森林環境教育活動及び林業体験活動、木育活動を実施し、次代を担う児童や生徒、地域住民に対して、自然の持つ様々な公益的機能や役割、環境に関する正しい知識の提供と理解の促進を図る機会を創出し、森林や林業に理解の深い人材の育成を目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

森林環境教育の新たな取り組みとして実施する紀北ネイチャーラボでは、教育委員会や町内全中学校と連携し「山・川・海」を森林を起因とした一つのフィールドととらえ、町内の様々な自然を活用し、生徒自ら伐採、搬出した木材を使ったベンチ作りやシーカヤック体験、生き物観察などを各学校の方針に沿った様々なフィールドワークを校区内にある自然を活用し、実施することで、森林をはじめとする自然の豊かさや大切さ、併せて自然の怖さや危険性の認知を促し、参加した生徒らに自然をより身近に感じてもらう。また複数年にわたって年間5回のカリキュラムを確保し、ブラッシュアップしたフィールドワークを実施することで継続性と発展性のある学びとする。

木育活動では、木の実や木の葉などの森林の恵みを生かした小物作り等、県産材を使用した身近な木製品（おもちゃ、箸、コースター、ストラップ等）作り等を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

町内中学校

【実施箇所及び箇所数】

町内中学校 4校

【事業量】

紀北中13コース、潮南中13コース、三船中5コース、赤羽中5コース、計36コースの自然体験プログラムを実施

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	10/10以内	-	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

自然体験プログラムに参加するにあたり、ある程度の年齢等が必要になることや、学校からの希望もあり町内の全中学校を選定

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	森林環境教育活動支援事業				
事 業 費	2,650,061 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,650,061		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

当地域で盛んに行われてきた林業が、従事者の激減とともに衰退し、手入れされていない山林が増加するなど山林の荒廃が急激に進行している。こうした現状の中、植えて、育てて、使い、また植える林業の循環の重要性や森林の持つ公益的な機能の重要性を町内の子供たちに理解してもらうとともに、林業という仕事について知り、興味を持ってもらう機会を創出する。併せて、川、海でのフィールドワークを通じて、治水や浄水、生物多様性といった森林の機能による自然の恵みを体感する。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

紀北ネイチャーラボ初回の導入時間に事前座学を実施し、町の林業や森林整備の重要性、また町の自然「山・川・海」が森林を起因として一つに繋がっていることを学ぶことにより、生徒らの興味関心を引き出すことが期待できる。

【新たな対策・視点及び改善点】

森林環境教育の新たな取り組みとして「紀北ネイチャーラボ」を実施することで、これまで希望する学校のための年間1回の単発的な取り組みが、年間5回の活動の中でより継続性と成長性を促し、生徒が森林を含めた自然への興味や危険性の認知、自然を大切にしていくための主体的な行動や気づきを促していく。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	参加、生徒 中学生27名
期待する波及効果	林業に対する正しい知識の習得、森林を含めた自然への興味や危険性の認知

【公的関与の必要性】

現地での森林整備体験に町有林を活用可能。教育委員会及び学校との連携、調整が容易。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する
啓発物品配布	実施中	実施主体の団体等による情報発信（紹介動画等の案内）を通じて周知を図る
広報誌掲載	実施後	事業内容を掲載して町民に周知を図る
のぼり設置	実施中	実施箇所に設置し、町民に周知を図る
その他	実施中	マスコミへ周知し、新聞等にて、町民へ県民税により実施したことを周知する。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

振返り発表会及び参加生徒からのアンケートに、体験中の危険だと感じたことや、学んだこと等の感想を得られた。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育活動支援事業
-----	--------------

6(1). 写真



写真1 令和7年度 森林環境教育事業
紀北ネイチャー・ラボ 三船中 第1回「導入／グループワーク」



写真2 令和7年度 森林環境教育事業
紀北ネイチャー・ラボ 紀北中 第2回「間伐体験」



写真3 令和7年度 森林環境教育事業
紀北ネイチャー・ラボ 三船中 第4回「スラックライン体験」



写真4 令和7年度 森林環境教育事業
紀北ネイチャー・ラボ 潮南中 第4回「木登り」



写真5 令和7年度 森林環境教育事業
紀北ネイチャー・ラボ 赤羽中 第2回「川渡り／ロープワーク」



写真6 令和7年度 森林環境教育事業
紀北ネイチャー・ラボ 赤羽中 第5回「振り返り」

【様式集㉔】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育支援事業
-----	------------

6(2).補助事業者取組一覧

補助事業者名	補助金額	取組概要
紀北中学校	915,200	プログラム回数13コース 70,400円／回
潮南中学校	915,200	プログラム回数13コース 70,400円／回
三船中学校	352,000	プログラム回数5コース 70,400円／回
赤羽中学校	352,000	プログラム回数5コース 70,400円／回
消耗品費	8,250	のこぎり（替え刃）
消耗品費	39,871	アイゼン、ベルト
講師委託費用	67,540	間伐体験職員派遣依頼費用

森林環境教育活動 参加生徒アンケート結果（抜粋）

対象： 対象：紀北町内の中学校4校の1・2年生

紀北中学校、潮南中学校、三船中学校、赤羽中学校

回答数： 157 名

Q1 紀北町の自然、森林に触れて良さは伝わりました？

伝わった 153 / 157

Q2 体験を通して森林について理解は深まりましたか？

深まった 138 / 157

Q3 各フィールドワークの感想をお聞かせください。

間伐体験

とてもよかった・よかった 90 / 157

スラックライン/ハンモック

とてもよかった・よかった 102 / 157

カヤック体験

とてもよかった・よかった 71 / 157

※この他に、スウェーデントーチづくり体験や、シュノーケル、川流れ、生物探し、防災体験、ロープワーク等のプログラムを実施しています。

Q4 今年実施したフィールドワークの中で、特に印象に残った体験や、体験中のできごとなどを教えてください。

間伐体験

- ・初めて木を切ったこと
- ・大変だけど楽しかった
- ・木の皮をむくとつるつるで水分があつてすごかった。
- ・10年生で驚いた。
- ・受け口、追い口を作るのがおもったより大変
- ・木を切るのがとてもむずい
- ・疲れたけど楽しかった。

ロープワーク/川渡り

- ・ 自然を使って色んな遊びなどにすることができるんだと思った。
- ・ スラックラインを初めて知った、やったことなかったから楽しかった。※複数回答
- ・ ハンモックで森林にいやされてくつろげてよかった。
- ・ ハンモックでゆったり森の中ですごせた時間が最高。
- ・ 友達同士がんばれ！と声をかけあって、怖がりながらも楽しそうに渡っている人がたくさんいた。
- ・ スラックラインで、自然の中で働く人の大変さがよくわかった。
- ・ 実際に林業をしている人たちは、スラックラインで体験した高さよりもはるか上で作業していることに驚いた。

カヤック体験

- ・ カヤックに乗って、自分の知らない自然が広がっていて驚いた。
- ・ 川の流れが思ったより早かった。
- ・ 海水、淡水で分かれてた。
- ・ カヤックに乗って、自分の知らない自然が広がっていて驚いた。

熊 野 市

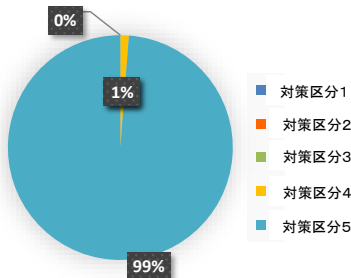
令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業

市町別総合評価シート
対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5

1. 基礎情報（令和5年度版三重県市町要覧による）

市町名	熊野市	三重県
人口（人）	14,216	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	8.8%	11.6%
森林面積(ha)	32,942.33	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	29,628.77	348,561.87
森林率(%)	88.0%	64%
都市公園面積(㎡/人口)＊3	13.2	10.6

- ＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）
＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	4	木育環境充実事業	165,000	165,000				165,000	
2	5	森とふれあいの場拠点づくり事業	13,414,498	13,414,498					13,414,498
				0					
計			13,414,498	13,414,498	0	0	0	165,000	13,414,498

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	2.49ha	2,921,600	2,921,600	災害緩衝林実施箇所周辺の調整伐
災害からライフラインを守る事前伐採事業				
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	熊野市の地勢は内陸に向かうに従って紀伊山地の急峻な山地となり、森林面積は総面積の88%を占めている。また、民有林面積は29,000ha超と全森林の約90%を占め、うち人工林は22,000ha超と県下でも有数の林業地域である。しかしながら、林業を取り巻く環境は木材の長期的な低迷に加え、担い手の減少、林業従事者の高齢化、生産基盤の立ち遅れ等が極めて厳しく、このまま推移すれば森林の整備水準の低下等により公益的機能が十分に発揮されないなど、住民生活への影響が懸念されている。そのため、「災害に強い森林づくりと環境林の保全」という熊野市森林・林業ビジョンの基本方針の1つに沿って、防災機能の強化による安全・安心の実現、里山林整備と奥地天然林や溪畔林の保全、身近な森林の恵みを活用する環境づくりなど、森林が与えてくれるさまざまな恩恵を評価した上で、森林と積極的に付き合っていく取組を展開していく。令和7年度については、貴重な地域資源として平成30年度から市が取り組んできたクマノザクラの保全と活用を一層進めるべく、森林公園や小学校の校庭への植栽のほか、地域資源としての価値の高い1本桜の治療を行った。また、多くの利用者が継続して利用している身近な熊野古道や森林公園に対し、木製サインの整備や枯損木の撤去など、多くの利用者・来訪者に緑を身近に感じてもらう環境づくりを維持・強化することができた。さらには、都市公園内に所在する木育施設へ地元産材を使用した木製ボールプールを整備することにより、より一層幅広い年代の利用者が木にふれあうことのできるよう機能強化を図った。
事業実施により期待される効果	市が公益性の判断で実施する事業には特定機能の維持を図るもののほか、生活道路や施設の利用者など多くの人々に効果を及ぼすものが多く、県民税事業を行うことにより、安全・安心に地元の森林や自然とふれあう環境を整備することができ、市民だけでなく市への来訪者にも恩恵を受けてもらう。
情報発信への取組	事業実施の際にはのぼりや看板によって県民税のPRを行っているが、広い市域の中にあって事業箇所が点在しており、利用者の目にふれる機会が少ないことから、市のホームページに事業の計画と実績の紹介へ市の玄関口であるJR熊野市駅や市街地に近い市文化交流センターにおいて例年パネル展示を行っている。

令和7年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税（千円）
1	① 意向調査の準備作業	438	438
2	② 意向調査	12,987	12,987
3	③ 私有林整備	56,162	56,162
4	③ 私有林整備	2,878	2,878
5	⑥ 林道・林専道の整備等	1,558	1,558
6	⑰ 基金積立（森林整備等）	92,544	92,544
7			
8			
9			
10			
	合計	166,567	166,567

令和 7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	木育環境充実事業				
事 業 費	165,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			165,000	0	0

1. 事業の目的

令和3年度に「みえ森林教育ステーション」に認定された木育施設の環境を一層充実させ、将来の森林・林業・木材産業の担い手や消費者となる子どもたちに対して、より効果的な木育を行うことのできるよう環境整備を行う。

2. 事業の実績

【事業内容】

山崎運動公園に所在する「ちびっこ木造ふれあい施設」内に、人気の高い木製ボールプール1基を追加整備することにより、当施設の木育環境の強化を図る。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

熊野市

【実施個所及び箇所数】

木製ボールプール設置1箇所（ちびっこ木造ふれあい施設）

【事業量】

熊野市産ヒノキ材（一部使用）木製ボールプール1基（枠のみ。木製ボールは所有しているものを使用。）

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	木工製造業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

地域材を積極的に活用する事業者の中から、指名競争入札により委託先を決定した。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	熊野市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	木育環境充実事業				
事 業 費	165,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			165,000	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】
 地元木材を使用した木製遊具を整備することで日頃から木材にふれあうことのできる環境を提供できる。当施設は親子連れなど幅広い年代の利用者がいることから、広く利用者に木にふれあう効果を及ぼすことができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】
 当施設は単独で設置された木造の木育施設であり、市内最大の都市公園である山崎運動公園に所在する立地条件も相まって、東紀州地域のみならず県外からも多くの親子連れ等が訪れる人気の高い施設である。森林率約90%の本市にとって木育を行う絶好の環境であることから、当施設の木育用玩具の充実さらなる集客・木育効果の発揮が期待できる。

【新たな対策・視点及び改善点】
 気軽に木に親しむ場所として、子どもを中心としながらも親子連れなど幅広い年代に木の空間の素晴らしさを伝えるために、当施設の更なる利用促進を図る手段として利用者に好評な遊具を充実させる。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	ちびっこ木造ふれあい施設利用者12,000人
期待する波及効果	周辺通行者や校庭等を利用する地域団体等への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】
 対象となる施設は市が管理する施設であり、これらを適切な状態に維持して利用者に活動の場として提供することが市の方針である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
 施設の管理者である熊野市が適正に管理していく。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行う。
HP掲載	実施前・後	年度当初に予定事業を掲載し、事業結果は翌年度当初に公表する。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

「木にさわるとすべすべして気持ちいい」「面白い遊具を更に充実してほしい」「木のものに囲まれると明るく気持ちがいい」「丸いボールが気持ちいい」「ボールプールが2つになったので順番待ちをしなくて嬉しい」などの声が聞かれた。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	木育環境充実事業
-----	----------

6の(1). 写真



写真1

ちびっこ木造ふれあい施設（左側建物）



写真2

小型木製ボールプール（手前）

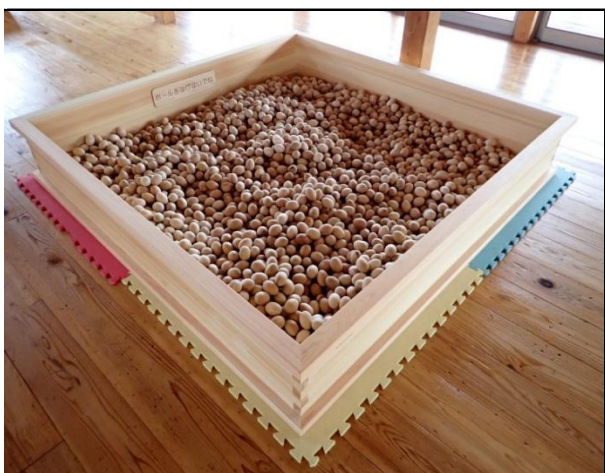


写真3

小型木製ボールプール



写真4

県民税PR



写真5

写真5



写真6

写真6

令和 7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	森とふれあいの場拠点づくり事業				
事 業 費	13,414,498 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			13,414,498	0	0

1. 事業の目的

市民が身近に水や緑を感じ、熊野古道をはじめとした地域の歴史や自然に親しむことのできる森林公園や遊歩道などの整備を行うことで、より市民に利用され、日常的に森林環境学習や木育の拠点として水や緑に親しむ箇所を創出する。

2. 事業の実績

【事業内容】

森と緑と日常的に快適にふれあえることのできる拠点づくりのため、クマノザクラの植栽や歩道の修繕、枯損木・雑草木の除去、支障木の伐採を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

熊野市

【実施箇所及び箇所数】

下刈等8箇所（鬼ヶ城園地、小鳥の囀る森公園、湯ノ口公園、夕陽の丘公園、田平子公園、小口谷クマノザクラ園地、大峰近隣公園、防災公園クマノザクラ園地）森林空間整備1箇所（有馬中学校）、木柵設置及び植栽1箇所（防災公園）、治療作業2箇所（長尾美春桜、赤木桜）、道標整備35箇所（熊野古道風伝峠道及び本宮道）

【事業量】

下刈り等14.38 ha、支障木伐採4本、クマノザクラ植栽58本、病木治療2本、ロープ柵50m、木柵58m、道標35基

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

本事業で実施する山林内での下刈や支障木伐採には専門的な知識と技術が必要であるため、類似業務の実績が豊富な森林組合に委託するのが適当であると判断したため。

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

森とのふれあいの場を整備することで日頃から森林にふれあうことのできる環境を提供できる。同時に、それぞれの森林公園等を利用する協力団体が実施する森林環境学習等を通じて、より市民が森林にふれあうという相乗効果を図ることができる。

令和 7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	森とふれあいの場拠点づくり事業				
事 業 費	13,414,498 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			13,414,498	0	0

【効果を発揮させるための工夫・取組】

整備を実施した施設に対しては、周辺の宿泊施設での館内放送・マップ配布により利用を促進している。また、トレイルランニングレースやクマノザクラの鑑賞会などのイベント時の利用を行い、施設のPRを行っている。さらに、クマノザクラについては植栽後の適切な保育方法を学ぶため、関係業務を請け負う森林組合の作業員を対象として専門家による現地研修会を実施し、担い手を増やすことに努めた。

【新たな対策・視点及び改善点】

これまでも適切な整備を行うことで快適な利用が可能になっていると市民から好評を得ているため、今後も継続して整備を行う必要がある。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	年間推計利用者42,600人（鬼ヶ城園地30,000人、小鳥の囀る森公園300人、湯ノ口公園7,000人、夕陽の丘公園300人、田平子公園300人、小口谷クマノザクラ園地100人、大峰近隣公園100人、防災公園クマノザクラ園地300人、有馬中学校周辺2,000人、長尾美春桜500人、赤木桜500人、熊野古道風伝峠道1,000人、熊野古道本宮道1,000人）
期待する波及効果	周辺を利用する観光客・イベント参加者への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

対象となる施設は市が管理する施設であり、これらを整備してさらなる利用者の増加を図り、森林のもたらす恩恵を利用者に享受してもらうことが市の方針である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設の管理者である熊野市が適正に管理していく。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施中	
のぼり設置	実施中	
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行う。
HP掲載	実施前・後	年度当初に予定事業を掲載し、事業結果は翌年度当初に公表する。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

「だんだんクマノザクラが大きくなってきて、花見の季節が待ち遠しい（大峰近隣公園）」「分かりやすい観光サインができて、安心して熊野古道が歩けるようになった（熊野古道本宮道ほか）」「毎年参加しているが、熊野古道をはじめとして森林の景観を楽しめるトレイルランニングレースはない（熊野古道本宮道ほか）」「自分たちで植樹したクマノザクラが将来後輩たちを楽しませてほしい（有馬中学校）」「植樹の体験がふるさとの記憶として残る（有馬中学校）」などの声が聞かれた。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

6(1). 写真



写真1

下刈り（鬼ヶ城園地・実施前）



写真2

下刈り（鬼ヶ城園地・実施後）



写真3

下刈り（防災公園クマノザクラ園地・実施前）



写真4

下刈り（防災公園クマノザクラ園地・実施後）



写真5

下刈り（小口谷クマノザクラ園地・実施前）



写真6

下刈り（小口谷クマノザクラ園地・実施後）

【様式集②】第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

6(1). 写真



写真1
下刈り（小鳥の囀る森公園・実施前）



写真2
下刈り（小鳥の囀る森公園・実施後）



写真3
下刈り（田平子公園・実施前）



写真4
下刈り（田平子公園・実施後）



写真5
下刈り（夕陽の丘公園・実施前）



写真6
下刈り（夕陽の丘公園・実施後）

【様式集②】第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

6(1). 写真



写真1
下刈り（湯ノ口公園・実施前）



写真2
下刈り（湯ノ口公園・実施後）



写真3
クマノザクラ植栽（防災公園クマノザクラ園地・中苗）



写真4
クマノザクラ植栽（防災公園クマノザクラ園地・小苗）



写真5
園地進入路整備（防災公園クマノザクラ園地・実施前）



写真6
園地進入路整備（防災公園クマノザクラ園地・実施後）

【様式集②】第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

6(1). 写真



写真1
ロープ柵移設（防災公園クマノザクラ園地・実施前）



写真2
ロープ柵移設（防災公園クマノザクラ園地・実施前）



写真3
木柵新規設置（防災公園クマノザクラ園地・実施前）



写真4
木柵新規設置（防災公園クマノザクラ園地・実施後）



写真5
殺菌剤散布（赤木桜・実施中）



写真6
今年の開花状況（赤木桜）

【様式集②】第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

6(1). 写真



写真1
殺菌剤散布（長尾美春桜・実施中）



写真2
今年の開花状況（長尾美春桜）



写真3
支障木伐採（有馬中学校・実施前）



写真4
支障木伐採（有馬中学校・実施後）



写真5
支障木伐採（有馬中学校・実施中）



写真6
森林環境学習①（有馬中学校）

【様式集②】第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業				

6(1). 写真



写真1

森林環境学習②（有馬中学校）



写真2

森林環境学習③（有馬中学校）



写真3

森林環境学習④（有馬中学校）



写真4

森林環境学習⑤（有馬中学校）



写真5

熊野古道サイン整備①（実施前）



写真6

熊野古道サイン整備①（実施後）

【様式集②】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

6(1). 写真



写真1
熊野古道サイン整備②（実施前）



写真2
熊野古道サイン整備②（実施後）

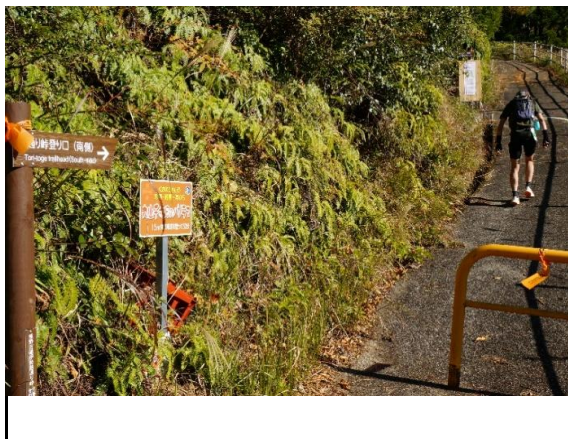


写真3
熊野古道サイン整備③（トレイルランニングレース使用中）

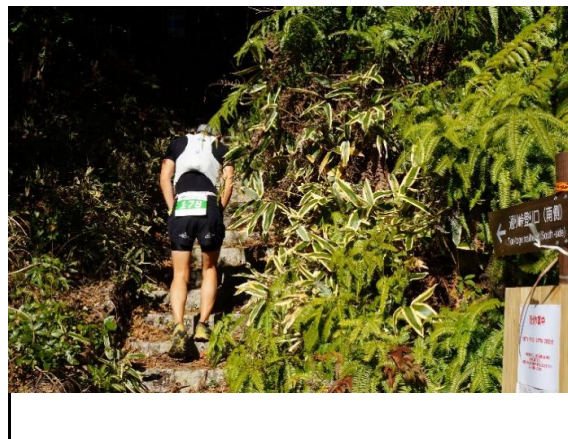


写真4
熊野古道サイン整備④（トレイルランニングレース使用中）



写真5



写真6

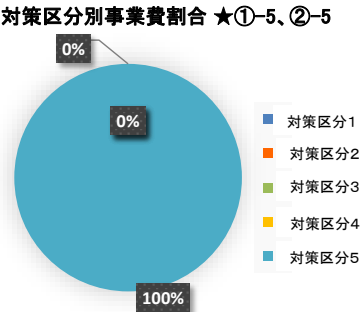
御 浜 町

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和5年度版三重県市町要覧による）

市町名	御浜町	三重県
人口（人）	7,580	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	9.7%	11.6%
森林面積(ha)	5,696.85	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	5,603.74	348,561.87
森林率(%)	65.0%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	22.0	10.6

- ＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）
＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	5	森林公園等環境整備事業	6,165,635	6,162,688					6,162,688	
2	5	イヌマキ保全事業	137,312	137,312					137,312	
計			6,302,947	6,300,000	0	0	0	0	6,300,000	0

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	本町は、県南部に位置し、東部は雄大な太平洋熊野灘に面した海岸線沿いには、比較的平坦な低地が広がりますが、内陸部では山岳地帯を形成しており、人工林率は71%と県平均の62%を上回っていて、かつては積極的に植林がされてきた地域です。しかし林業経営の悪化などから森林への関心は薄れ、適切な整備がされず森林が持つ公益的機能が十分に発揮でいる状態ではない森林も見受けられます。 このことを踏まえ、みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し、森林公園等のフィールド整備や三重県天然記念物の文化財に指定されている「神木のイヌマキ」を保全管理することで、住民が木や緑とふれあう環境を身近なものにしていきます。また、木の良さや木を使うことが森林整備につながることの重要性を広くPRしていく「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めます。
事業実施により期待される効果	町民や来訪者に利用される遊歩道及び公園を整備することで、多くの人が森林や緑と触れ合う機会をつくることができました。寺谷総合公園を遠足先とする小学校もあり、また家族の利用者も多いため、地域の子供たちが森林にふれる環境をつくることができました。
情報発信への取組	町民や施設利用者へ県民税を活用して整備が行われていることを周知するため、作業期間中に県民税ののぼり等の設置、庁舎内でのパネル掲示、広報掲載などを行った。

令和7年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	③ 私有林整備	14,630	14,630
2	⑩ 専門員の雇用	3,732	3,732
3	⑰ 基金積立（森林整備等）	709	709
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	19,071	19,071

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	森林公園等環境整備事業				
事 業 費	6,165,635 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,162,688		2,947

1. 事業の目的

健康づくりの一環として山歩きや森林浴など、町民が森林とふれあおうとする機運が高まってきている。御浜町には遊歩道を有する小高い山とそれに隣接する公園があり、多くの住民が利用している。遊歩道、公園及び東屋周辺を整備することで、住民が森林や緑とふれあう環境を身近なものにする。

2. 事業の実績

【事業内容】

寺谷総合公園内クマノザクラ植栽、支障木伐採・下刈り、浅間山遊歩道案内看板製作他

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

御浜町

【実施箇所及び箇所数】

御浜町大字阿田和地内ほか

3 箇所（寺谷総合公園、浅間山遊歩道、川瀬東屋周辺）

【事業量】

寺谷総合公園（支障木伐採、公園整備2.94ha、クマノザクラ植栽200本）

浅間山遊歩道（遊歩道整備0.39ha）

川瀬東屋（東屋周辺整備0.18ha）

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない	—	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

下刈りと支障木伐採は見積もりを徴した結果、最低価格業者を選定。

植栽は専門的な取り扱いのため、技術を有する業者を選定。

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	森林公園等環境整備事業				
事 業 費	6,165,635 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,162,688		2,947

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

町民や来訪者に利用される遊歩道及び公園を整備することで、多くの人が森林や緑と触れ合うことができる。寺谷公園を遠足先とする小学校もあり、また家族の利用者も多いため、地域の子供たちが森林にふれる環境を適切に維持することにつながる事が期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

クマノザクラ200本の植栽の一部を地域小学生を対象に植樹祭を開催し、直接緑に触れることで森林への関心を深めた。また、利用者を増やすため植樹祭や遊歩道の整備活動状況を広報で周知した。

【新たな対策・視点及び改善点】

寺谷総合公園にクマノザクラを200本植え、今後の管理が必要となってくるため、クマノザクラのメンテナンス時期に地域住民にも関わる機会をつくり、森林への関心を深めていくように取り組む。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	森林公園等利用者
期待する波及効果	安全に森林公園・遊歩道を利用できる、緑に触れる機会が増える。

【公的関与の必要性】

森林公園等環境整備、特に遊歩道の環境整備は利用者にとって安全に利用してもらうためには必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

管理者を配置し、定期的なメンテナンス・見回りを行う。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施前・後	県民税を利用したイベントの周知と結果を周知する
広報誌掲載	実施後	県民税を利用し設置した看板を周知し、利用を促す。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

クマノザクラ植樹祭の参加者から、クマノザクラが成長し咲き始める時期が楽しみという声があった。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林公園等環境整備事業
-----	-------------

6(1). 写真



写真1

クマノザクラ植樹祭参加者



写真2

クマノザクラ植樹作業

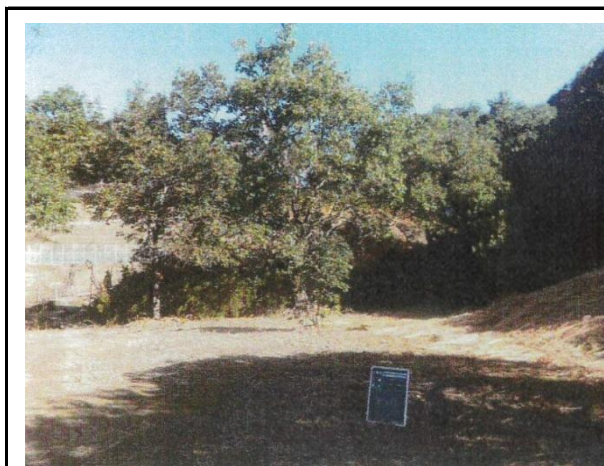


写真3

支障木伐採前

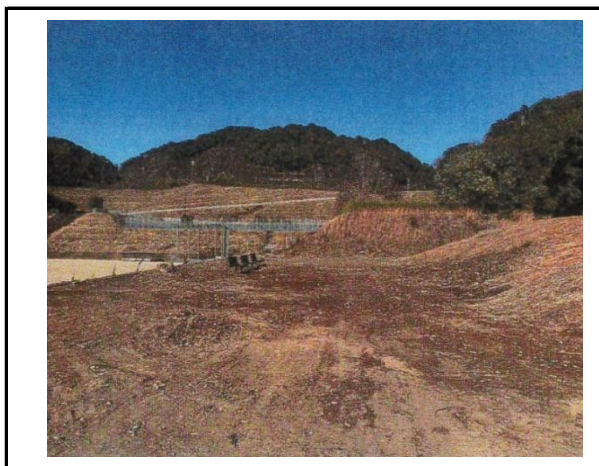


写真4

支障木伐採後



写真5

浅間山整備作業の参加者

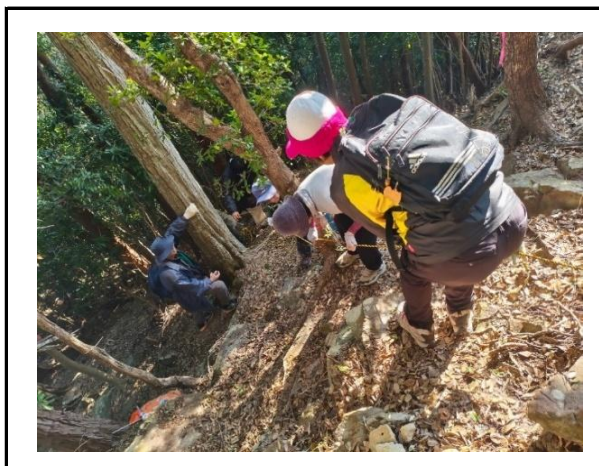


写真6

浅間山整備作業

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
2	イヌマキ保全事業				
事 業 費	137,312 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			137,312		

1. 事業の目的

神木のイヌマキは樹齢700年と推定されており、樹高21m、胸高周囲5.7mの巨木で、胸高周囲は全国2位となっている。また、三重県天然記念物の文化財に指定されており大変貴重な文化財でもあり、神木地区のお祭りなどで地域の方に親しまれている。近年、全体的に新芽が育たず数か所に枯れが発生しており、樹木医の簡易診断を受けたところ、一部の枯枝から周りに枯れが広がっていることや、周辺の土が砂利になっており、人の出入りなどで踏み固められていることから、土壌が固く根が十分な水分を吸収できていないことが診断されたため、土壌改良を行う。

2. 事業の実績

【事業内容】

周辺の土を1～2m程度掘削し、空気を多分に含んだ土に入れ替える土壌改良を行う。なお、重機を入れることは難しいため、手作業にて実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

御浜町教育委員会

【実施個所及び箇所数】

神木のイヌマキ

【事業量】

土壌改良1式

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	その他	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

植栽は専門的な取り扱いのため、技術を有する業者を選定。

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
2	イヌマキ保全事業				
事業費	137,312 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			137,312		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

地区住民協力のもとイヌマキの土壌改良を実施し、根に水分を吸収させイヌマキの状態を改善させることにより、文化財の保全と継承を図ることで神木地区の歴史や文化を次世代に継承することが期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

枯枝除去,土壌改良を実施した個所については、人が立ち入りしないよう対策.

【新たな対策・視点及び改善点】

枯枝除去, 土壌改良を実施した個所については、人が立ち入りしないよう対策.

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	森林公園等利用者
約50人	神木地区

【公的関与の必要性】

三重県天然記念物の文化財に指定されており大変貴重な文化財なため、必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

枯枝除去,土壌改良を実施した個所については、人が立ち入りしないよう対策

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	1 2 月	神木イヌマキについての歴史的価値について情報発信を実施。
のぼり設置	3 月	森とみどりの県民税を活用していることをPR

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

今後も保全活動について、継続的に協議していく。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	イヌマキ保全事業
-----	----------

6(1). 写真



写真1

イヌマキの土壌改良作業前



写真2

イヌマキの土壌改良作業中



写真3

イヌマキの土壌改良作業後

写真4

写真4

写真5

写真5

写真6

写真6

紀 宝 町

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和5年度版三重県市町要覧による）

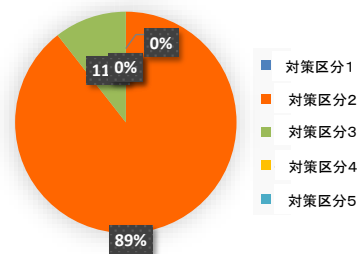
市町名	紀宝町	三重県
人口（人）	9,592	1,700,207
年少人口割合（％）＊1	10.6％	11.1％
森林面積(ha)	6,071.30	371,680.22
民有林面積(ha)＊2	6,026.59	348,212.01
森林率(％)	76.0％	64％
都市公園面積（㎡/人口）＊3	8	10.7

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	2	生活環境林整備事業	6,790,894	6,771,000		6,771,000			
2	3	森と緑の環境教育事業	800,000	800,000			800,000		
計			7,590,894	7,571,000	0	6,771,000	800,000	0	0

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	2.55ha	2,000,900	2,000,000	災害緩衝林実施個所周辺の調整伐、調査
災害からライフラインを守る事前伐採事業				
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	みえ森と緑の県民税市町交付金においては、森林環境譲与税を財源とした森林施策とすみ分けをおこないながら、町の森林主要施策としての重要財源と位置づけて活用していく。
事業実施により期待される効果	当町が公益性の判断のもと実施する事業においては、特定機能の維持を図るもののほか、生活道路や施設の利用者など多くの人々に影響を及ぼすものが多く、町民のみならず周辺の県民が恩恵を受けている。
情報発信への取組	各種集客イベントの際、県民税のPRをチラシの配布により行っている。また、登り旗の掲示も行った。その他、町ホームページ、役場庁舎内においてのパンフレットの配布などを実施。

令和7年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	② 意向調査	768	768
2	⑦ その他（森林整備）	4,542	4,542
3	③ 私有林整備	26,365	25,211
4	⑩ 専門員の雇用	700	700
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	32,375	31,221

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	生活環境林整備事業				
事 業 費	6,790,894 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,771,000		19,894

1. 事業の目的

公共施設の周辺や生活道路沿いの緑地・竹林等の整備や危険木等の伐採または枝下ろしすることにより、災害時等の倒木を未然に防ぎ、生活環境の向上を図る。

2. 事業の実績

【事業内容】

公共施設の周辺や生活道路沿いの緑地・竹林等の整備や危険木等の伐採及び枝下ろしを行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

紀宝町

【実施箇所及び箇所数】

町内10箇所 町有地、公共施設等

【事業量】

飯盛地区町有地支障木伐採250㎡、鵜殿地区町有地支障木伐採200㎡、井田小学校グラウンド支障木伐採60㎡、鵜殿地区自然公園内下草刈0.7ha、鵜殿地区自然公園内間伐0.44ha、大里地区（京城跡）緑地整備0.6ha、鵜殿地区ふるさと歴史公園下草刈0.6ha、町道沿支障木伐採3箇所

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		森林組合 7箇所 建設業者 3箇所

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

紀宝町内において、伐採、下草刈等森林整備の実績がある森林組合及び町建設業組合に加盟している業者を選定した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
1	生活環境林整備事業				
事業費	6,790,894 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,771,000		19,894

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

該当箇所の整備により、公共施設や生活道周辺等の環境が良好になる。災害時等の倒木の危険性が減る。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

集落周辺や通学路等に近接する森林において、危険木の伐採等を実施し、暮らしに身近な森林を整備することで、生活環境の保全や暮らしの安全性を確保することを優先的に選定を行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

住民からの要望も多く、事業効果が高いことから、今後も継続して事業に取り組んでいく。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	4地区（鶴殿、大里、井田、成川）の住民（7,752人）
期待する波及効果	該当箇所の整備により、公共施設や生活道周辺等の環境が良好になる。災害時等の倒木の危険性が減る。

【公的関与の必要性】

町有地の整備であるが、倒木等の危険性があり、住民生活に支障をきたす恐れのあるため、町で整備を実施した。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

危険木の伐採・緑地整備であり、皆伐等を考えていない為、転用制限等を考えていない。今後も森林所有者（町・個人）により適切に管理する。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	事業実施箇所
回覧板・掲示板	実施前	事業対象地区

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

生活道路の通行環境が良くなり、災害時等の危険が軽減され、竹林整備や緑地整備により景観もよくなった。

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

6の（1）. 写真



写真1

飯盛地区町有地支障木伐採（実施前）



写真2

飯盛地区町有地支障木伐採（実施中）

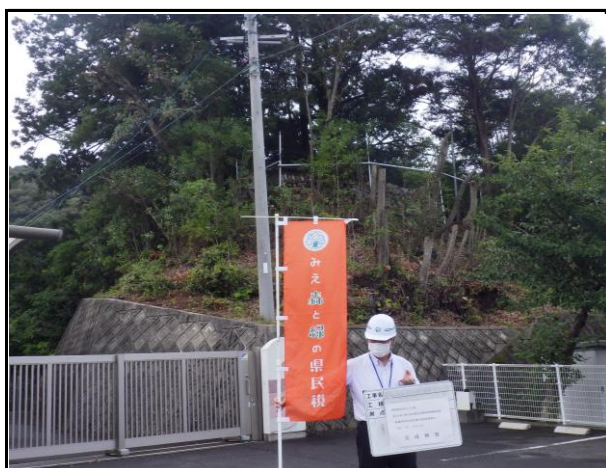


写真3

飯盛地区町有地支障木伐採（実施後）



写真4

鵜殿地区町有地支障木伐採（実施前）



写真5

鵜殿地区町有地支障木伐採（実施中）



写真6

鵜殿地区町有地支障木伐採（実施後）

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

6の(1).写真



写真1

井田小学校グラウンド支障木伐採（実施前）



写真2

井田小学校グラウンド支障木伐採（実施中）



写真3

井田小学校グラウンド支障木伐採（実施後）



写真4

鵜殿地区自然公園下草刈（実施前）



写真5

鵜殿地区自然公園下草刈（実施中）



写真6

鵜殿地区自然公園下草刈（実施後）

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

6の(1).写真

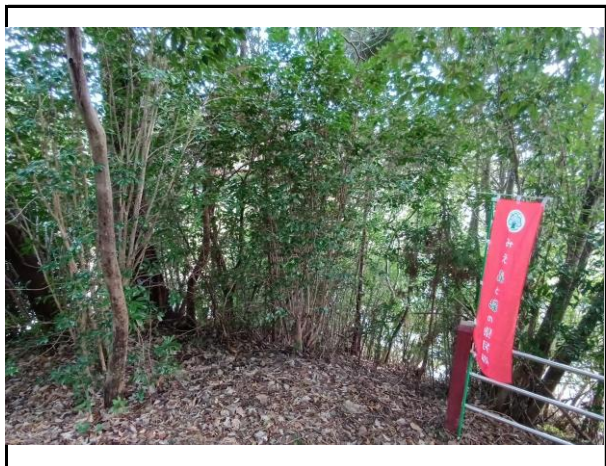


写真1

鶴殿地区自然公園内間伐（実施前）



写真2

鶴殿地区自然公園内間伐（実施中）



写真3

鶴殿地区自然公園内間伐（実施後）



写真4

大里地区（京城跡）緑地整備（実施前）



写真5

大里地区（京城跡）緑地整備（実施中）



写真6

大里地区（京城跡）緑地整備（実施後）

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

6の（1）. 写真



写真1

鵜殿地区ふるさと歴史公園下草刈（実施前）



写真2

鵜殿地区ふるさと歴史公園下草刈（実施中）



写真3

鵜殿地区ふるさと歴史公園下草刈（実施後）



写真4

町道阪松原線倒木撤去工事（実施前）

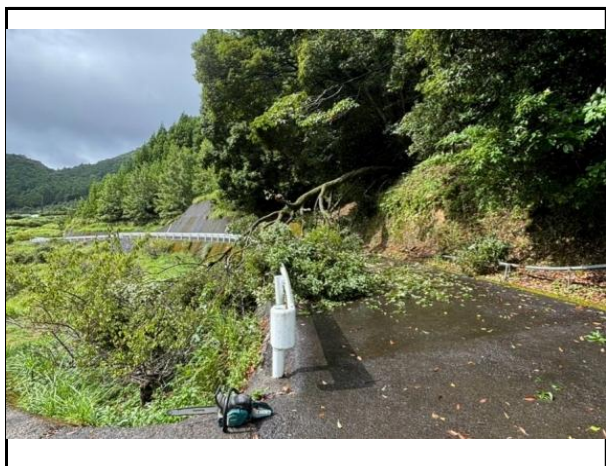


写真5

町道阪松原線倒木撤去工事（実施中）



写真6

町道阪松原線倒木撤去工事（実施後）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

6の(1). 写真



写真1
町道山路線支障木伐採工事（実施前）



写真2
町道山路線支障木伐採工事（実施中）



写真3
町道山路線支障木伐採工事（実施後）

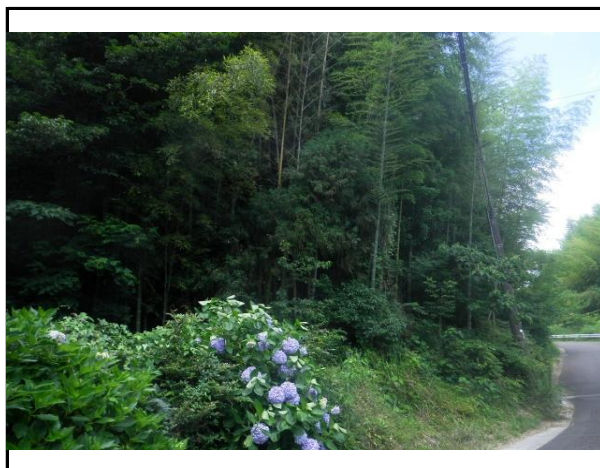


写真4
町道上野の3線支障木伐採工事（実施前）

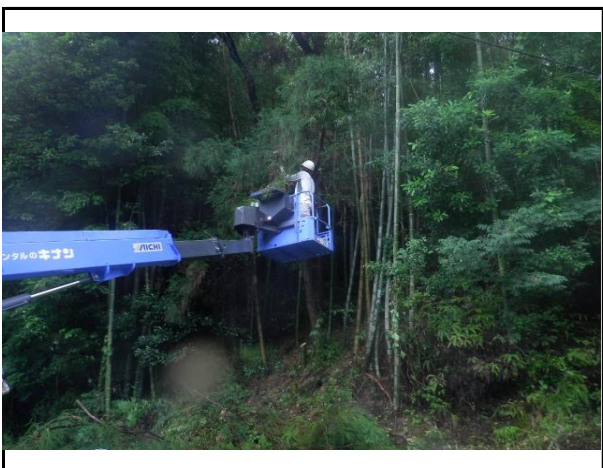


写真5
町道上野の3線支障木伐採工事（実施中）

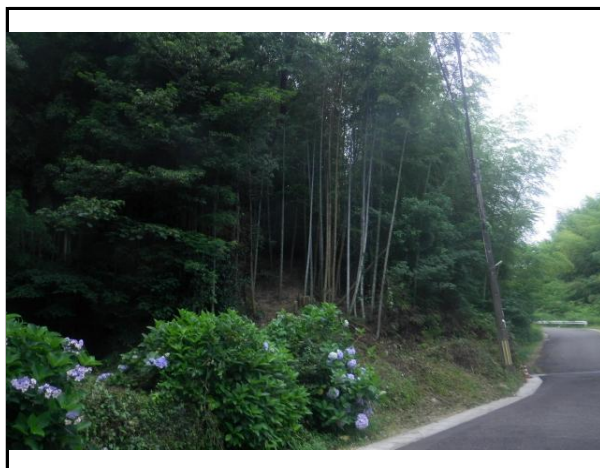


写真6
町道上野の3線支障木伐採工事（実施後）

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	森と緑の環境教育事業				
事 業 費	800,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			800,000		

1. 事業の目的

子どもから大人まで多くの町民の方々に、森や緑について学び、ふれあう機会を提供することにより、身近にある自然の魅力を再発見し、森や緑を守り育てることの大切さを、より一層理解していただくことを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

森や緑について学ぶ機会を提供することにより、身近な自然の魅力を再発見し、森や緑を守り育てることの大切さを、より一層理解していただくことができるよう、森や緑にまつわる絵本原画展や講演会、映画上映会などの環境学習講座やワークショップを行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

紀宝町教育委員会

【実施個所及び箇所数】

該当なし

【事業量】

講演会2回、絵本原画展1回、絵本ライブ1回、映画上映会1回、ワークショップ2回、県民税のパネルと森と緑に関する本展示1回

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	その他	補助事業ではない		民間業者に委託

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

事業目的に適した講師を選定。過去実績があるなど、様々なノウハウを持っている事業者を選定した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	森と緑の環境教育事業				
事 業 費	800,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			800,000		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

森や緑について学び、身近にある自然の魅力を再発見することにより、子どもから大人まで多くの町民の方々に、森や緑を守り育てることの大切さを理解していただけることが期待できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

各イベントだけでなく森林等への関心を持っていただくよう県民税や森林に対する想いを聞き取るアンケートを実施、また参加者全員に県民税のパンフレットと啓発グッズを配布することにより周知に努めた。

【新たな対策・視点及び改善点】

多くの方から継続の要望があり、各イベント毎のアンケート等を今後の講座内容の選定に反映させていく。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	各講演会等参加者 延べ288名
期待する波及効果	森林の持つ多面的機能や地元産材について理解を深める。

【公的関与の必要性】

町民に森林の大切さを伝える貴重な機会であり、町（行政）が行うのが適当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	イベント会場内に設置
啓発物品配布	実施中	イベント参加者全員に配布
アンケート実施	実施中	イベント参加者全員にアンケート用紙を配布
チラシ等配布	実施前	イベント案内チラシに県民税を使用した事業と明記し、県民税についての説明文も記載、紀宝町内全戸に配布
パネル展示	実施中	会場内にパネル展示を設置

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

参加者からの評判も良く、今後も継続して同じような取り組みをしてほしいとの声が多く寄せられている。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と緑の環境教育事業
-----	------------

6の（1）. 写真

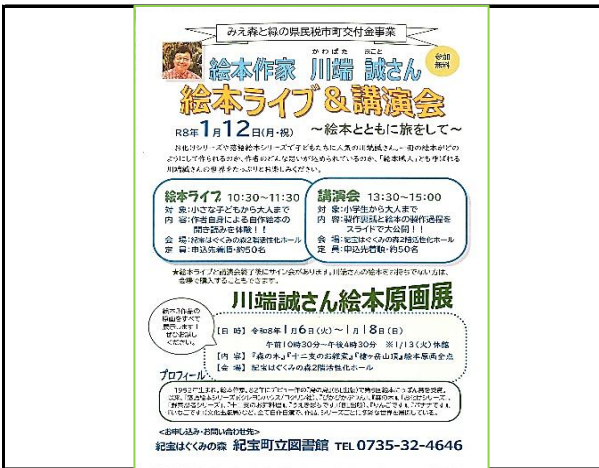


写真1
絵本作家・川端誠さん絵本ライブ&講演会 & 絵本原画展PR活動チラシ 町内全戸配布

写真2
絵本作家・川端誠さん絵本原画展
(R8. 1. 6~1. 18) 参加人数：179名



写真3
絵本作家・川端誠さん絵本ライブ&講演会
(R8. 1. 12) 参加人数：54名

写真4
県民税パネル展示と森と緑に関する本展示
(R8. 3. 3~3. 25)

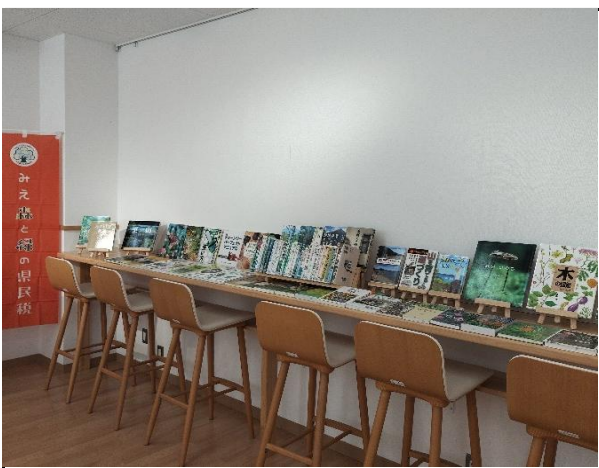


写真5
県民税パネル展示と森と緑に関する本展示
(R8. 3. 3~3. 25)

写真6
県民税パネル展示と森と緑に関する本展示
(R8. 3. 3~3. 25)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と緑の環境教育事業
-----	------------

6の(1). 写真



写真1
ECフィルム上映会&背守りワークショップPR活動チラシ（表） 町内全戸配布

写真2
ECフィルム上映会&背守りワークショップPR活動チラシ（裏） 町内全戸配布



写真3
木が支える暮らしがテーマの映画上映とワークショップ（R8. 3. 22） 参加人数：14名

写真4
木が支える暮らしがテーマの映画上映とワークショップ（R8. 3. 22） 参加人数：14名

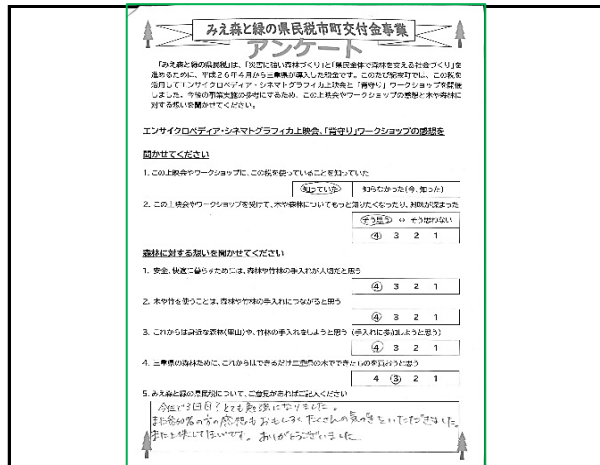


写真5
植物の印などの背守りを作成するワークショップ（R8. 3. 22） 参加人数：7名

写真6
ECフィルム上映会&背守りワークショップ（アンケート）